

## 14. Deterministic Random Walk

---

**来嶋 秀治**

滋賀大学 データサイエンス学部

## 計算機科学のMCMC法

FPRAS

“Valiant計画” (since 1979)

#P困難な $A \in \mathbb{R}$ に対して, 近似解 $Z \in \mathbb{R}$ を精度

$$\Pr[(1 - \epsilon)A \leq Z \leq (1 + \epsilon)A] \geq 1 - \delta$$

で多項式時間( $\text{poly}(\text{input}, \epsilon^{-1}, \log \delta^{-1})$ )で求められるか?

そもそも, 乱数は必須か?

## 高次元多面体の体積計算の決定性近似

Lovász [1986]

“membership oracle で与えられた  $n$ 次元凸体の体積一般に対して、  
近似比  $1.999^n$  の**決定性**多項式時間アルゴリズムは**存在しない**。”

# 高次元多面体の体積計算の決定性近似

Lovász [1986]

“membership oracle で与えられた  $n$ 次元凸体の体積一般に対して、  
近似比  $1.999^n$  の**決定性**多項式時間アルゴリズムは**存在しない**。”

乱択近似 (1980~)

- ✓ Jerrum, Valiant, Vazirani (1986): 近似数え上げ  $\approx$  ランダムサンプリング
- ✓ Toda (1991):  $PH \subseteq P^{\#P}$  (Gödel賞)
- ✓ Dyer, Frieze, Kanna (1991): 高次元凸体体積の**乱択**近似可能 (Fulkerson賞)
- ✓ Jerrum, Sinclair, Vigoda (2004): パーマネントの**乱択**近似可能 (Fulkerson賞)

# 高次元多面体の体積計算の決定性近似

Lovász [1986]

“membership oracle で与えられた  $n$ 次元凸体の体積一般に対して、  
近似比  $1.999^n$  の**決定性**多項式時間アルゴリズムは**存在しない**。”

乱択近似 (1980～)

- ✓ Jerrum, Valiant, Vazirani (1986): 近似数え上げ  $\approx$  ランダムサンプリング
- ✓ Toda (1991):  $PH \subseteq P^{\#P}$  (Gödel賞)
- ✓ Dyer, Frieze, Kanna (1991): 高次元凸体体積の**乱択**近似可能 (Fulkerson賞)
- ✓ Jerrum, Sinclair, Vigoda (2004): パーマネントの**乱択**近似可能 (Fulkerson賞)

決定性近似 (話者の研究 2008～)

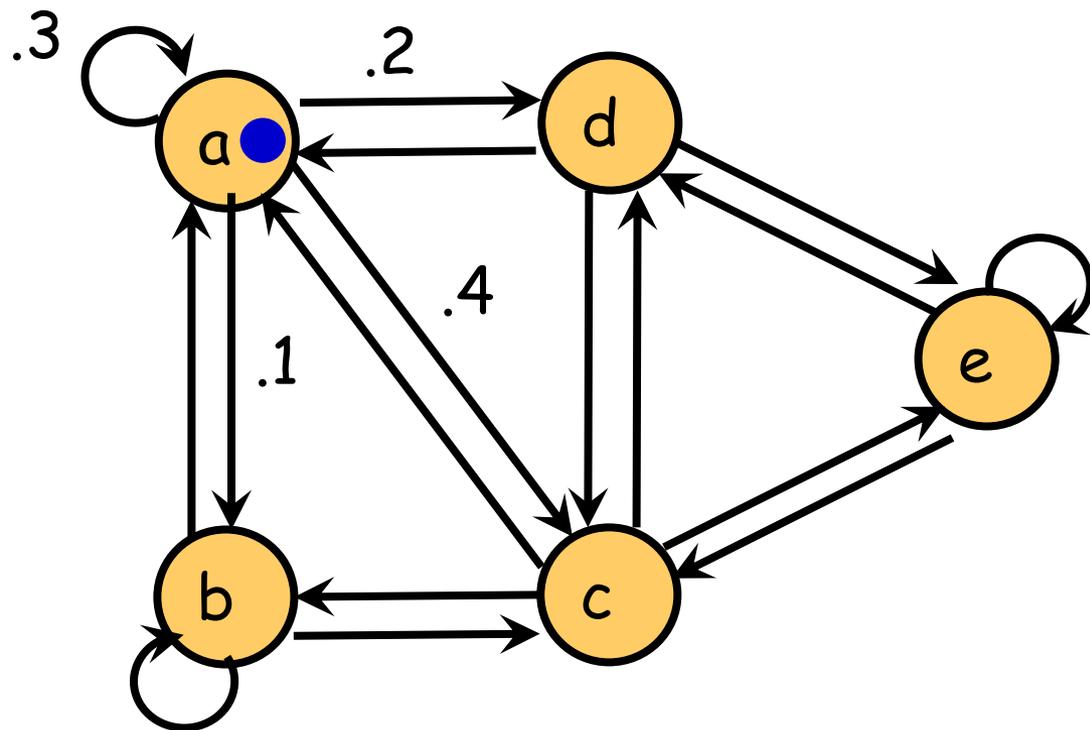
- ✓ #P困難な体積計算に対する**決定性近似 (FPTAS)**
  - **ナップサック多面体** (**H多面体**: 線形不等式系で記述される多面体)
  - **‘双対’ナップサック多面体** (**V多面体**: 端点集合で記述される多面体)
- ✓ Deterministic random walk
  - マルコフ連鎖 (MCMC) を決定性過程に置き換えられるか？

# 決定性ランダムウォーク

## ランダムウォーク

トークンがグラフ上をランダムウォークする。

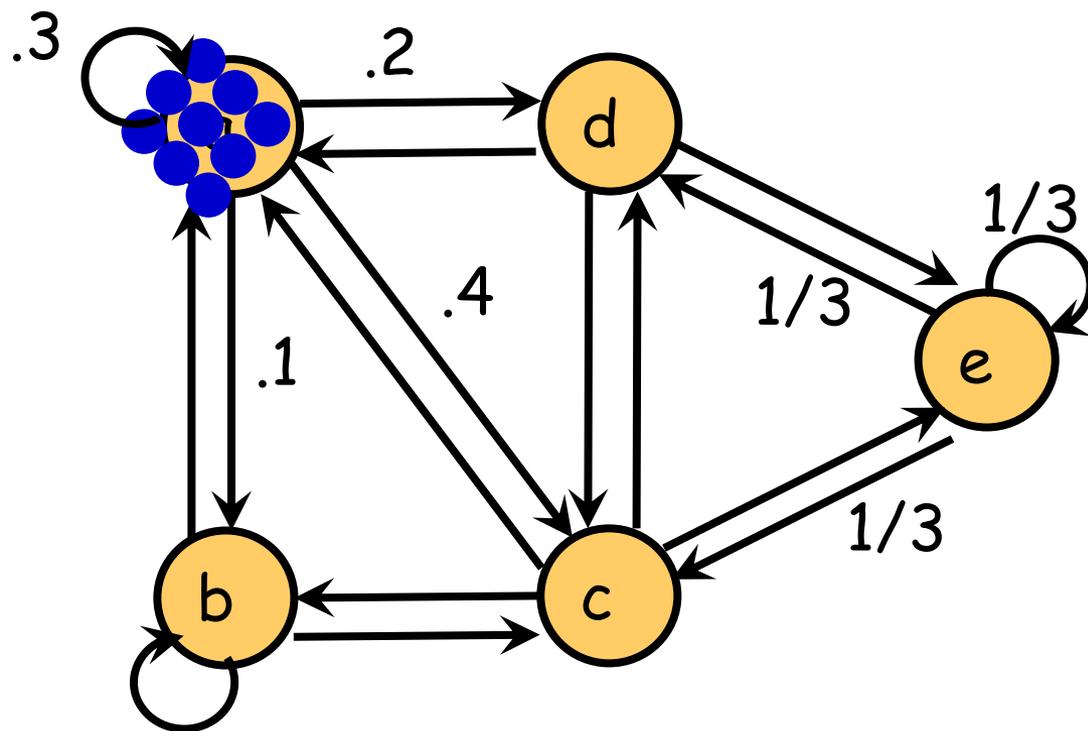
- ✓  $\pi^0$ : 初期分布 (トークンは確率 $\pi_v^0$ で頂点 $v$ に居る)
- ✓  $P$ : 推移確率行列 (確率 $P_{uv}$ で頂点 $u$ 頂点 $v$ に移動)
- ✓ 時刻 $t$ の確率分布 $\pi^t := \pi^0 P^t$  (頂点 $v$ に居る確率 $(\pi^t)_v$ )



## ランダムウォーク (複数トークンによる分布の近似)

$N$ 個のトークンがグラフ上を独立にランダムウォークする。

- ✓  $\mu^0$ : 初期配置 ( $\pi^0 \approx \mu^0/N$ )
- ✓  $P$ : 推移確率行列 (確率 $P_{uv}$ で頂点 $u$ 頂点 $v$ に移動)
- ✓ 時刻 $t$ の期待配置  $\mu^t := \mu^0 P^t$  ( $\pi^t \approx \mu^t/N$ )



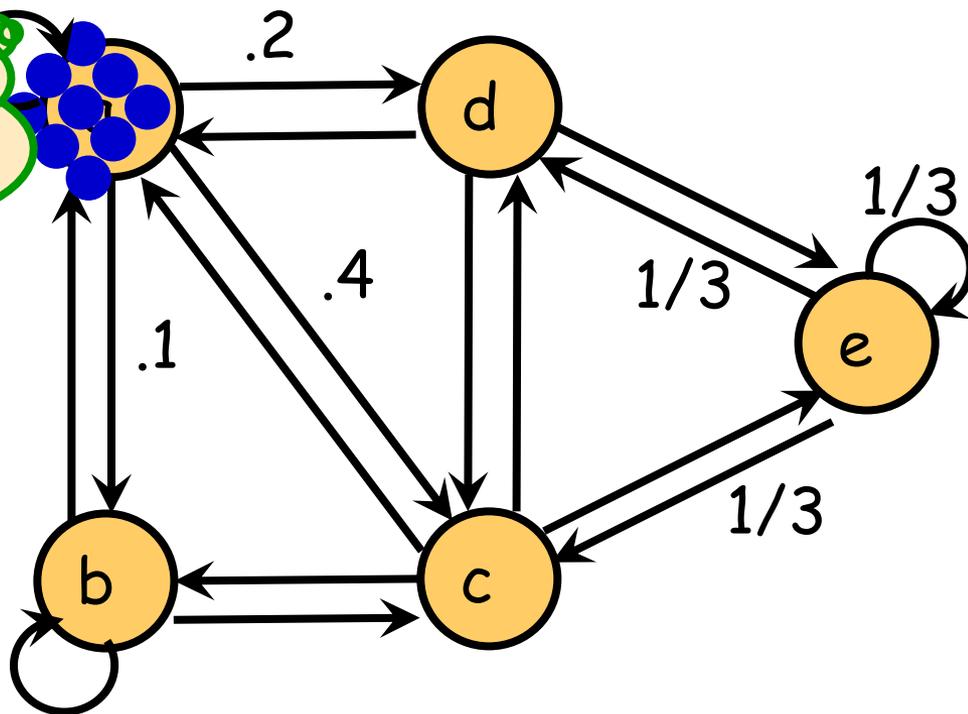
## ランダムウォーク (複数トークンによる分布の近似)

$N$ 個のトークンがグラフ上を独立にランダムウォークする。

- ✓  $\mu^0$ : 初期配置 ( $\pi^0 \approx \mu^0/N$ )
- ✓  $P$ : 推移確率行列 (確率 $P_{uv}$ で頂点 $u$ 頂点 $v$ に移動)
- ✓ 時刻 $t$ の期待配置  $\mu^t := \mu^0 P^t$  ( $\pi^t \approx \mu^t/N$ )

( $N$ が非常に大きければ、)  
トークンを約2:4:1:3の割合で  
隣接点にばらまいている。

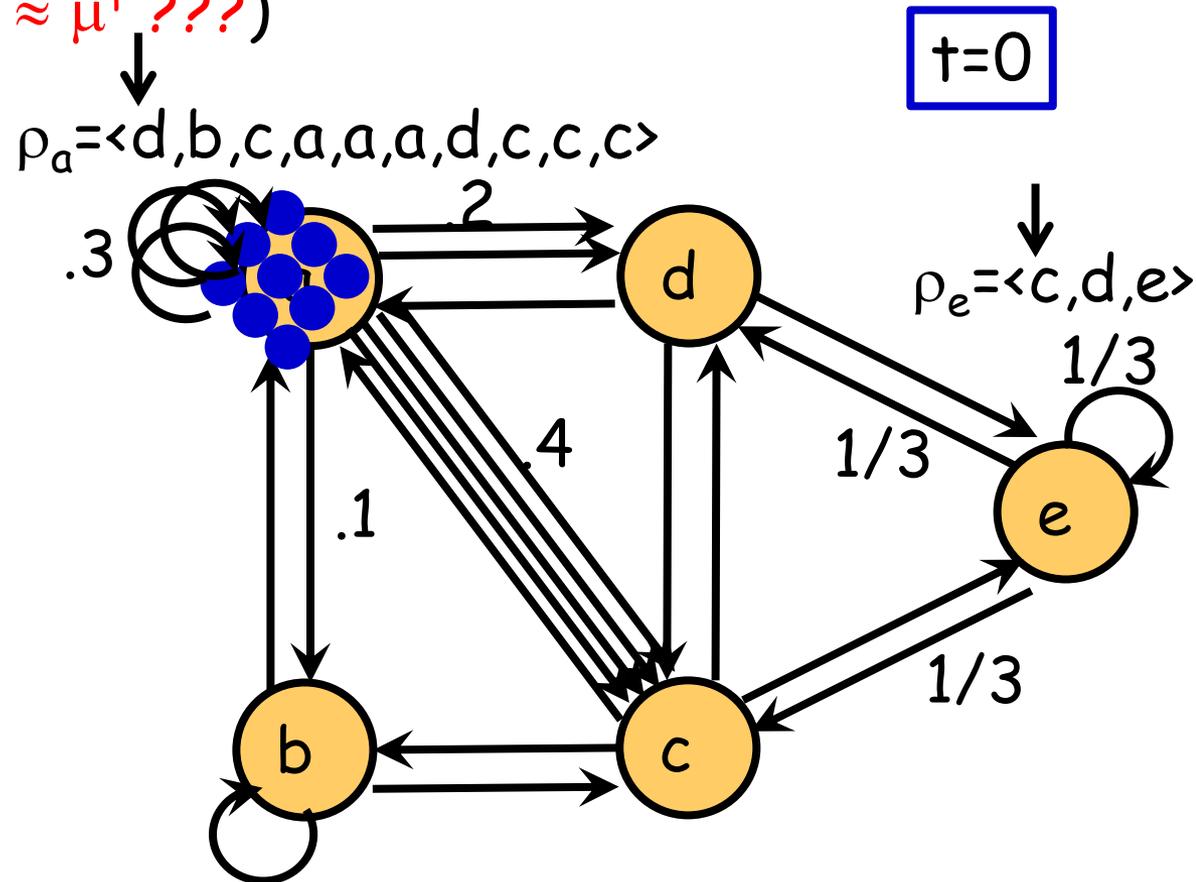
決定的過程でも大差ない?



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する。

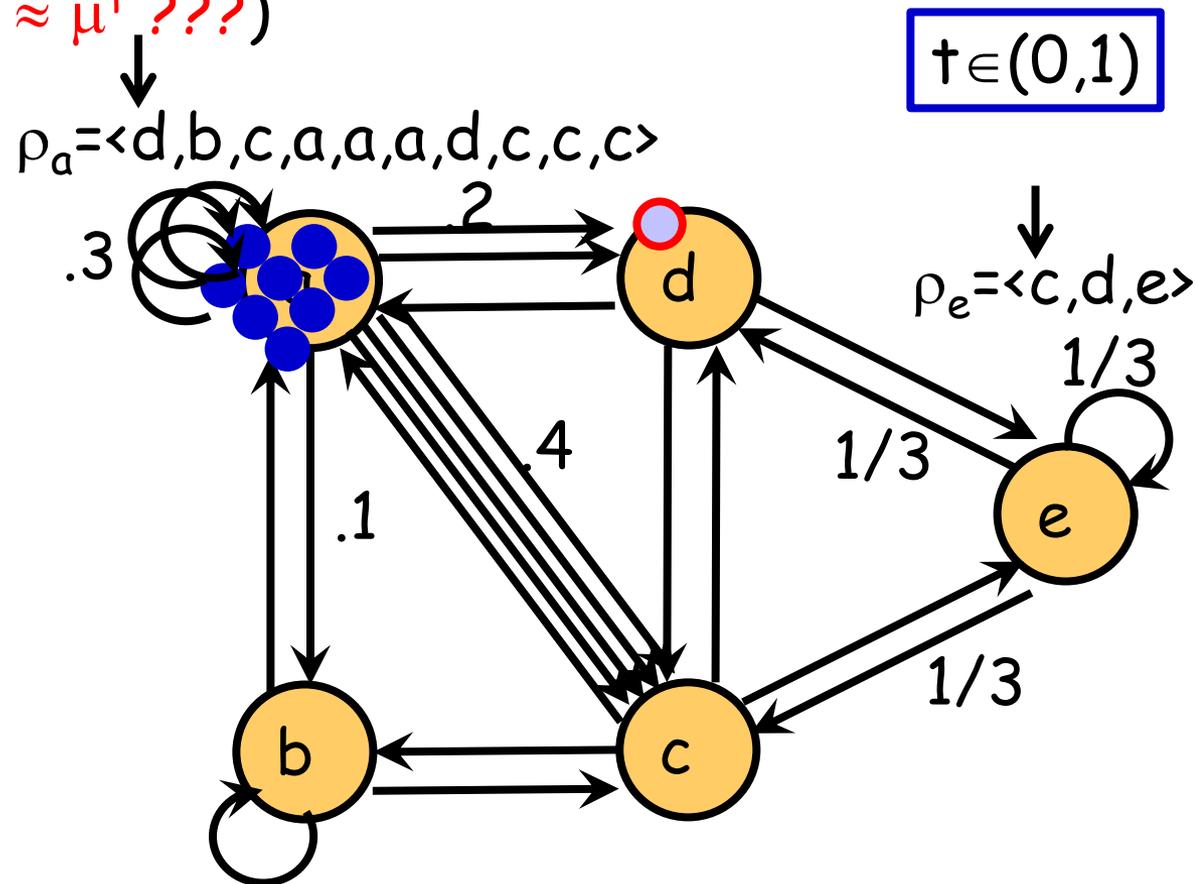
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する.

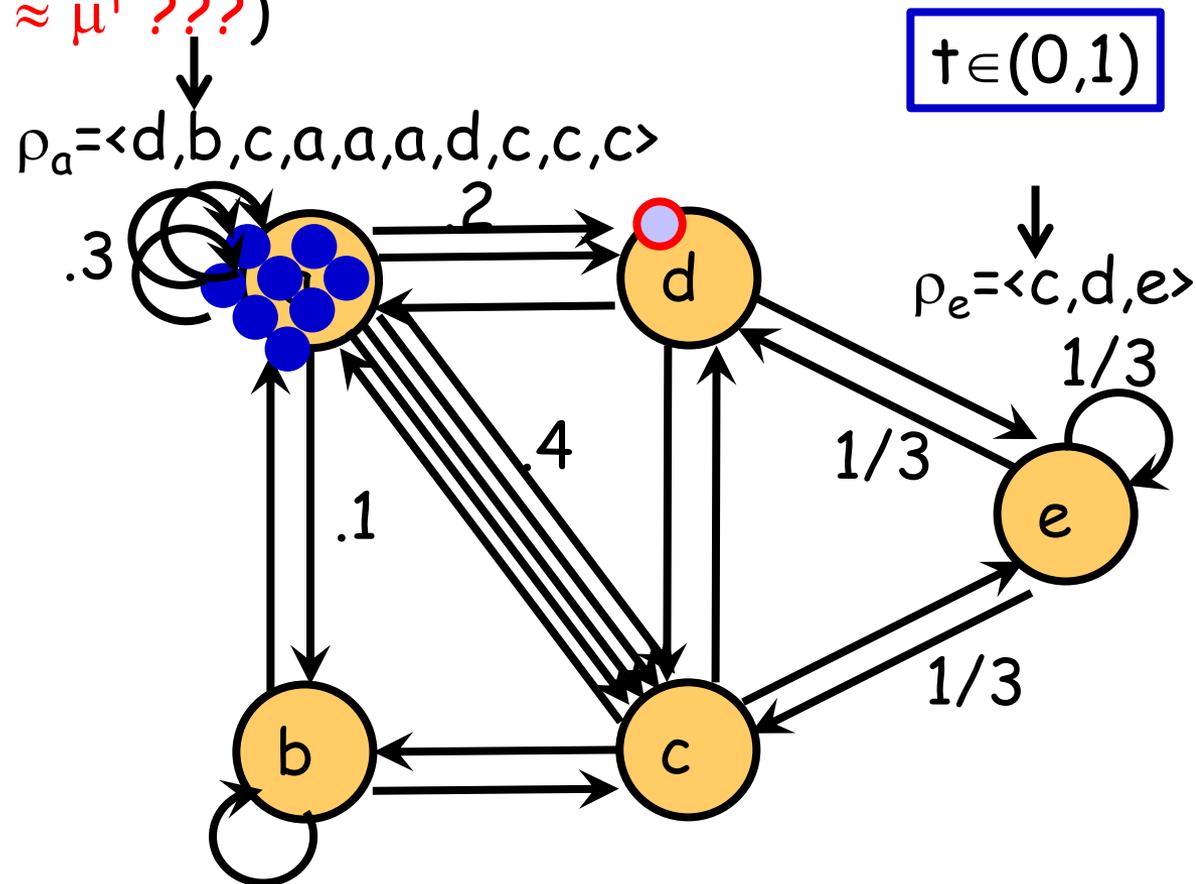
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する.

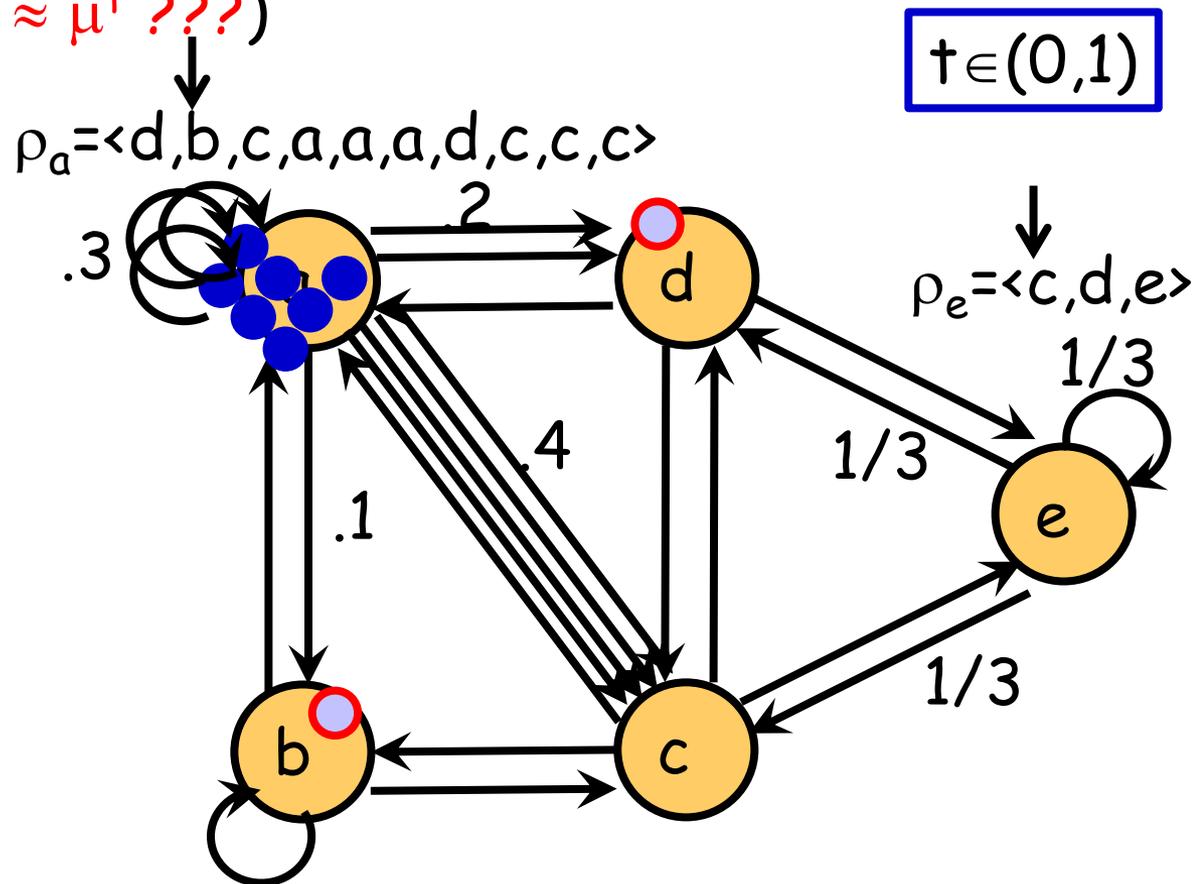
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する.

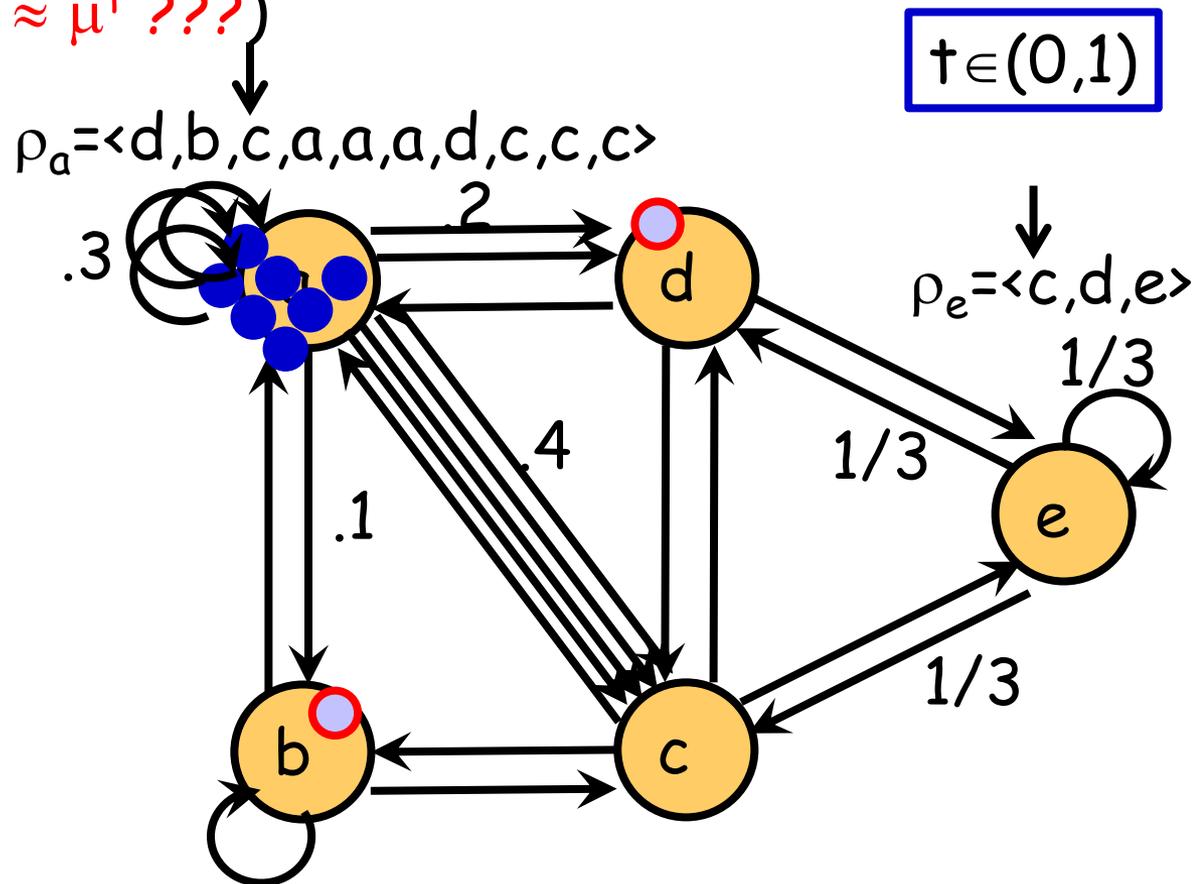
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する.

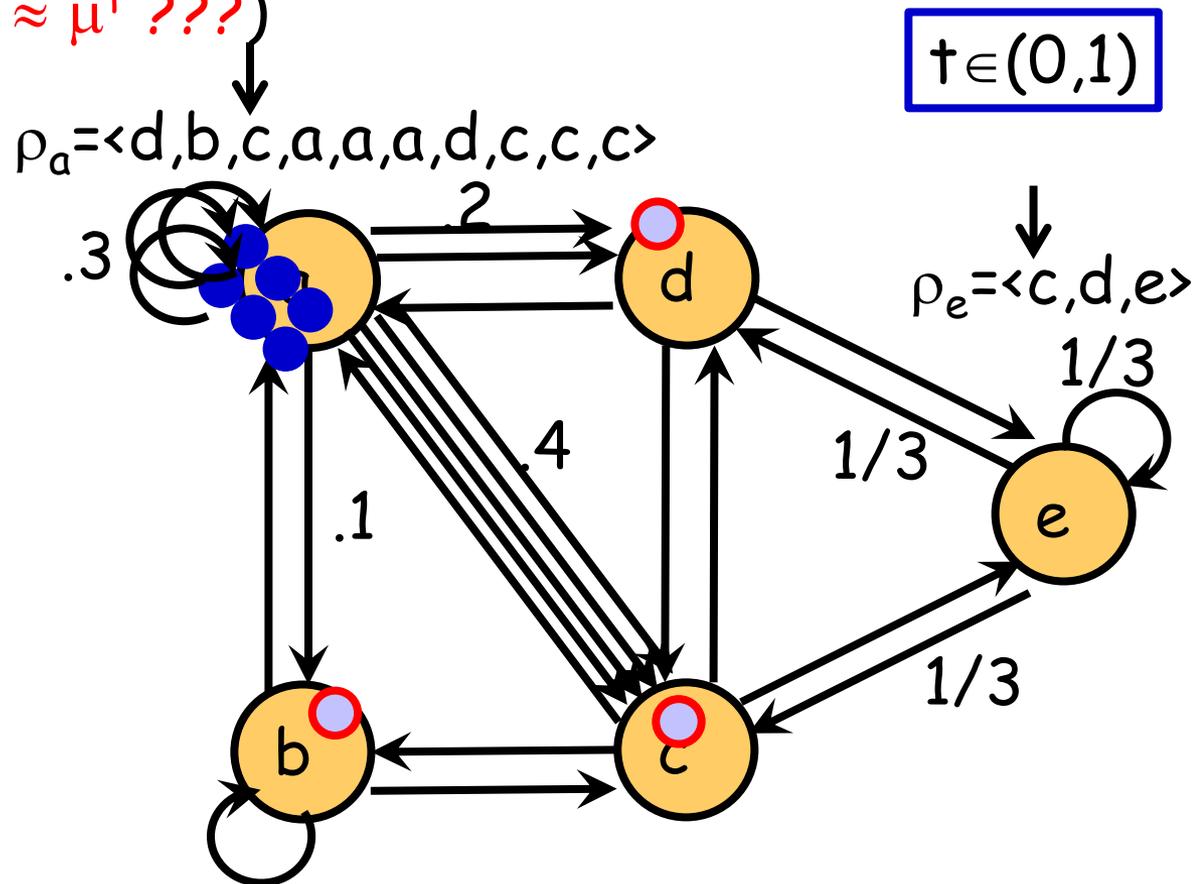
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する。

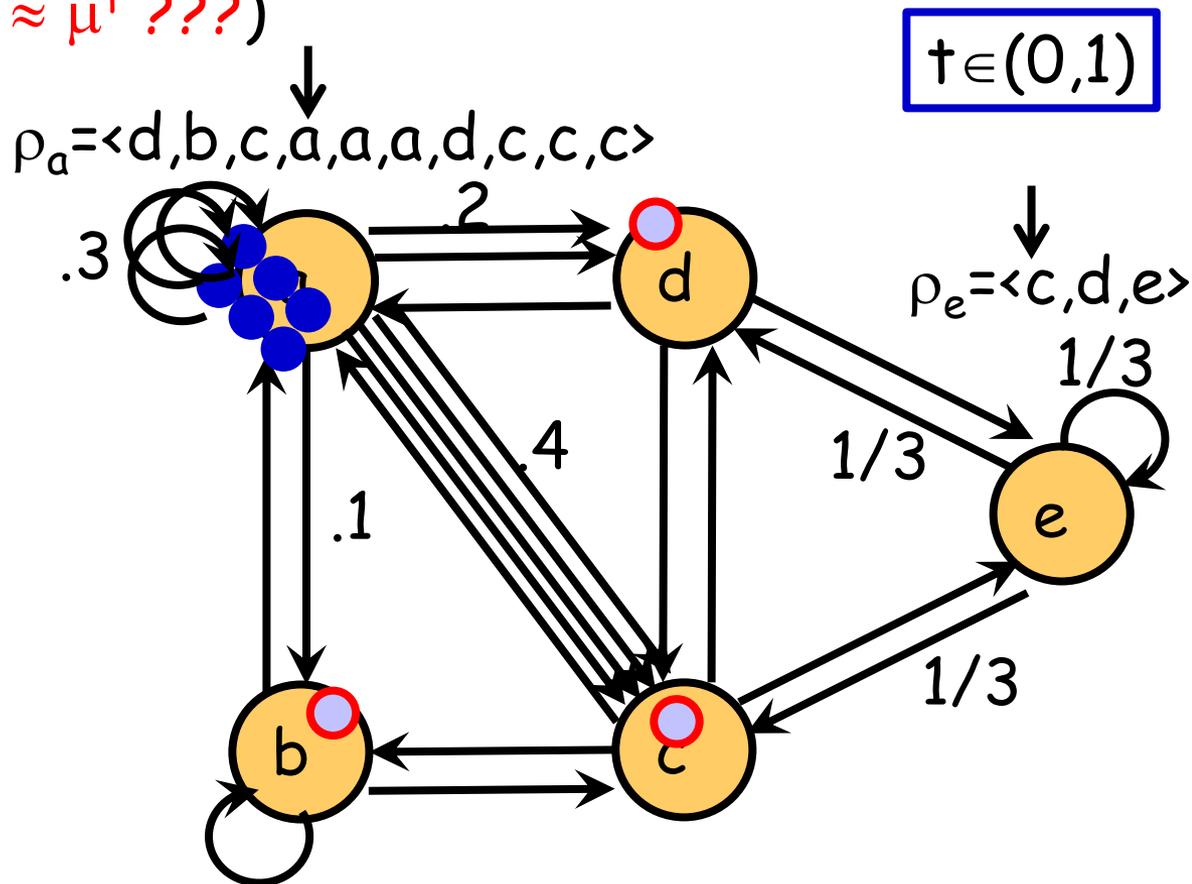
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する.

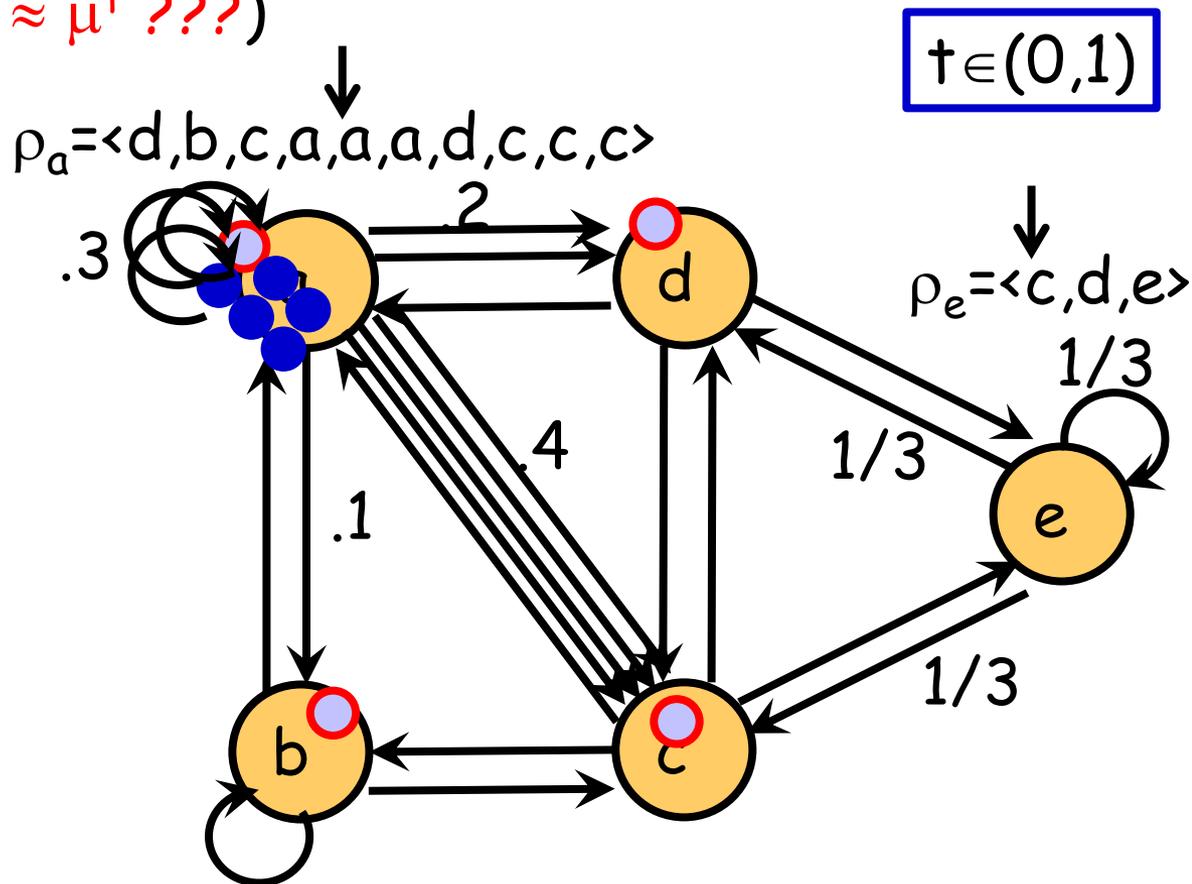
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する.

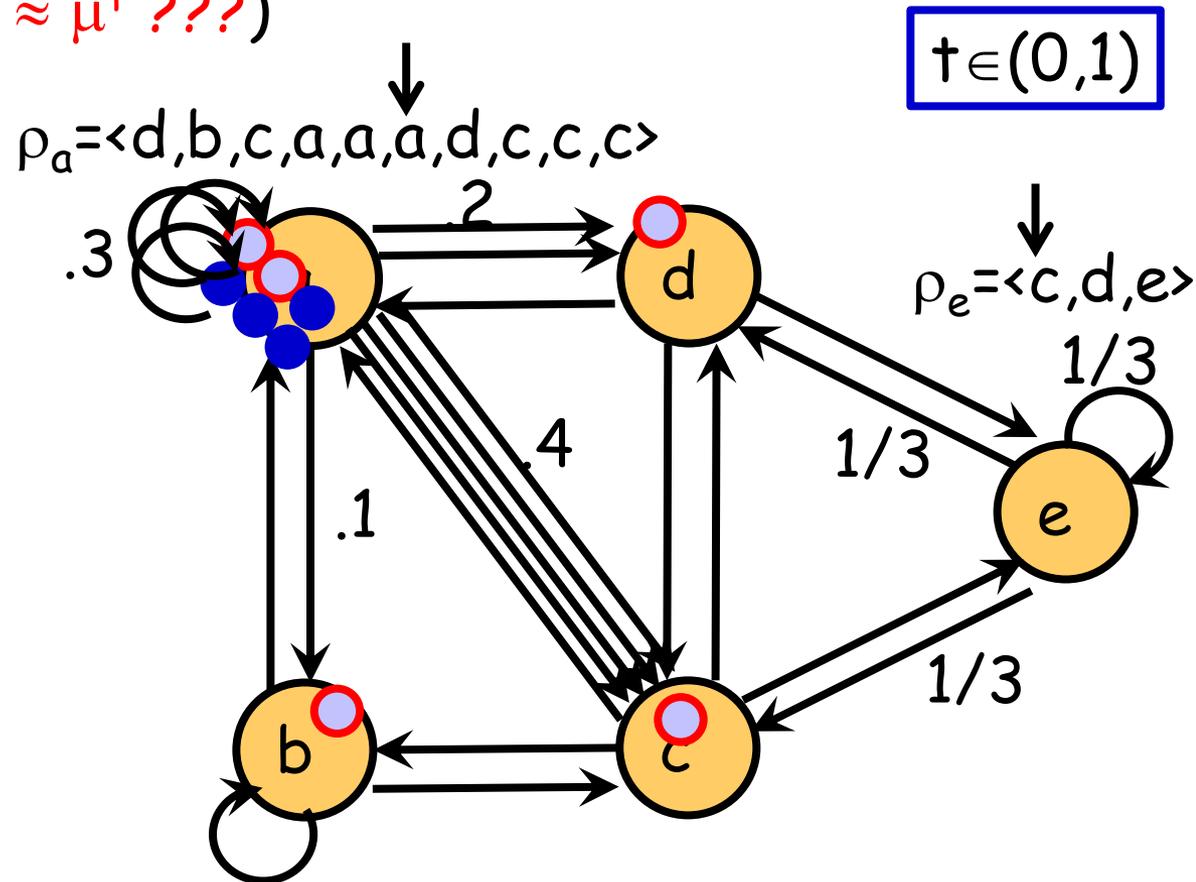
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する.

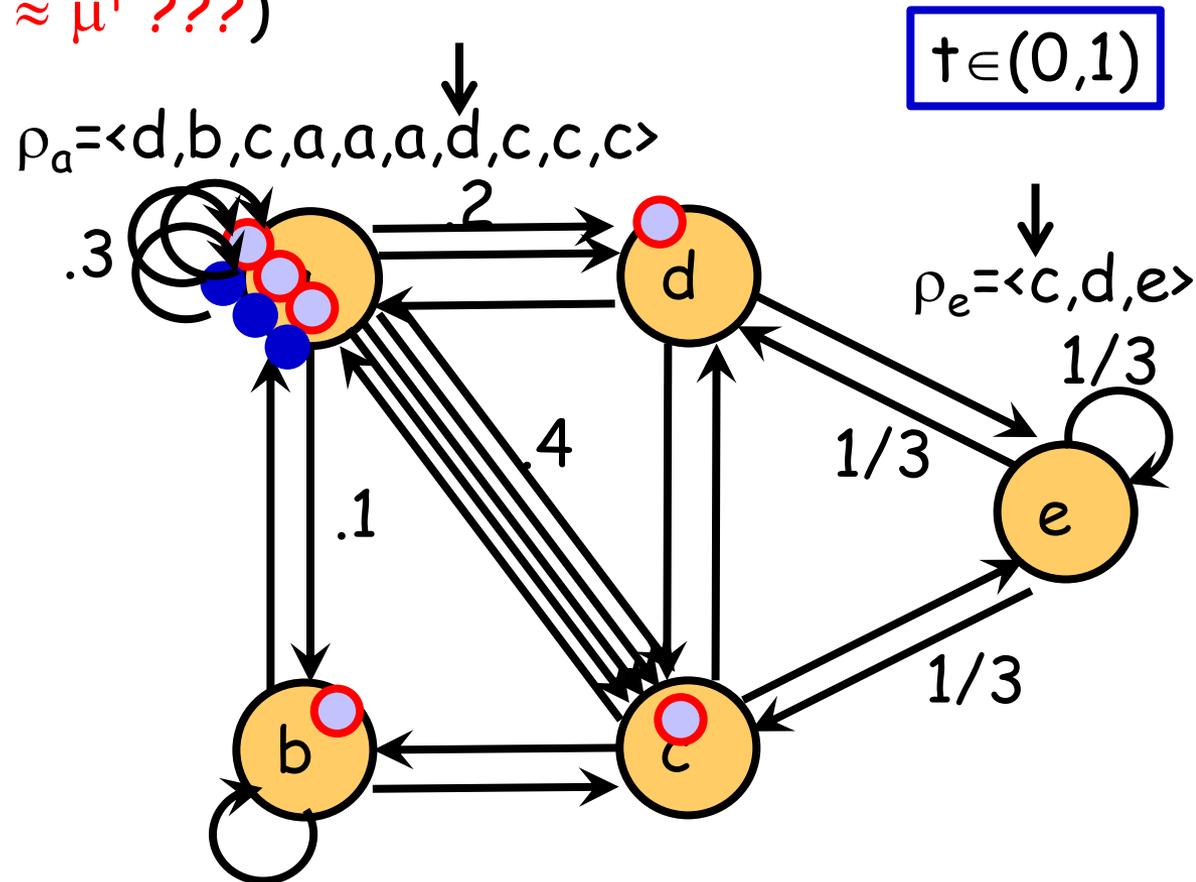
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する.

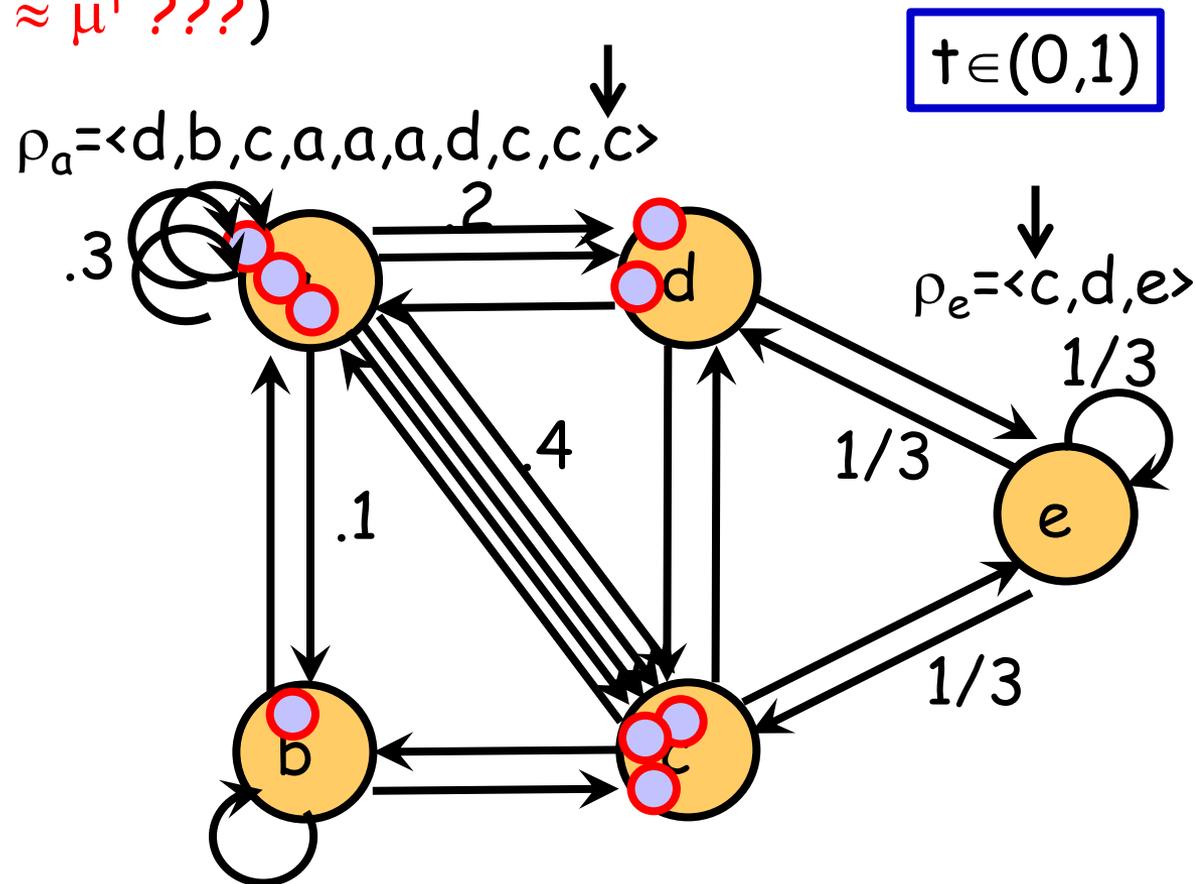
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する.

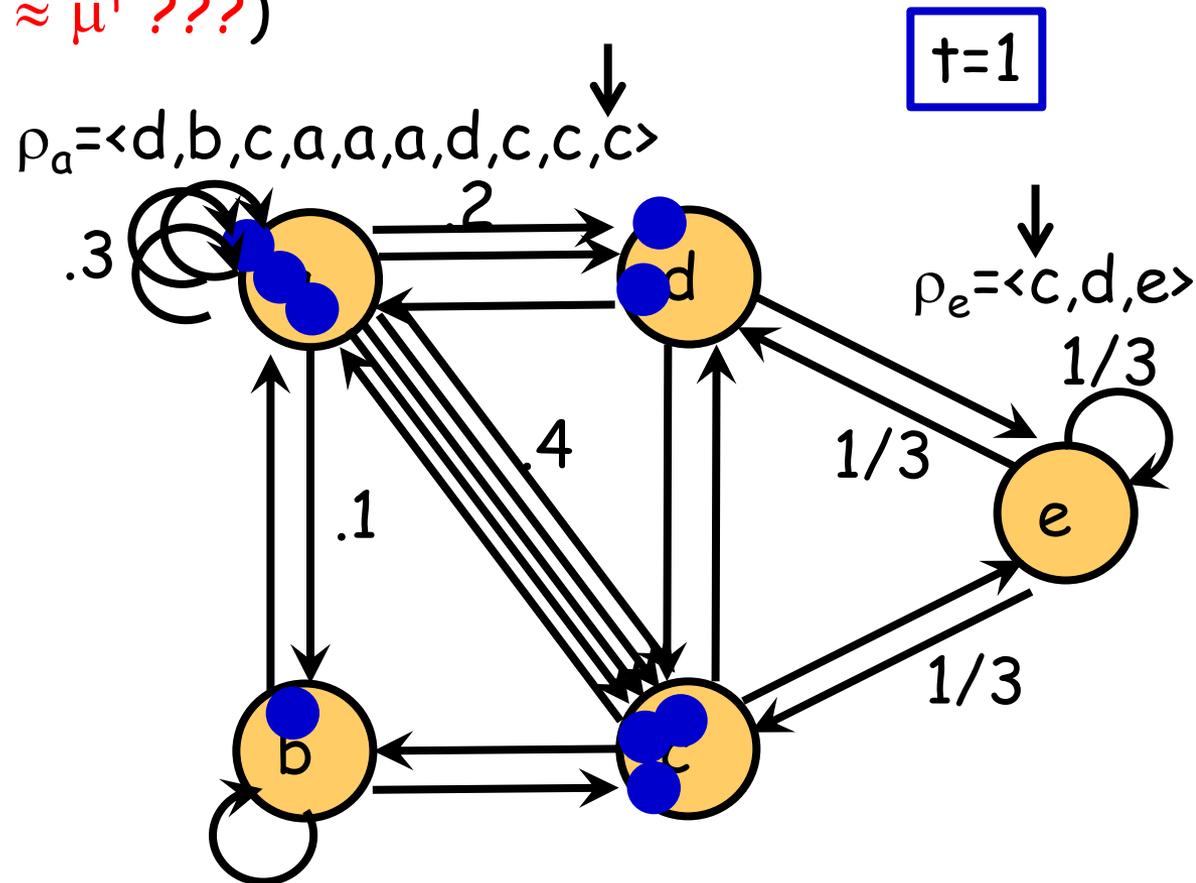
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する。

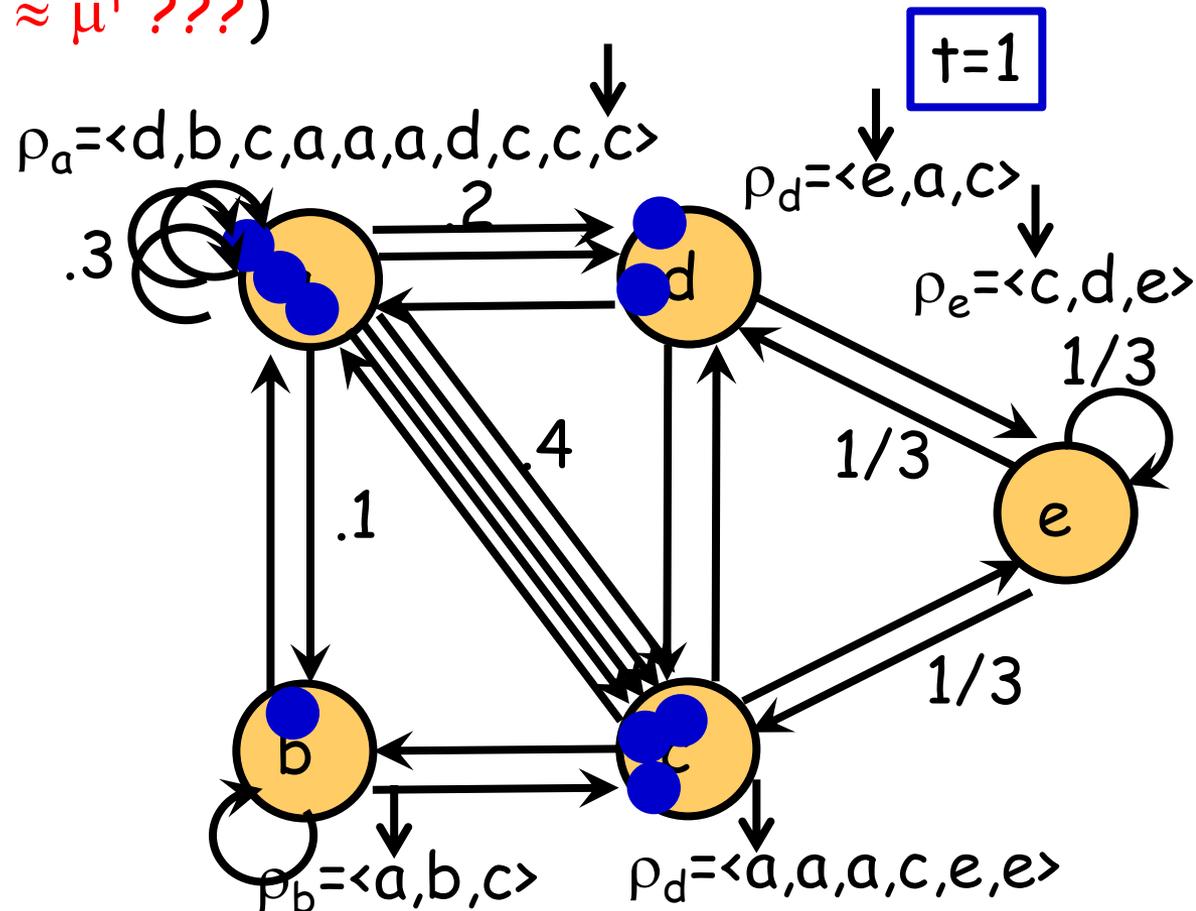
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する。

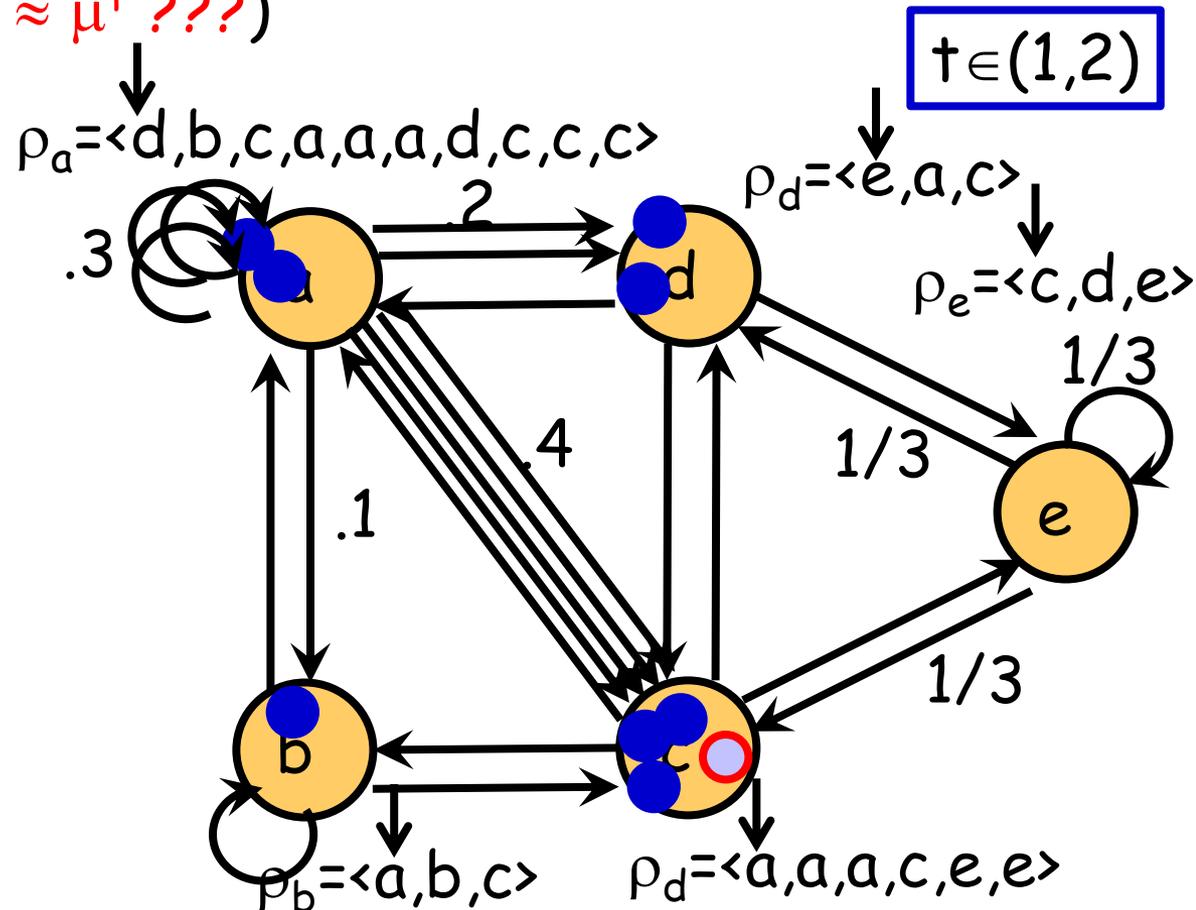
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する。

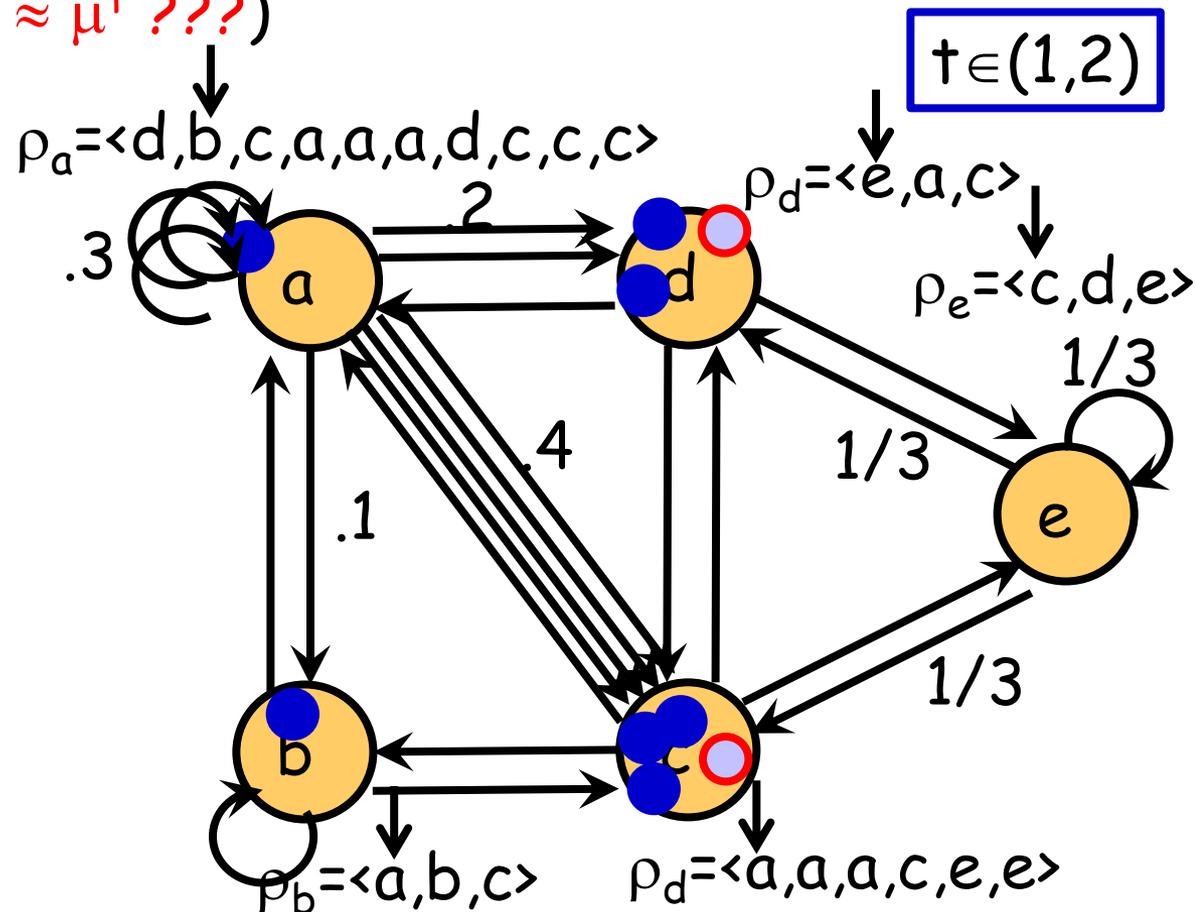
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する。

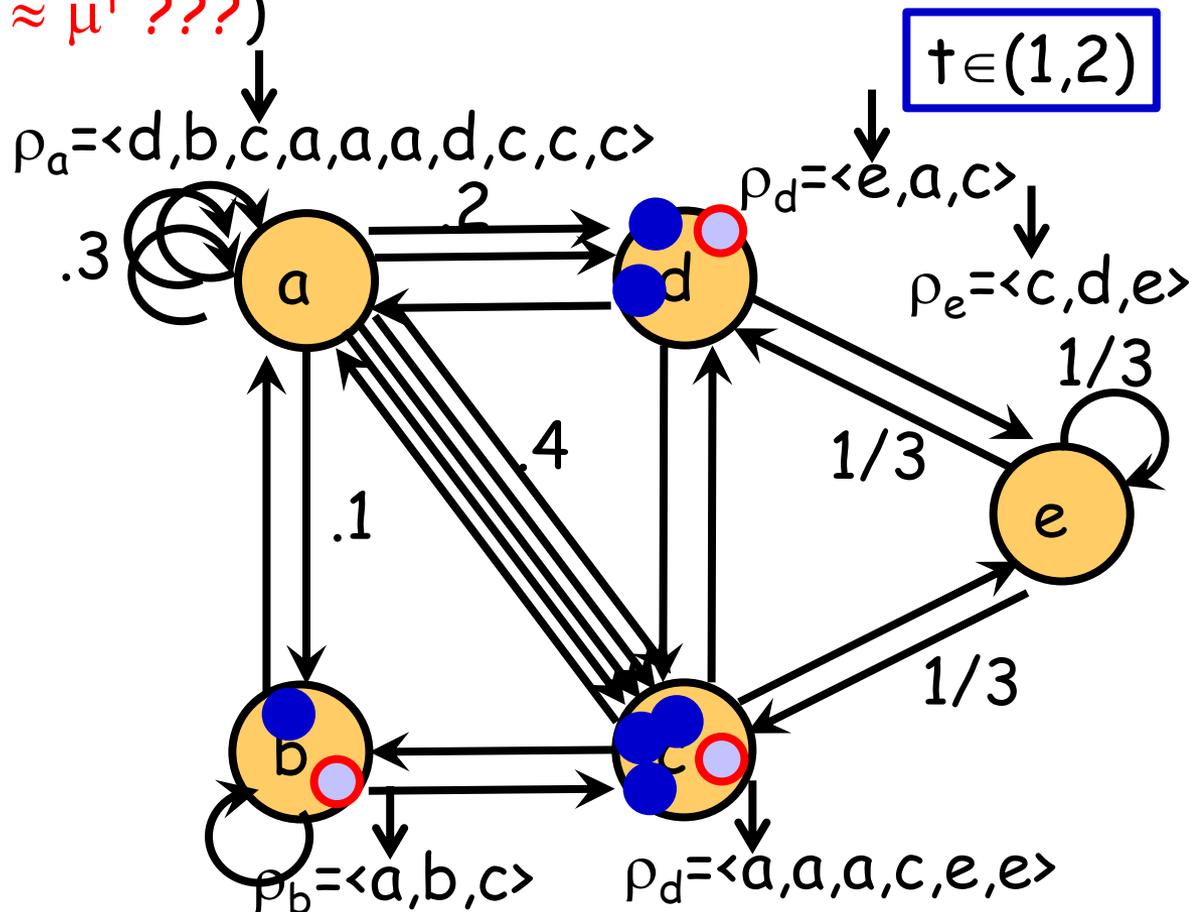
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する。

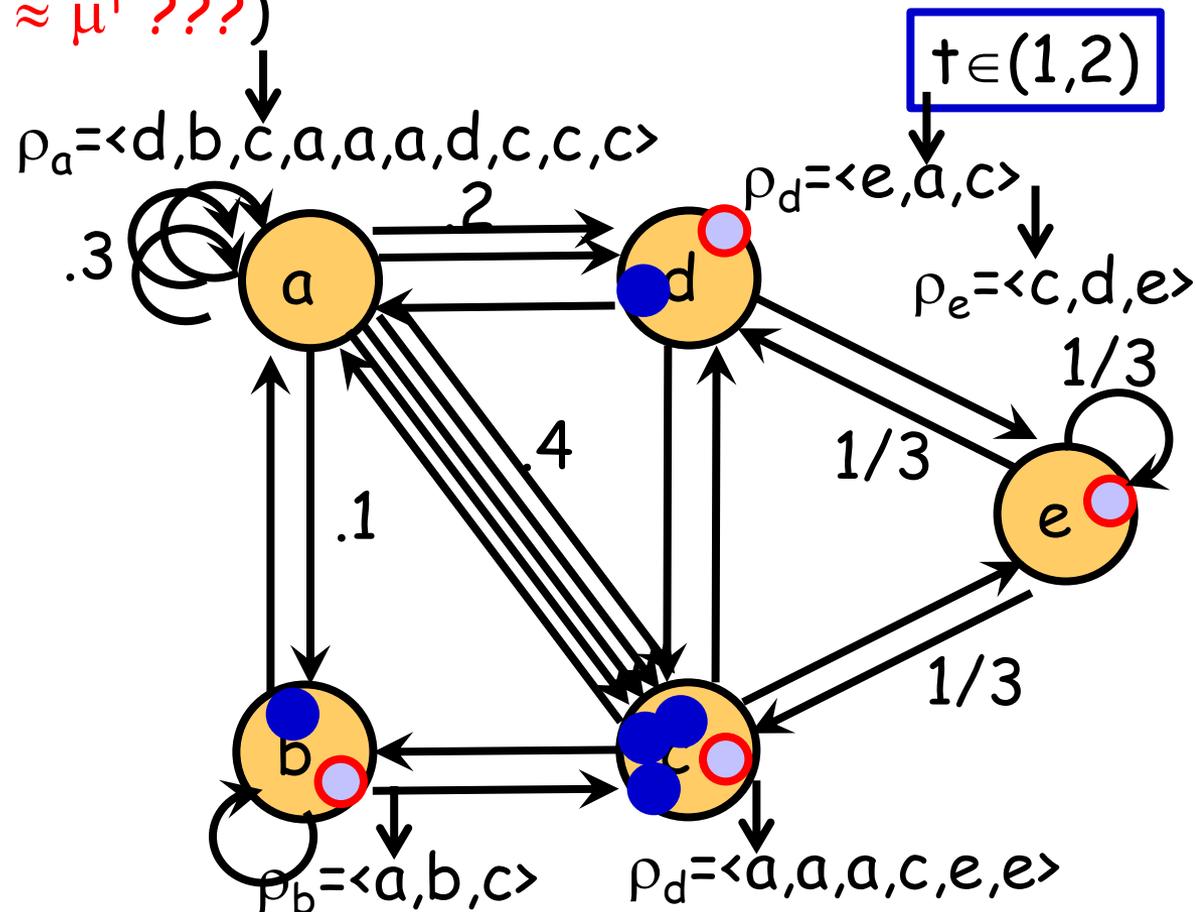
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する。

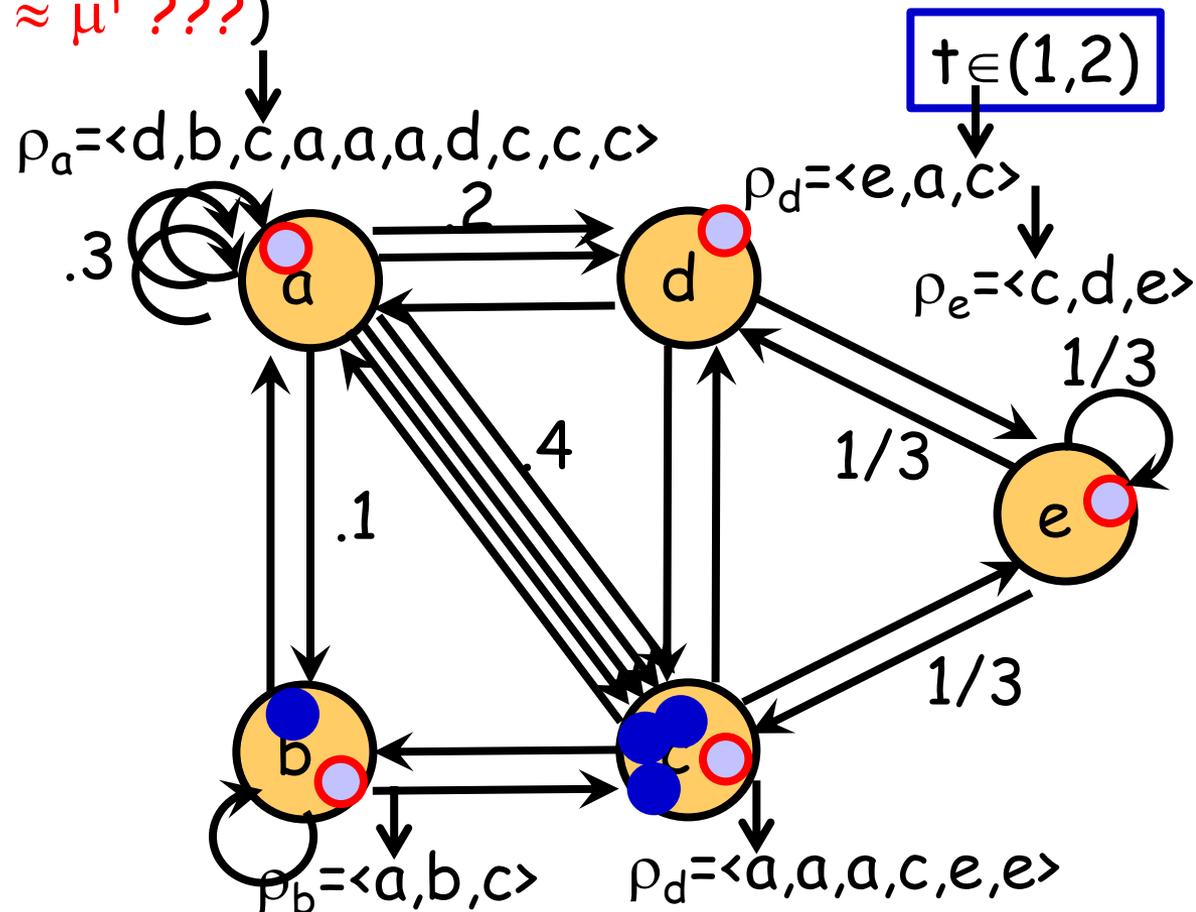
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する。

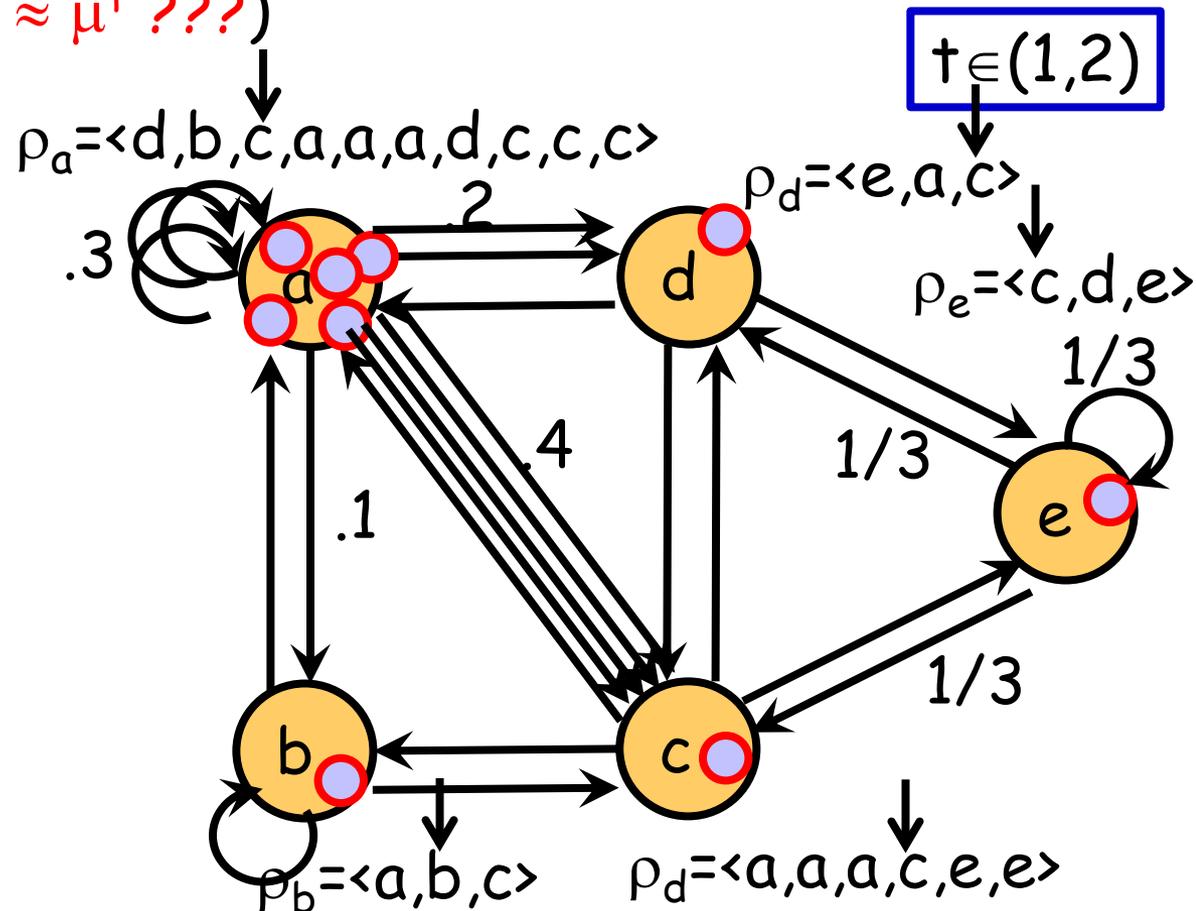
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する。

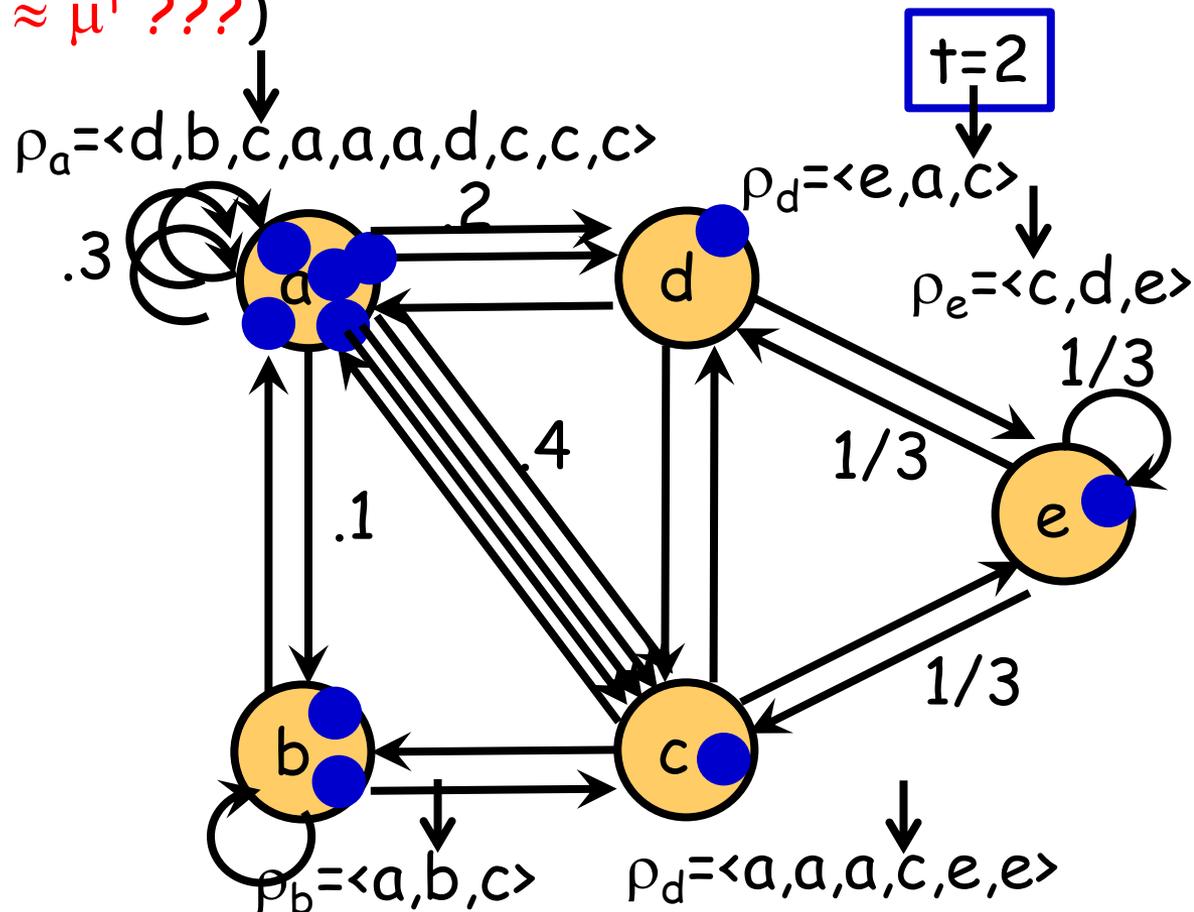
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する。

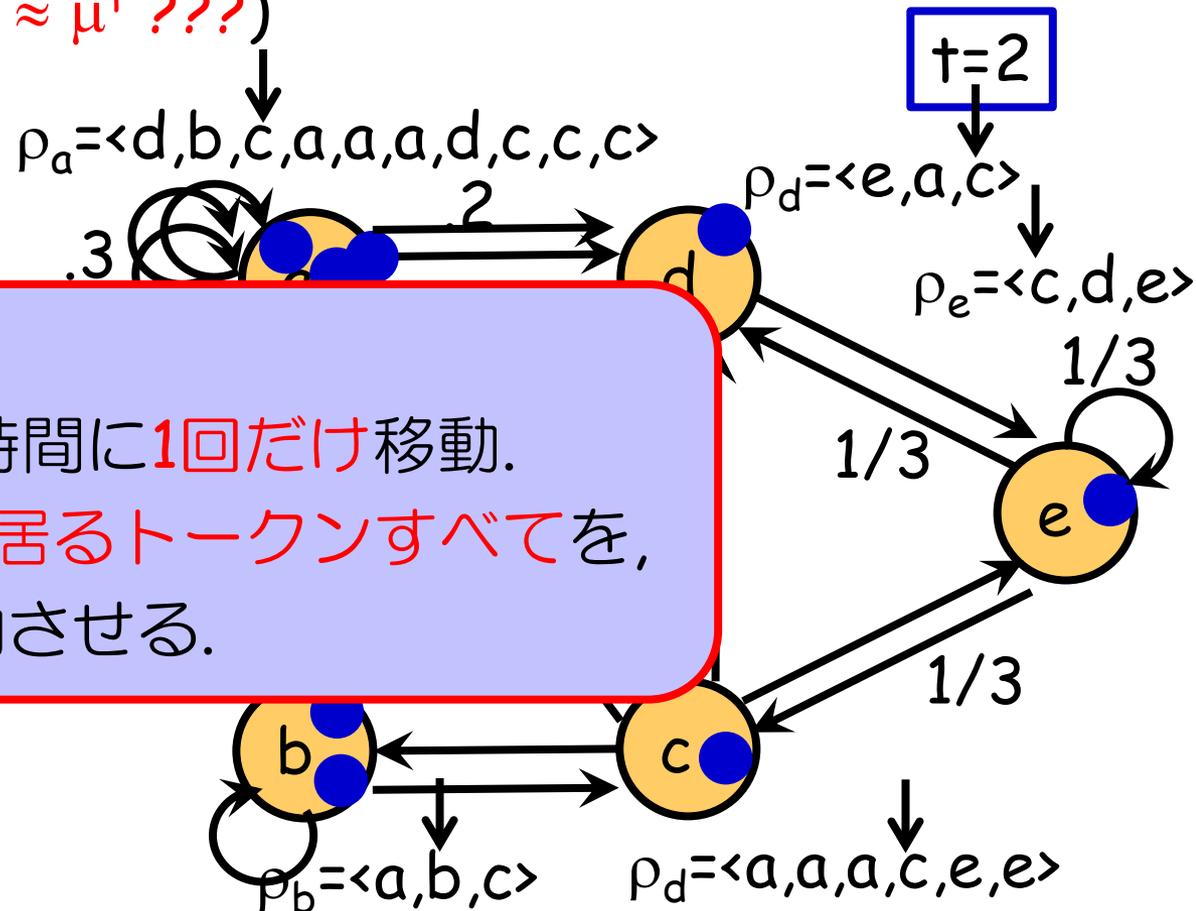
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## deterministic RW (Propp機械; rotor-router)

$N$ 個のトークンがグラフ上を移動する。

- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\rho$ : "rotor router" (比率  $P_{uv}$  で頂点  $u$  頂点  $v$  に"順次"移動)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



### Remark

- ✓ 各トークンは単位時間に**1回だけ**移動。
- ✓ 各ノードは時刻  $t$  に居るトークンすべてを、時刻  $t+1$  までに移動させる。

## Propp機械はランダムウォークを模倣できるか?

N個のトークンがグラフ上を移動する.

✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )

✓ (エルゴード)マルコフ連鎖は定常分布に収束する

➢ "平滑化"される.

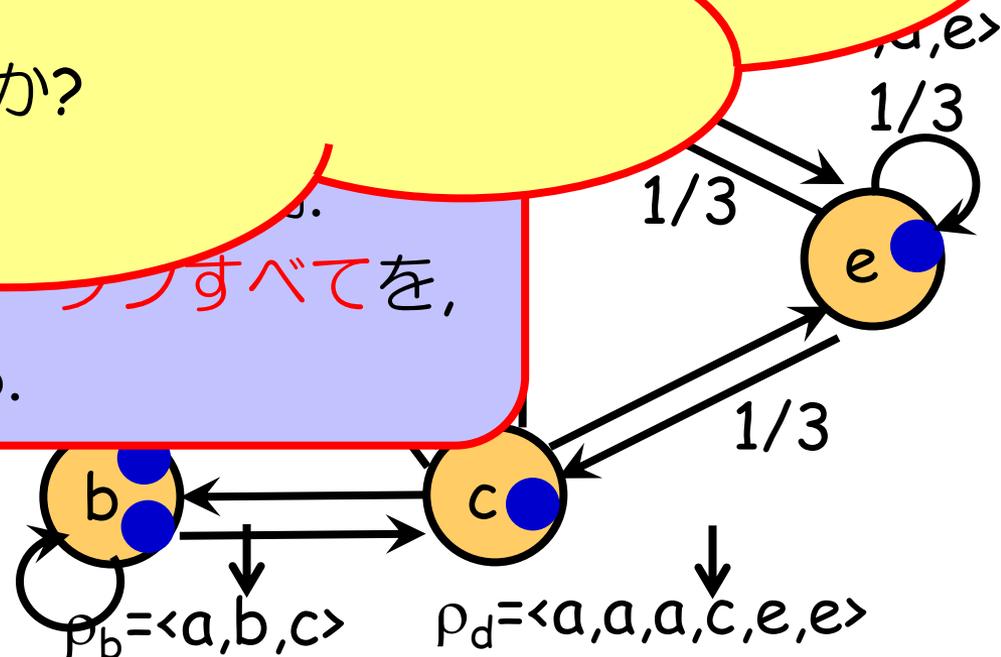
✓ Propp機械はランダムウォークを模倣できるか?

➢ "平滑化"できるか?

➢ "だま"はできないのか?

✓ 各ノードは

✓ 各ノードは時刻tに居るトークンすべてを、  
時刻t+1までに移動させる.



## 誤差の下界

定理 [K, Koga, Makino 10+]

ある多重有向グラフ  $G=(V, \mathcal{E})$ ,

ある初期状態, あるrotor-routerが存在して,

$$|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| \geq \Omega(m)$$

但し,  $m$ は多重グラフの頂点数,枝数.

## だまのできる例

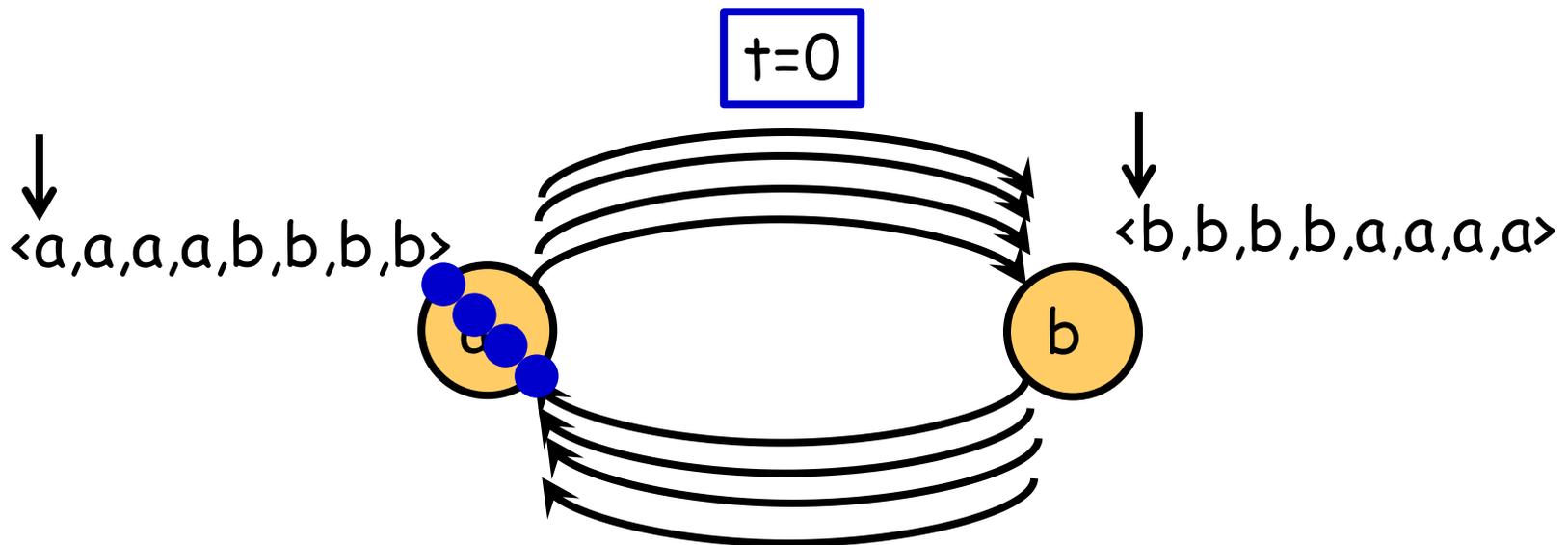
定理 [K, Koga, Makino 10+]

ある多重有向グラフ  $G=(V, E)$ ,

ある初期状態, あるrotor-routerが存在して,

$$|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| \geq \Omega(m)$$

但し,  $m$ は多重グラフの頂点数,枝数.



## だまのできる例

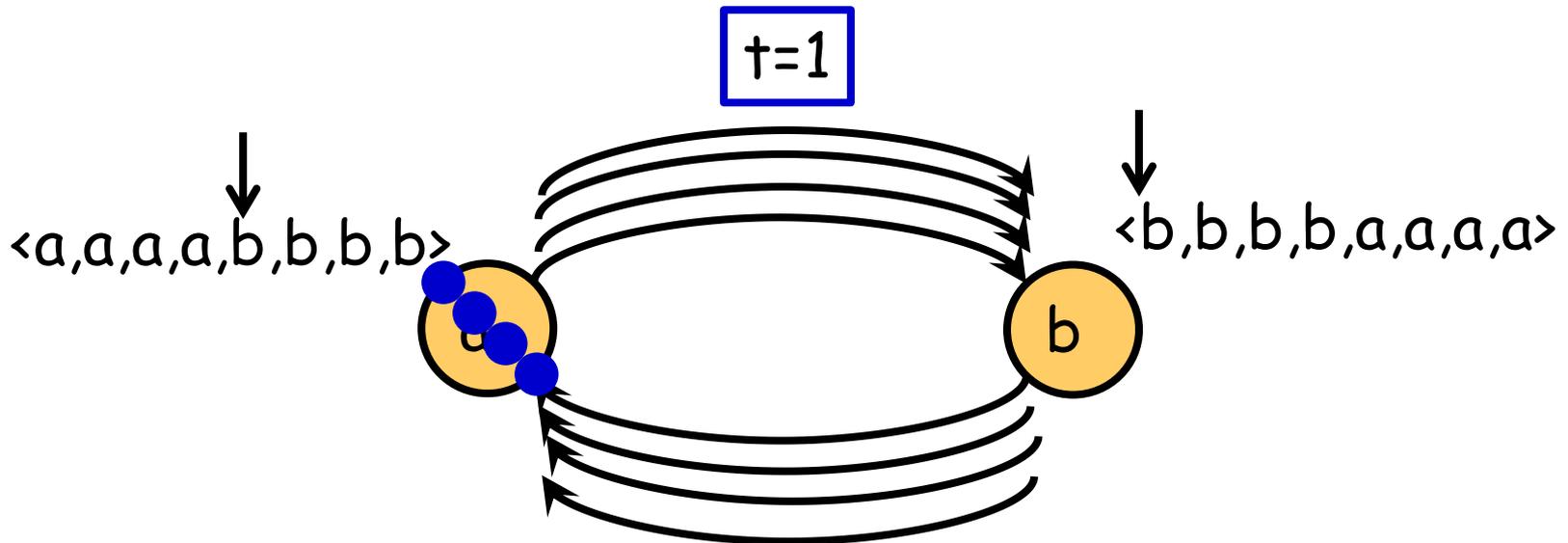
定理 [K, Koga, Makino 10+]

ある多重有向グラフ  $G=(V, \mathcal{E})$ ,

ある初期状態, あるrotor-routerが存在して,

$$|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| \geq \Omega(m)$$

但し,  $m$ は多重グラフの頂点数,枝数.



## だまのできる例

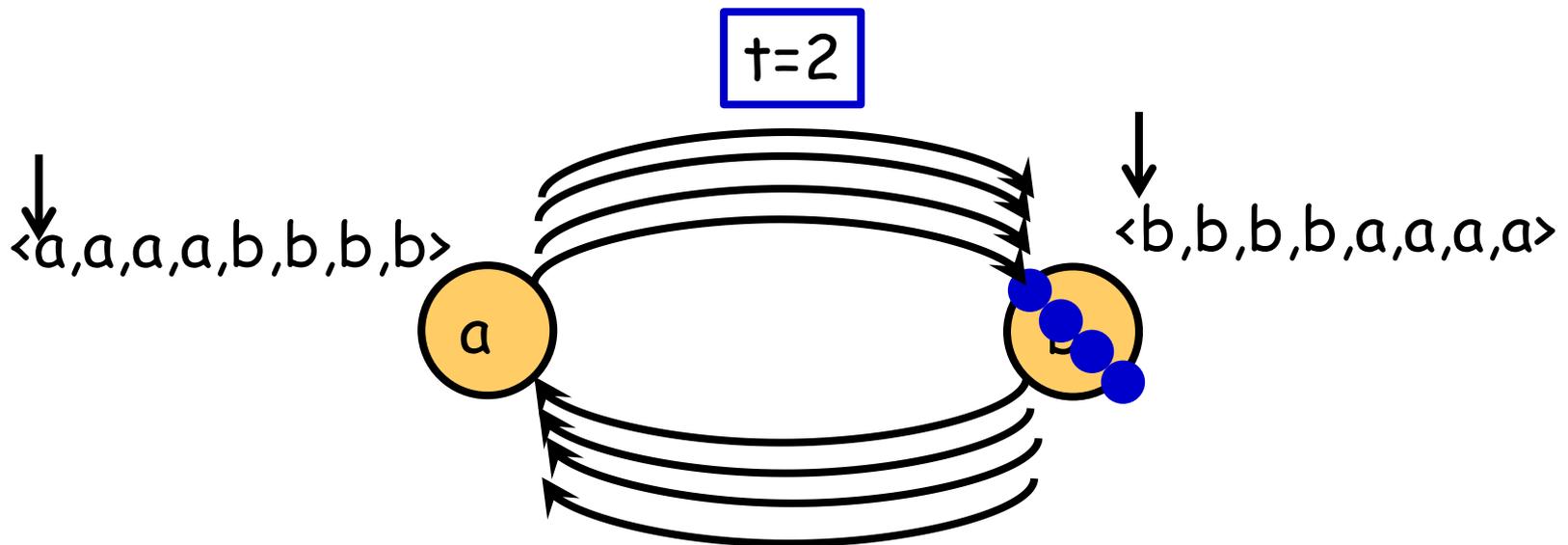
定理 [K, Koga, Makino 10+]

ある多重有向グラフ  $G=(V, E)$ ,

ある初期状態, あるrotor-routerが存在して,

$$|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| \geq \Omega(m)$$

但し,  $m$ は多重グラフの頂点数,枝数.



## だまのできる例

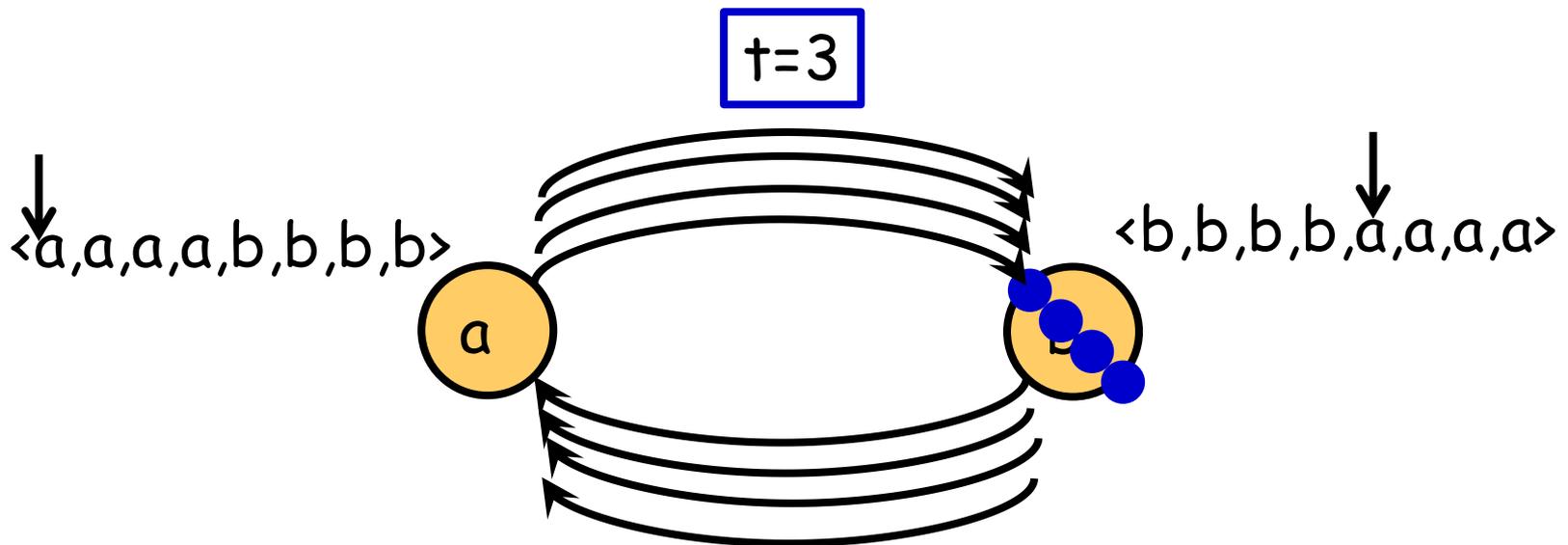
定理 [K, Koga, Makino 10+]

ある多重有向グラフ  $G=(V,E)$ ,

ある初期状態, あるrotor-routerが存在して,

$$|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| \geq \Omega(m)$$

但し,  $m$ は多重グラフの頂点数,枝数.



## だまのできる例

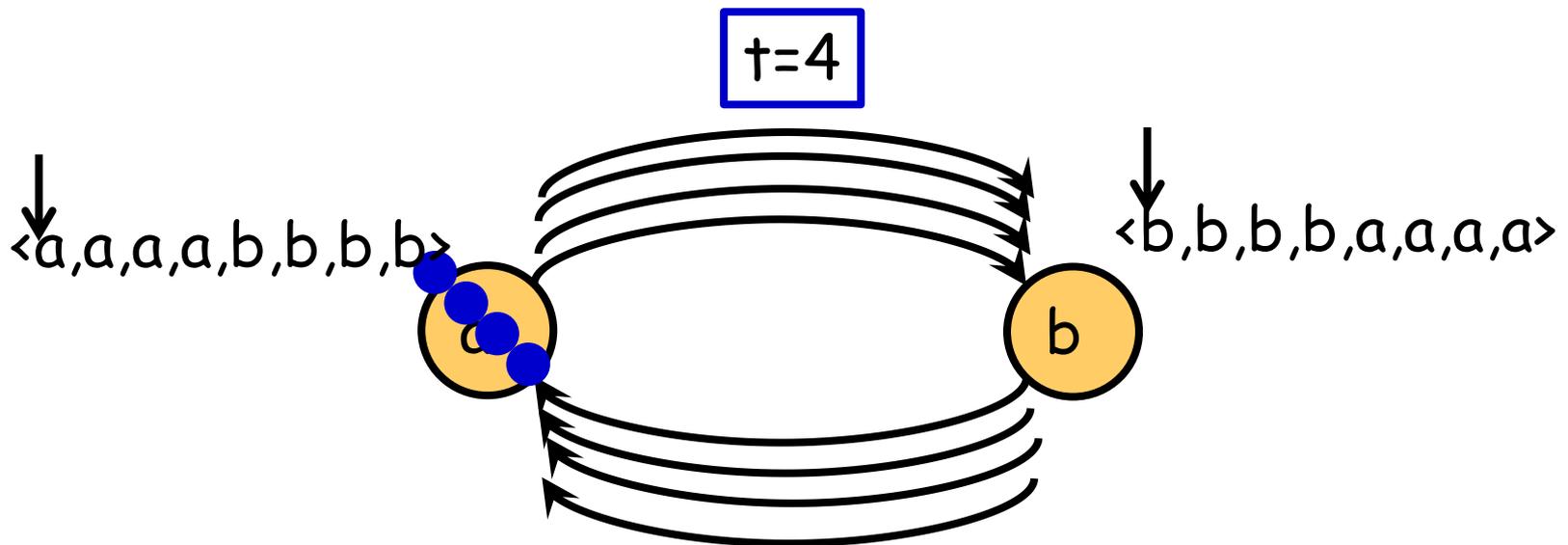
定理 [K, Koga, Makino 10+]

ある多重有向グラフ  $G=(V,E)$ ,

ある初期状態, あるrotor-routerが存在して,

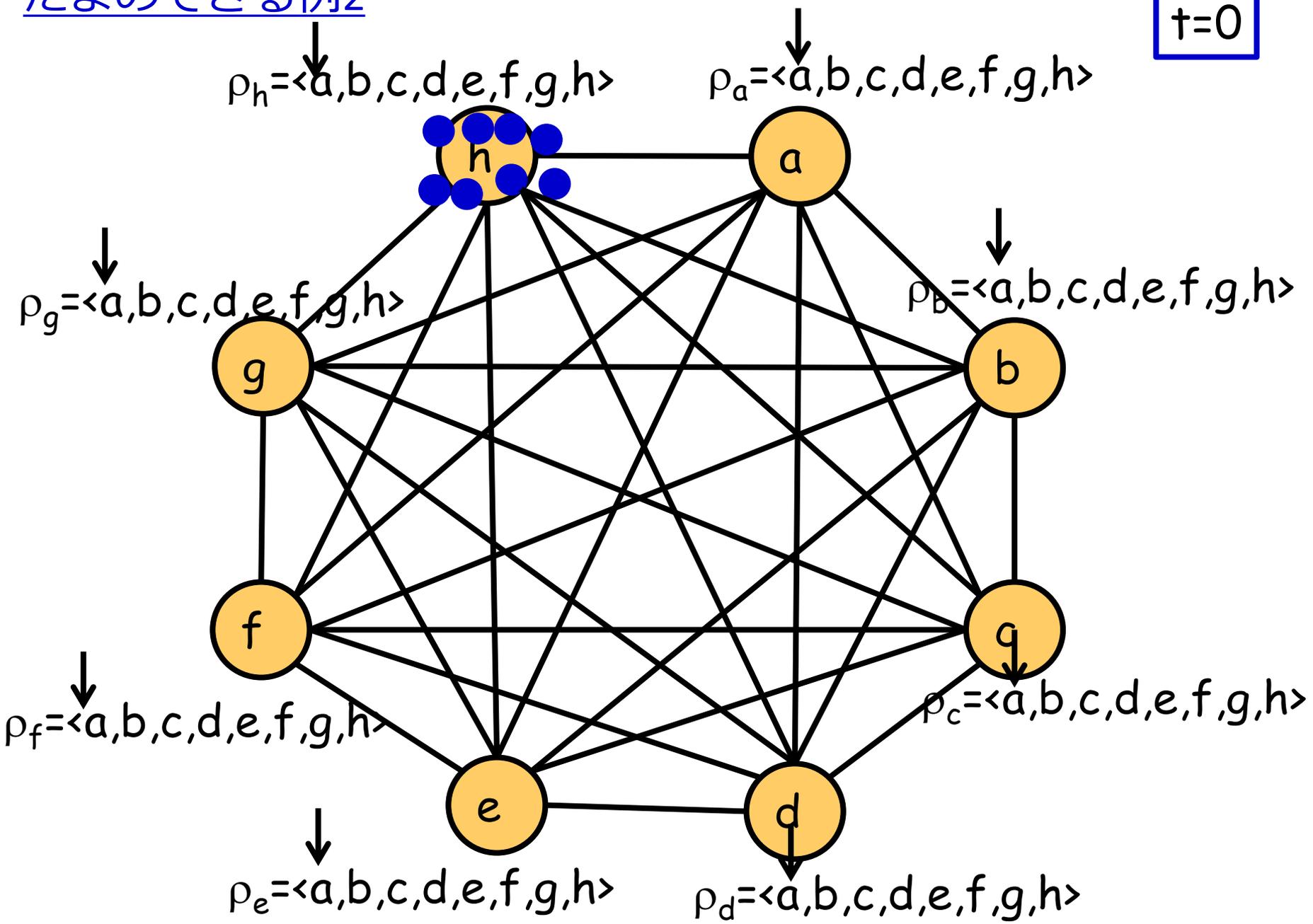
$$|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| \geq \Omega(m)$$

但し,  $m$ は多重グラフの頂点数,枝数.



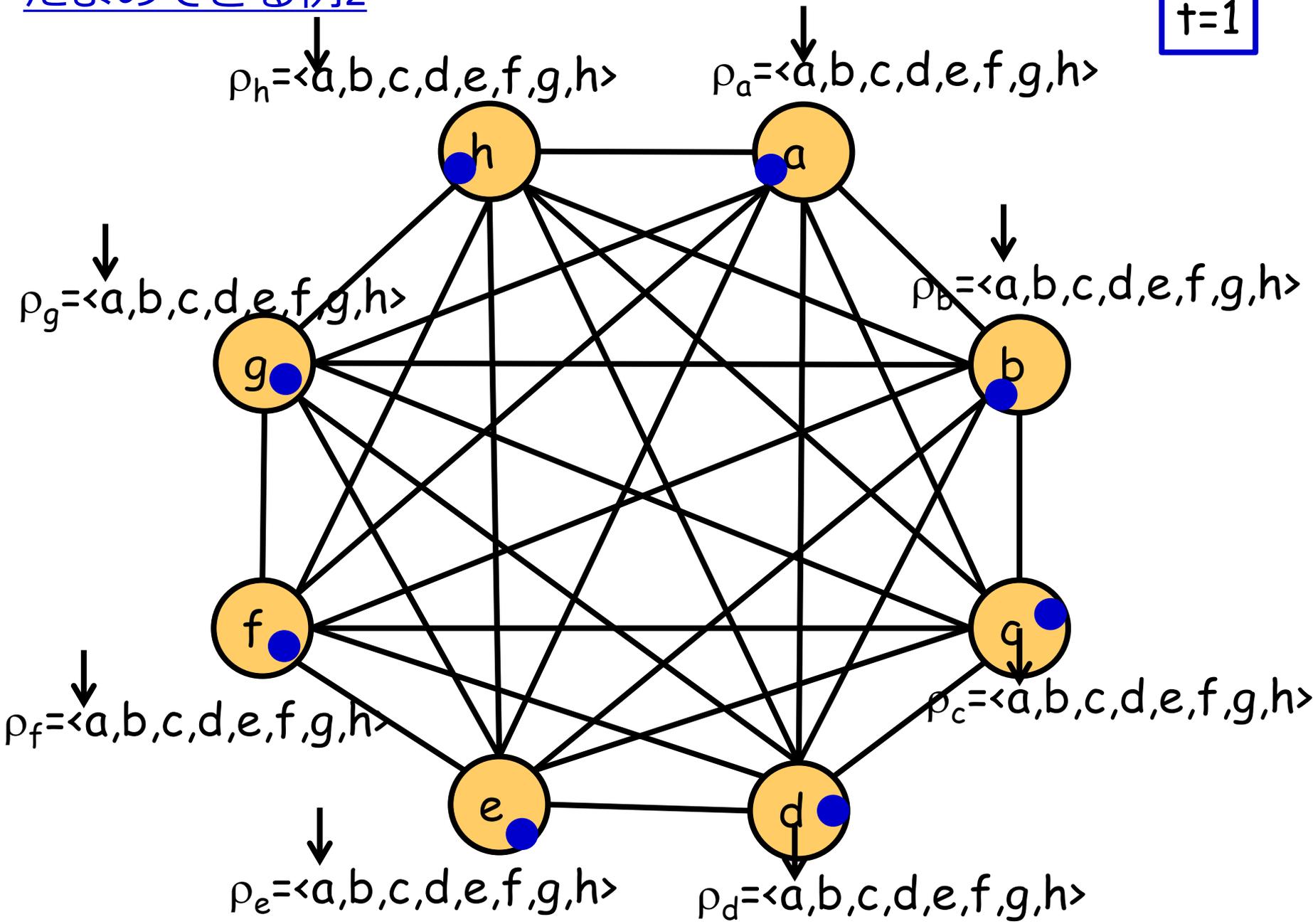
だまのできる例2

t=0



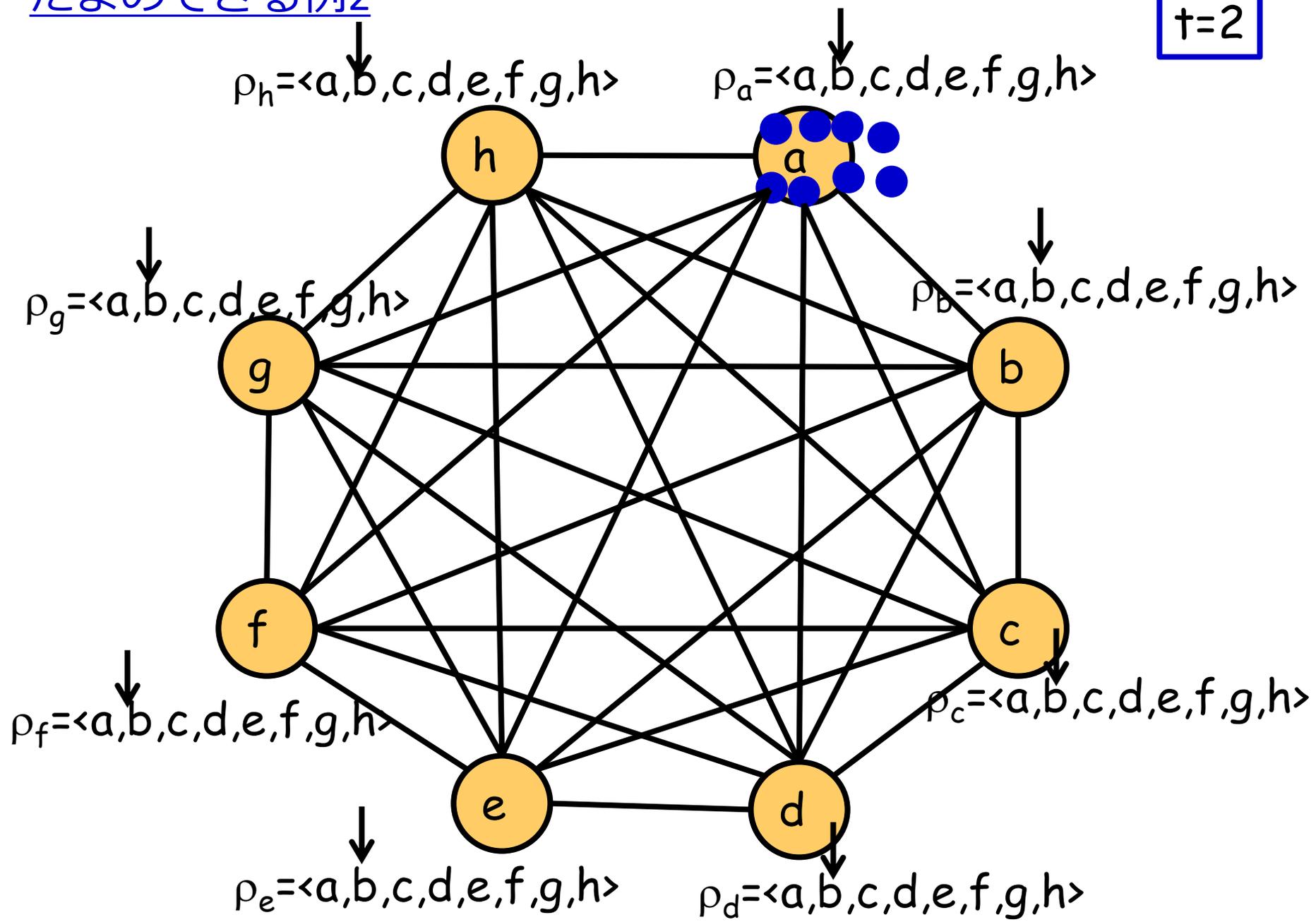
# だまのできる例2

t=1



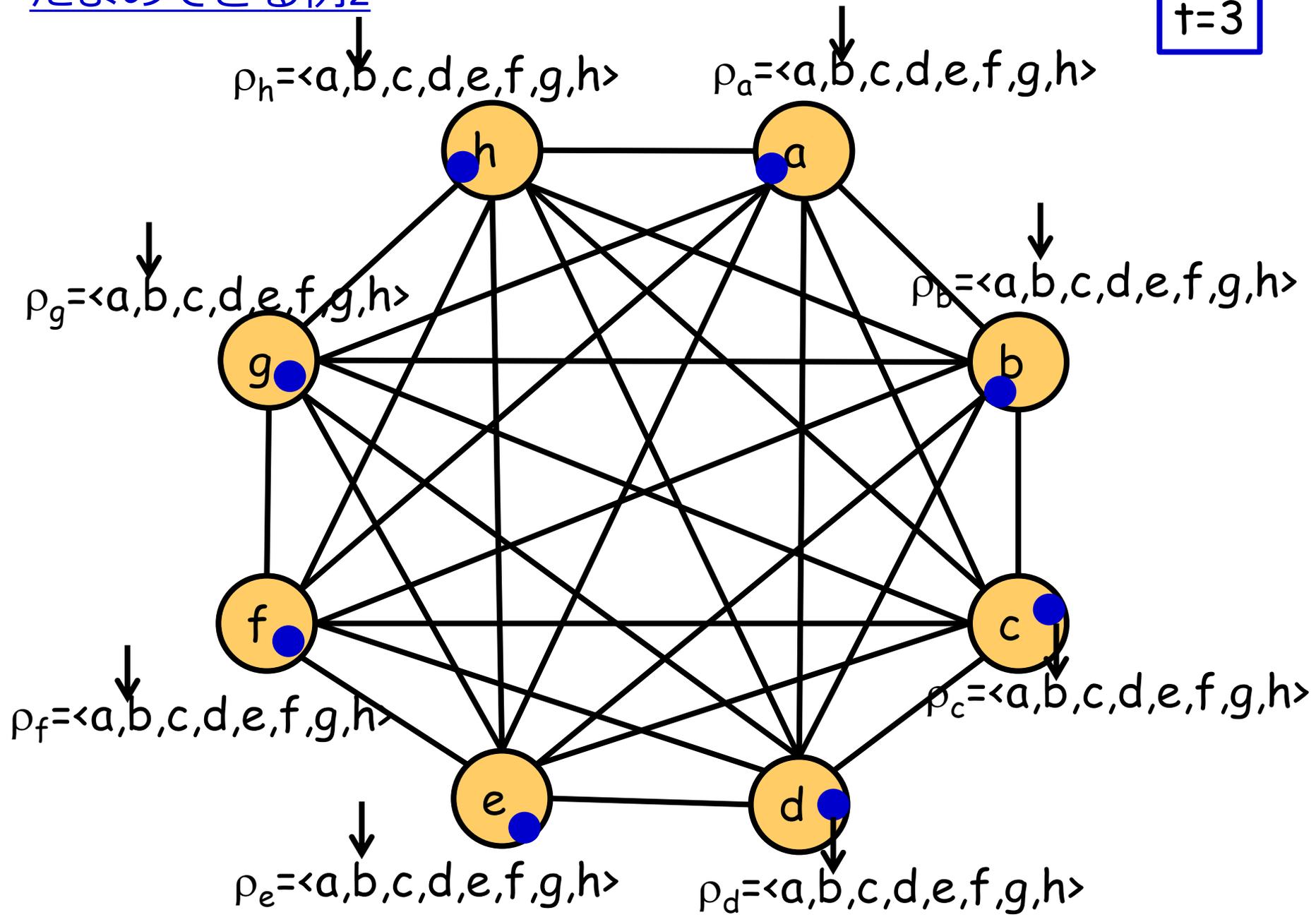
# だまのできる例2

t=2



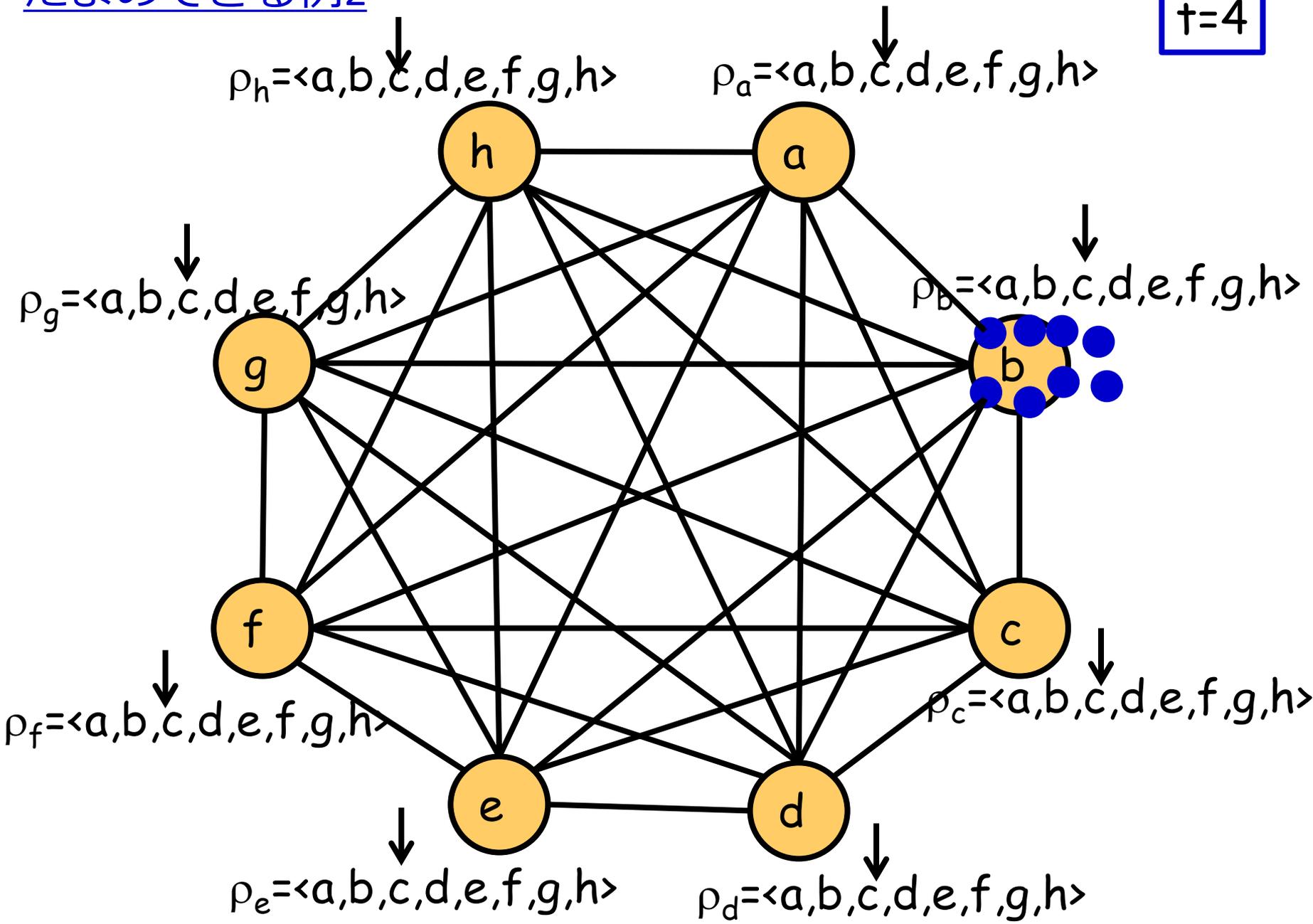
# だまのできる例2

t=3



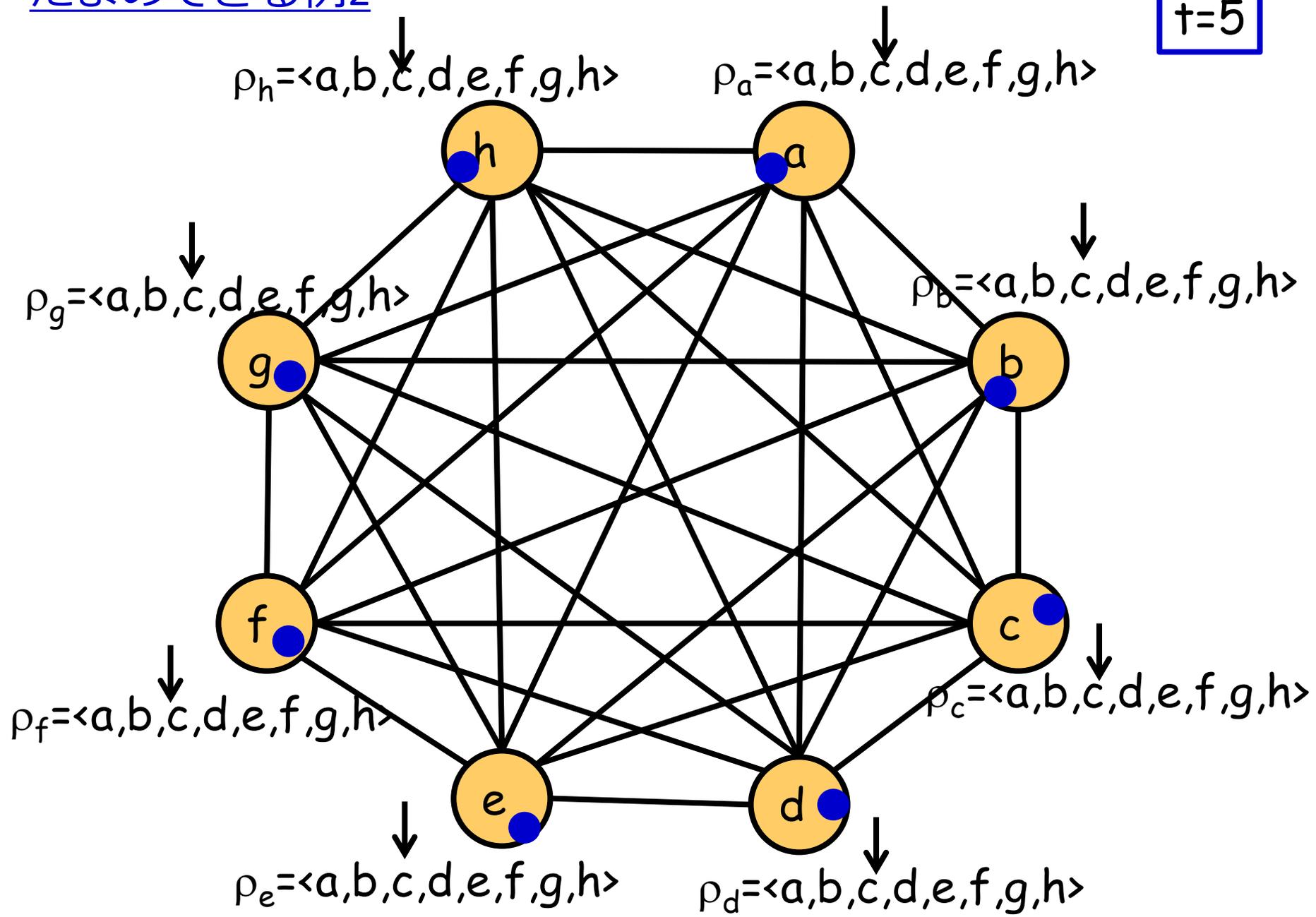
# だまのできる例2

t=4



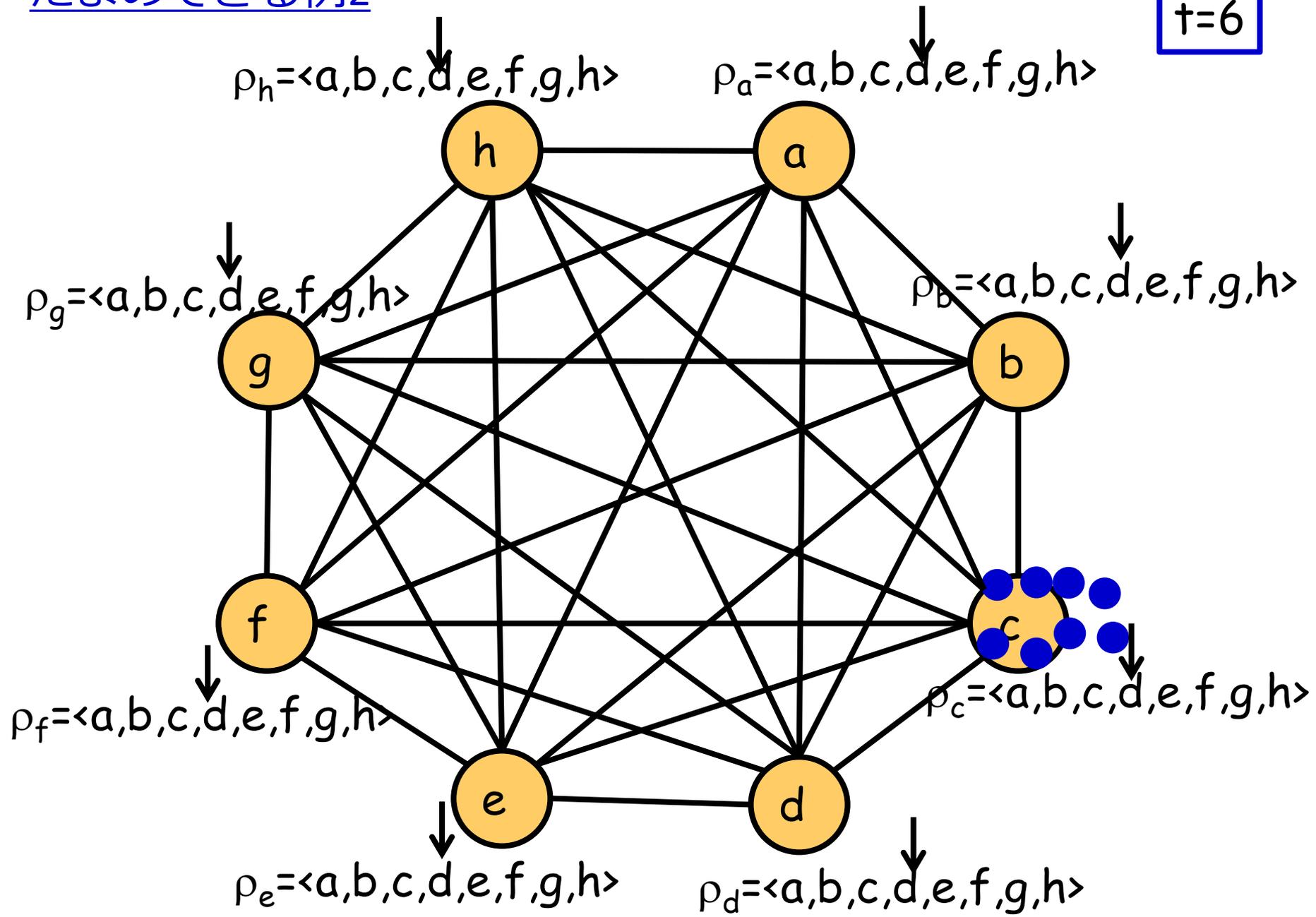
# だまのできる例2

t=5



# だまのできる例2

t=6



## 誤差の下界

定理 [K, Koga, Makino 10+]

ある多重有向グラフ  $G=(V, \mathcal{E})$ ,

ある初期状態, あるrotor-routerが存在して,

$$|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| \geq \Omega(m)$$

但し,  $m$ は多重グラフの頂点数,枝数.

## 主結果 2

定理 [K, Koga, Makino 10+]

対応する推移確率行列 $P$ の固有値が**すべて非負**ならば、  
 任意の多重有向グラフ, 任意の初期状態, 任意のrotor-router,  
 任意の頂点 $w$ , 任意の時刻 $t$ について,

$$|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| \leq (2m - n) \left( \max_{i \in \{1, \dots, \kappa\}} n_i + n + 3 \right) \leq 4mn + O(m)$$

但し,  $n, m$ は多重グラフの頂点数, 枝数.  $n_i$ はJordan cellのサイズ.

### Remark

「推移確率行列 $P$ の固有値が**すべて非負**」という条件.

➤ **reversible lazy Markov chain**はこの条件を満たす.

✓ MCMC法で使われるマルコフ連鎖

➤  $+P$ が**対称**  $\Rightarrow P$ は**半正定値行列**

## Propp機械はランダムウォークを模倣できるか?

N個のトークンがグラフ上を移動する.

✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )

✓ (エルゴード)マルコフ連鎖は定常分布に収束する

➤ "平滑化"される.

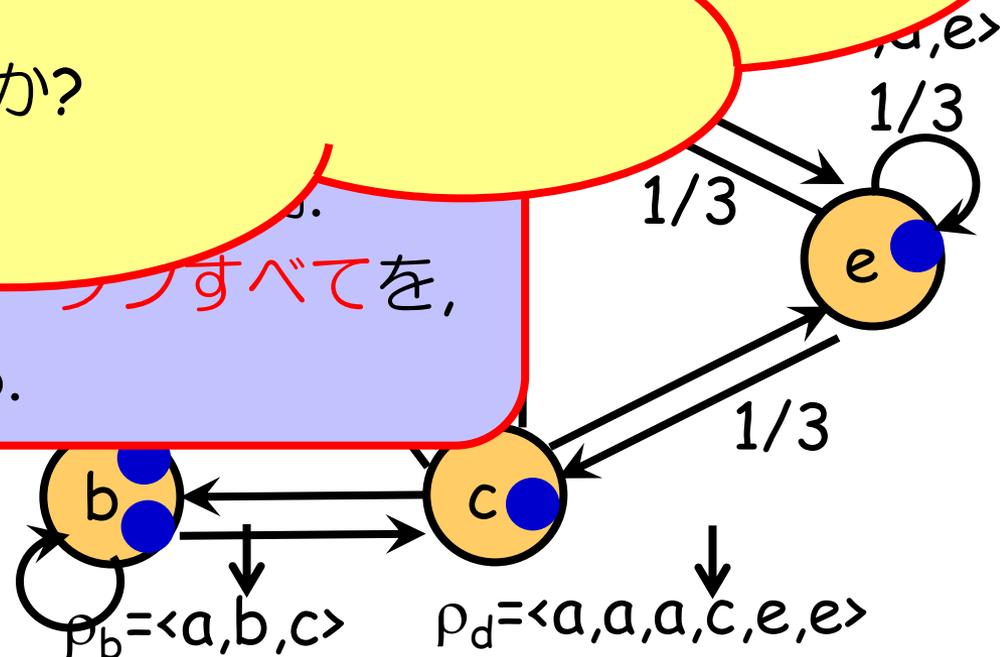
✓ Propp機械はランダムウォークを模倣できるか?

➤ "平滑化"できるか?

➤ "だま"はできないのか?

✓ 各ノードは

✓ 各ノードは時刻tに居るトークンすべてを、  
時刻t+1までに移動させる.



チップ数に依存しない。

## 先行研究と本研究の成果

定理 [Cooper & Spencer 2006]

$\mathbb{Z}^d$ 上で, 任意の初期状態, 任意のrotor-router,  
任意の頂点 $w$ , 任意の時刻 $t$ について,  
( $d$ のみに依存する)定数 $C_d$ が存在して,

$$|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| \leq C_d$$

## 単一頂点誤差に関する研究(1/2)

2006	Cooper, Spencer	$Z^d$ 上のロータールーター ▶ 誤差 $\leq C_d$
2007	Cooper, Doerr, Spencer, Tardos	$Z^1$ 上のロータールーター ▶ $C_1 \leq 2.29$
2008	Cooper, Doerr, Friedrich, Spencer	無限のk正則木上のロータールーター ▶ 誤差 $> \Omega(\sqrt{kT})$ at time T
2009	Doerr, Friedrich	$Z^2$ 上のロータールーター ▶ $C_2 \leq 7.83$ (上右下左) ▶ $C_2 \leq 7.29$ (上下左右)
2012	Kijima, Koga, Makino	有限多重有向グラフ $G$ 上のロータールーター ▶ 誤差 $\leq 4mn + O(m)$ $\{0,1\}^d$ 上のPropp機械 ▶ 誤差 $\leq O(d^3)$ (頂点数のpoly log)
2012+	Kajino et al.	(後述)
2012+	Shiraga et al.	(後述)

## 単一頂点誤差に関する研究(2/2)

2012 (2010)	Kijima, Koga, Makino	有限多重有向グラフ G上のロータールーター ➤ 誤差 $\leq 4m \cdot n + O(m^*)$ (P: 有理数 + 既約 + 非周期 + 可逆 + lazy) $\{0,1\}^d$ 上のPropp機械 ➤ 誤差 $\leq O(d^3)$ (頂点数のpoly log)
2012+ (2011)	Kajino, Kijima, Makino	有限多重有向グラフ G上のロータールーター ➤ 誤差 $\leq O\left(\alpha \frac{m \cdot n^2}{1-\lambda}\right)$ (P: 有理数 + 既約) $\{0,1\}^d$ 上のPropp機械 ➤ 誤差 $\leq O(d^2)$ (頂点数のpoly log)
2012+	Shiraga, Yamauchi, Kijima, Yamashita	有限有向グラフ G上の関数ルーター ➤ 誤差 $\leq O\left(\sqrt{\frac{\pi_{\max}}{\pi_{\min}}} \frac{mn}{1-\lambda} \log M\right)$ (P: 実数 + 既約 + 非周期 + 可逆)

定理 [K, Koga, Makino 10+]

対応する推移確率行列 $P$ の固有値が**すべて非負**ならば、  
 任意の多重有向グラフ, 任意の初期状態, 任意のrotor-router,  
 任意の頂点 $w$ , 任意の時刻 $t$ について,

$$|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| \leq (2m - n) \left( \max_{i \in \{1, \dots, \kappa\}} n_i + n + 3 \right) \leq 4mn + O(m)$$

但し,  $n, m$ は多重グラフの頂点数, 枝数.  $n_i$ はJordan cellのサイズ.

Remark

「推移確率行列 $P$ の固有値が**すべて非負**」という条件.

➤ **reversible lazy Markov chain**はこの条件を満たす.

✓ MCMC法で使われるマルコフ連鎖

➤  $+P$ が**対称**  $\Rightarrow P$ は**半正定値行列**

K., Koga, Makino

定理 [K, Koga, Makino 10+]

$\{0,1\}^d$ 超立方体の稜線グラフに対して、  
任意の初期状態, 任意のrotor-router,  
任意の頂点 $w$ , 任意の時刻 $t$ について、

$$|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| \leq \frac{3}{2}d^3 + O(d^2)$$

定理 [K, Koga, Makino 10+]

Johnsonグラフ $J(d,c)$ に対して、  
任意の初期状態, 任意のrotor-router,  
任意の頂点 $w$ , 任意の時刻 $t$ について、

$$|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| \leq 2c^3 \cdot (d - c)^2 + O(c^3 \cdot (d - c))$$

Johnsonグラフ $J(d,c) = (V_J, E_J)$

$V_J = \{S \subset \{1, \dots, d\} \mid |S| = c\}$ ,

$E_J = \{\{S, T\} \in V_J^2 \mid |S \oplus T| = 2\}$

頂点数に対して  
対数多項式上界

# 一般グラフに対する定理の証明

$$X_v^{(t)} := \sum_{s=0}^t \chi_v^{(s)}$$

$$s_v(i) := \min \left\{ t \geq 0 \mid i < \sum X_v^{(t)} \right\},$$

Cooper & Spencer 2006の手法を  
推移確率行列Pで理解

## 補題 1

$$\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)} = \sum_{v \in V} \sum_{i=0}^{X_v^{(T-1)} - 1} \left( P^{T-s_v(i)-1}(\rho_v(i), w) - P^{T-s_v(i)}(v, w) \right).$$

「時刻 $t$ 以前Propp機械, 時刻 $t$ 以後RW」過程. (初期配置は $\chi^0$ (と同一)とする.)

$\zeta(w; t, T)$ : 時刻 $T$ の期待トークン配置.

$$\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)} = \sum_{t=0}^{T-1} (\zeta(w; t+1, T) - \zeta(w; t, T)).$$

$$\zeta(w; t+1, T) - \zeta(w; t, T) = \sum_{v \in V} \sum_{i=X_v^{(t-1)}}^{X_v^{(t)}-1} \left( P^{T-t-1}(\rho_v(i), w) - P^{T-t}(v, w) \right)$$

### Remark

- ✓  $\zeta(w; T, T) = \chi^T$
- ✓  $\zeta(w; 0, T) = \mu^T$

## 関連研究

- ✓ IDLA (Internal Diffusion-Limited Aggregation)
  - Levine & Peres 2005
- ✓ Information Spreading
  - Doerr, Friedrich, & Sauerwald 2008
  - Doerr, Friedrich, Kunnemann, & Sauerwald 2009
- ✓ Hitting time, Cover time
  - Friedrich & Sauerwald 2010
  - Holroyd & Propp 2010+

定理 [Holroyd & Propp 2010+]

単一トークンのPropp機械を考える。

$F_v^t :=$  時刻0から $t$ までに頂点 $v$ を訪れた回数 ○

任意の有限グラフについて, ○

$$|F_v^t/t - \pi_v^*| \leq O(mn/t) \quad \bullet$$

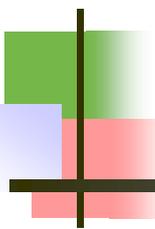
ただし $\pi^*$ は対応するマルコフ連鎖の定常分布.

cf. [K, Koga, Makino 10+]

$$|\chi_v^t/N - \pi_v^*| \leq O(mn/N)$$

## 今後の課題

- ✓ 上下界の一致. ( $O(mn)$ ,  $\Omega(m)$ )
- ✓ 組合せ構造に由来するグラフに対する **polylog** の上界.
- ✓ **Blanket time vs Mixing time.**
- ✓ MCMC法の**脱乱択化**.
- ✓ 乱数とは？
  - 乱択アルゴリズムにおける「乱数」の持つべき性質は？
    - ◆ **準モンテカルロ** (quasi Monte Carlo)
    - ◆ **カオス系列** (Chaos time series)



### 3. 関数ルーターモデル

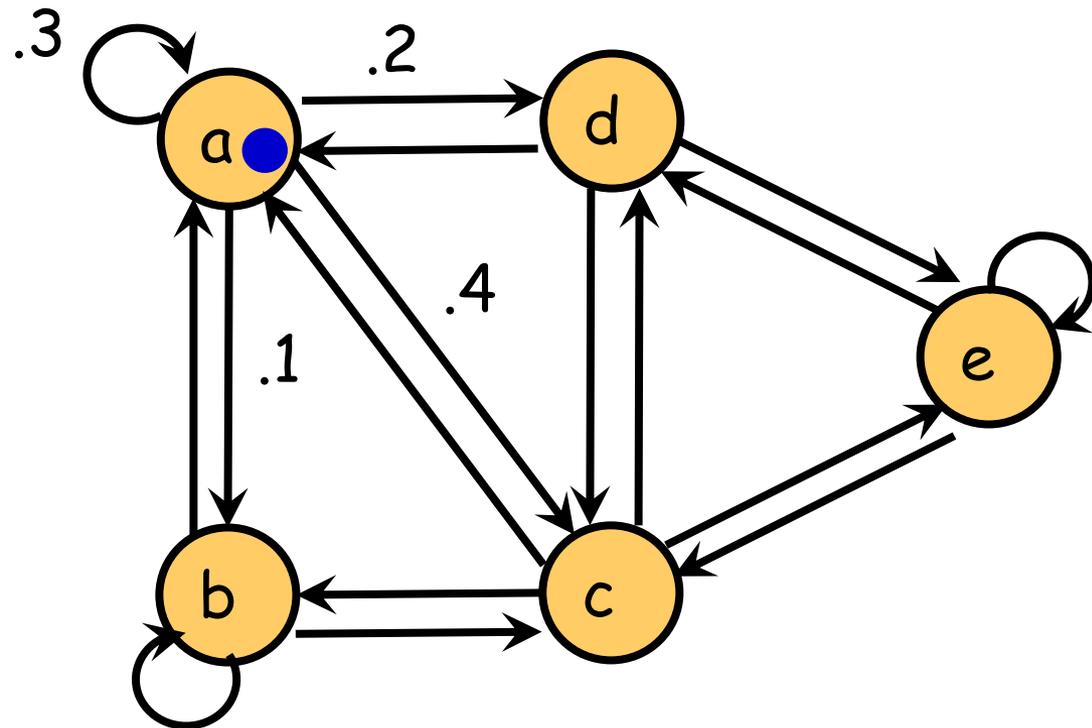
---

無理数の遷移確率行列を実現

## ランダムウォーク

トークンがグラフ上をランダムウォークする。

- ✓  $\pi^0$ : 初期分布 (トークンは確率 $\pi_v^0$ で頂点 $v$ に居る)
- ✓  $P$ : 推移確率行列 (確率 $P_{uv}$ で頂点 $u$ 頂点 $v$ に移動)
- ✓ 時刻 $t$ の確率分布 $\pi^t := \pi^0 P^t$  (頂点 $v$ に居る確率  $(\pi^t)_v$ )



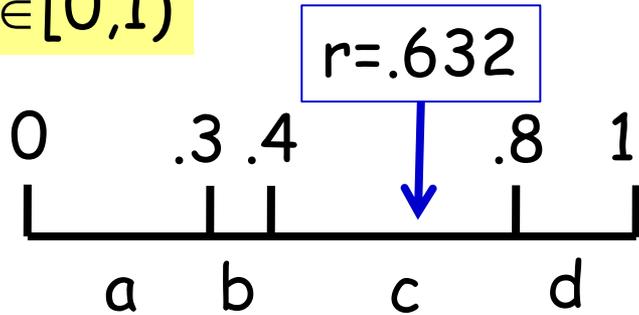
## ランダムウォーク

トークンがグラフ上をランダムウォークする。

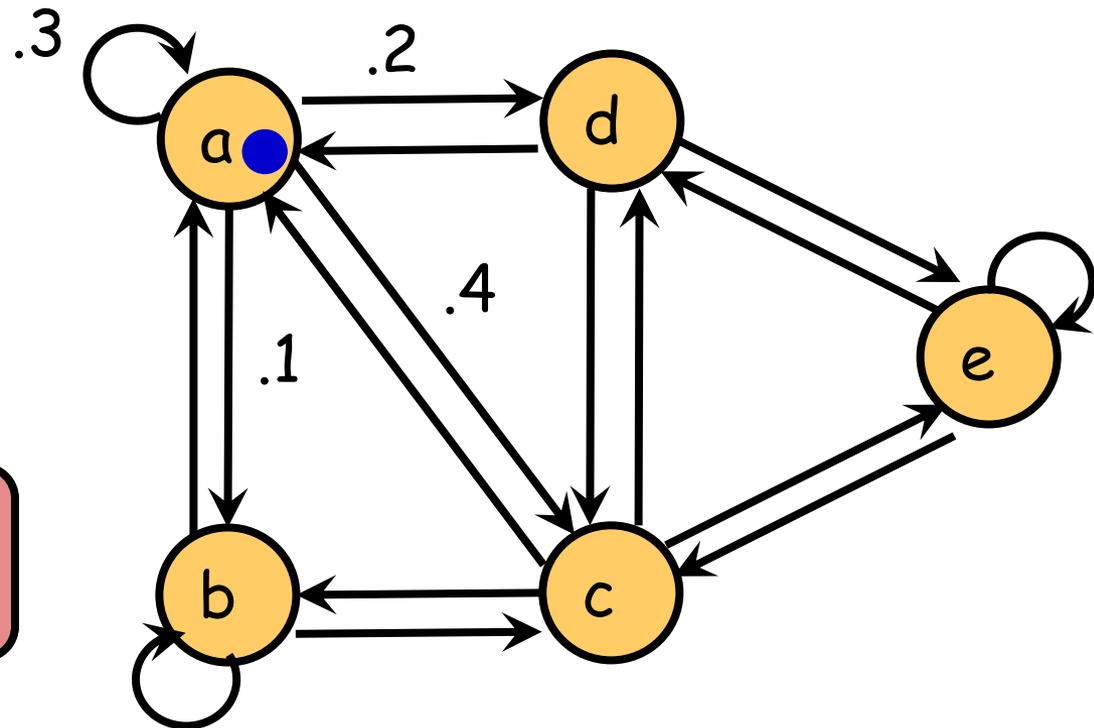
- ✓  $\pi^0$ : 初期分布 (トークンは確率 $\pi_v^0$ で頂点 $v$ に居る)
- ✓  $P$ : 推移確率行列 (確率 $P_{uv}$ で頂点 $u$ 頂点 $v$ に移動)
- ✓ 時刻 $t$ の確率分布 $\pi^t := \pi^0 P^t$  (頂点 $v$ に居る確率 $(\pi^t)_v$ )

ランダムウォークを  
乱数を使って実現

$r \in [0, 1)$



乱数の代わりに  
超一様分布列を使う。



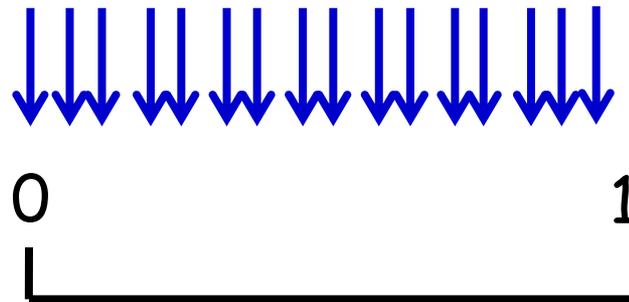
## Van der Corput列

自然数  $i = \sum_{j=0}^{\lfloor \lg i \rfloor} \beta_j(i) 2^j$

ただし  $\beta_j(i) \in \{0,1\}$  ( $j = 0,1, \dots, \lfloor \lg i \rfloor$ )

$$\psi(i) := \sum_{j=0}^{\lfloor \lg i \rfloor} \beta_j(i) 2^{-(j+1)}$$

$i$	$(i)_2$	$(\psi(i))_2$	$\psi(i)$
0	0	0	0
1	1	0.1	1/2
2	10	0.01	1/4
3	11	0.11	3/4
4	100	0.001	1/8
5	101	0.101	5/8
6	110	0.011	3/8
...	...	...	...

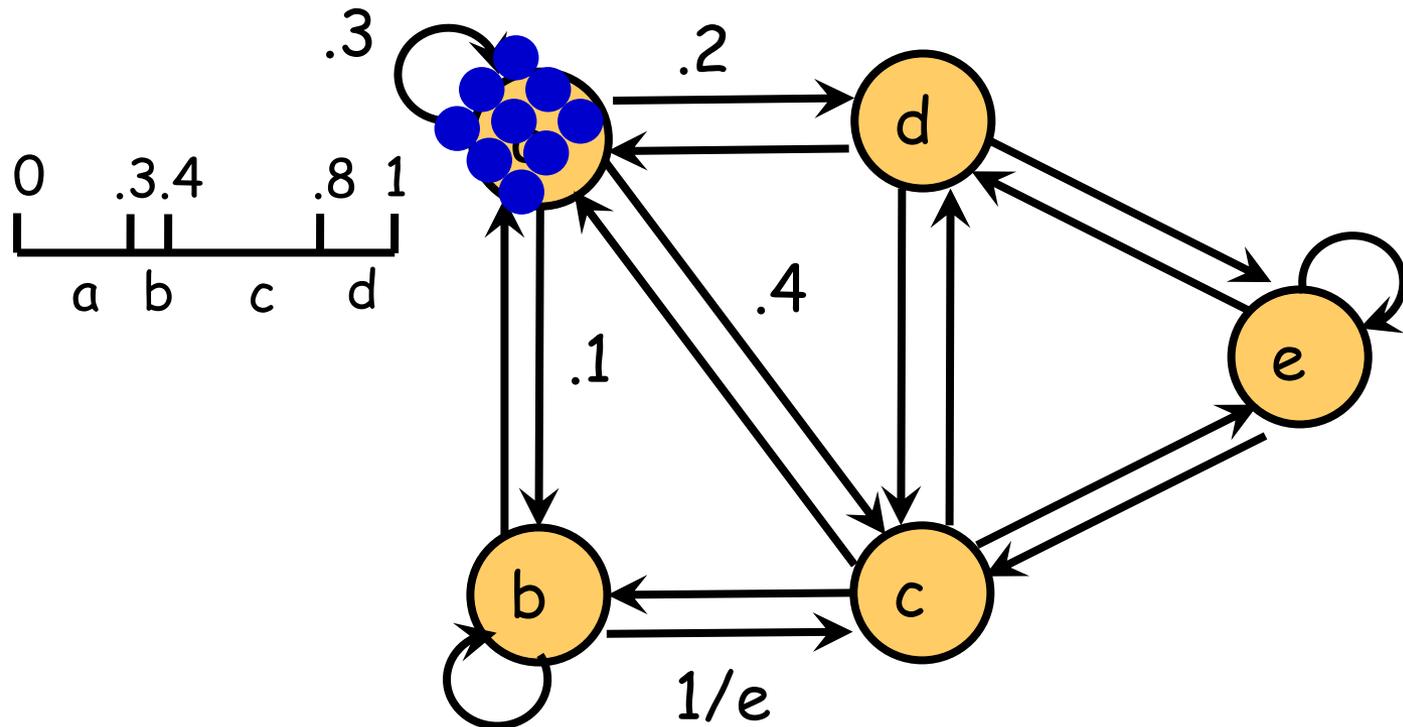


## 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが**決定的に**グラフ上を移動.

- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率 $P_{uv}$ を模倣)
- ✓ 時刻 $t$ の配置 $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)

$t=0$

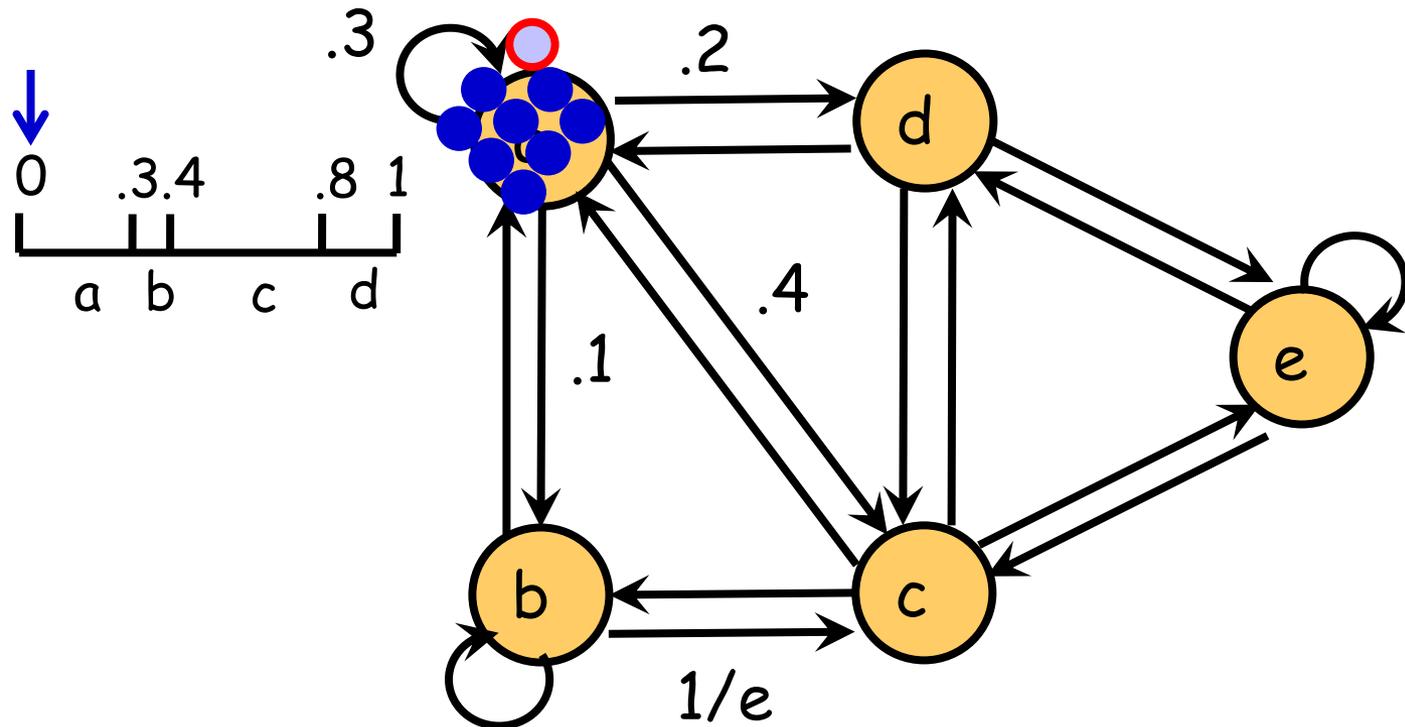


## 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが決定的にグラフ上を移動.

- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)

$t \in (0, 1)$

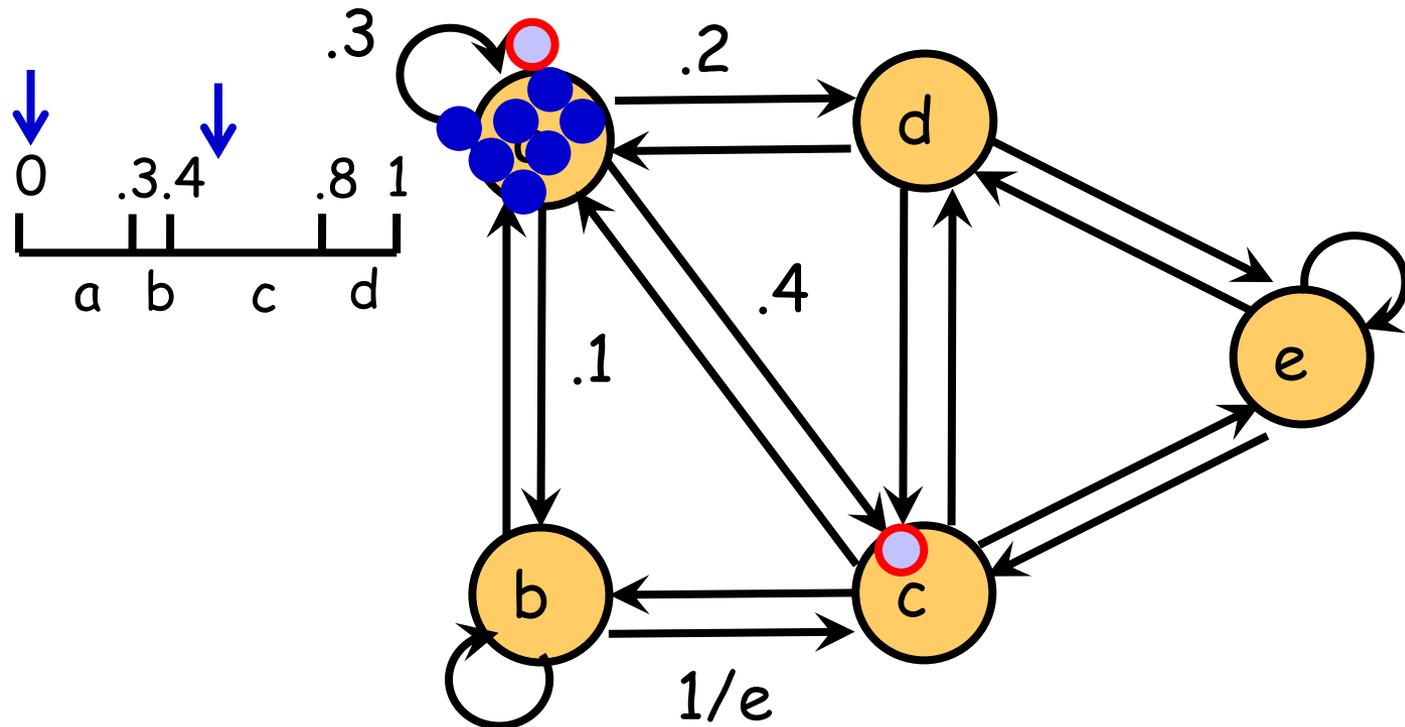


## 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが**決定的に**グラフ上を移動.

- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率 $P_{uv}$ を模倣)
- ✓ 時刻 $t$ の配置 $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)

$t \in (0, 1)$

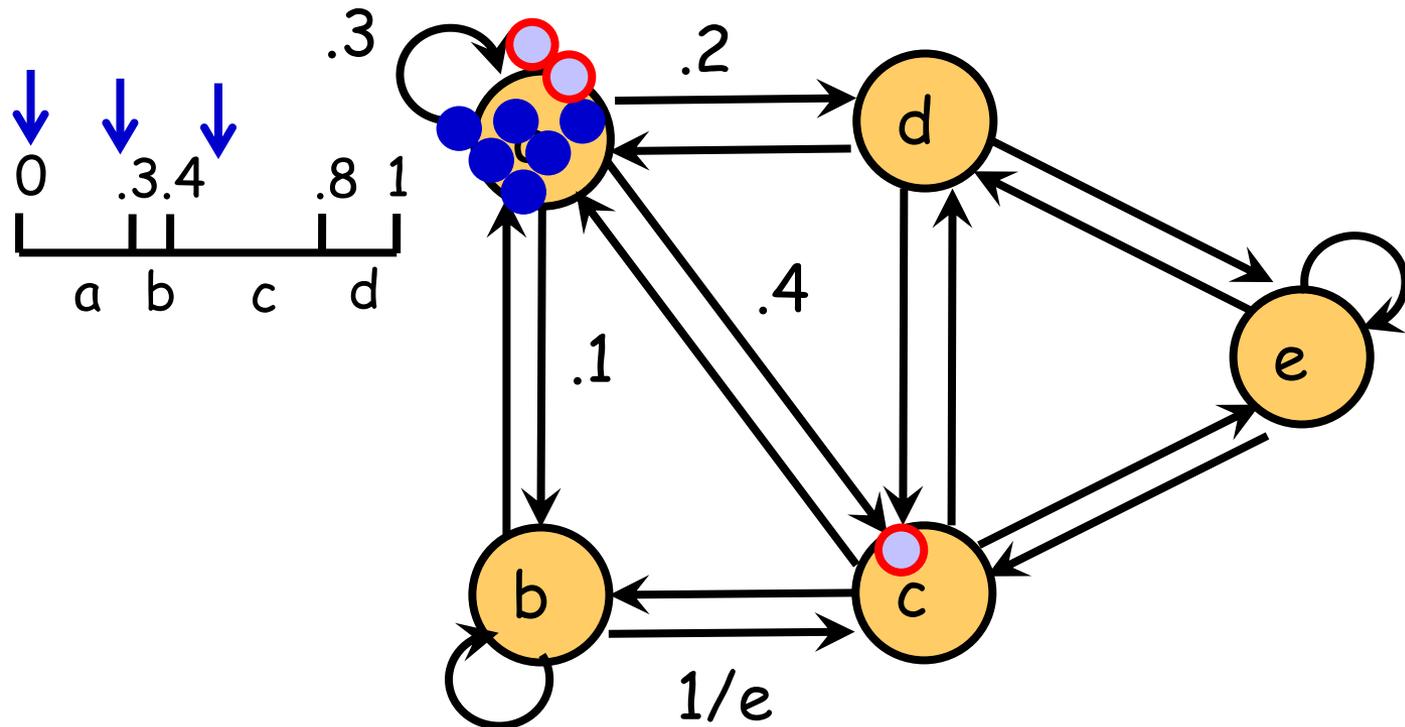


## 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが**決定的に**グラフ上を移動.

- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)

$$t \in (0, 1)$$

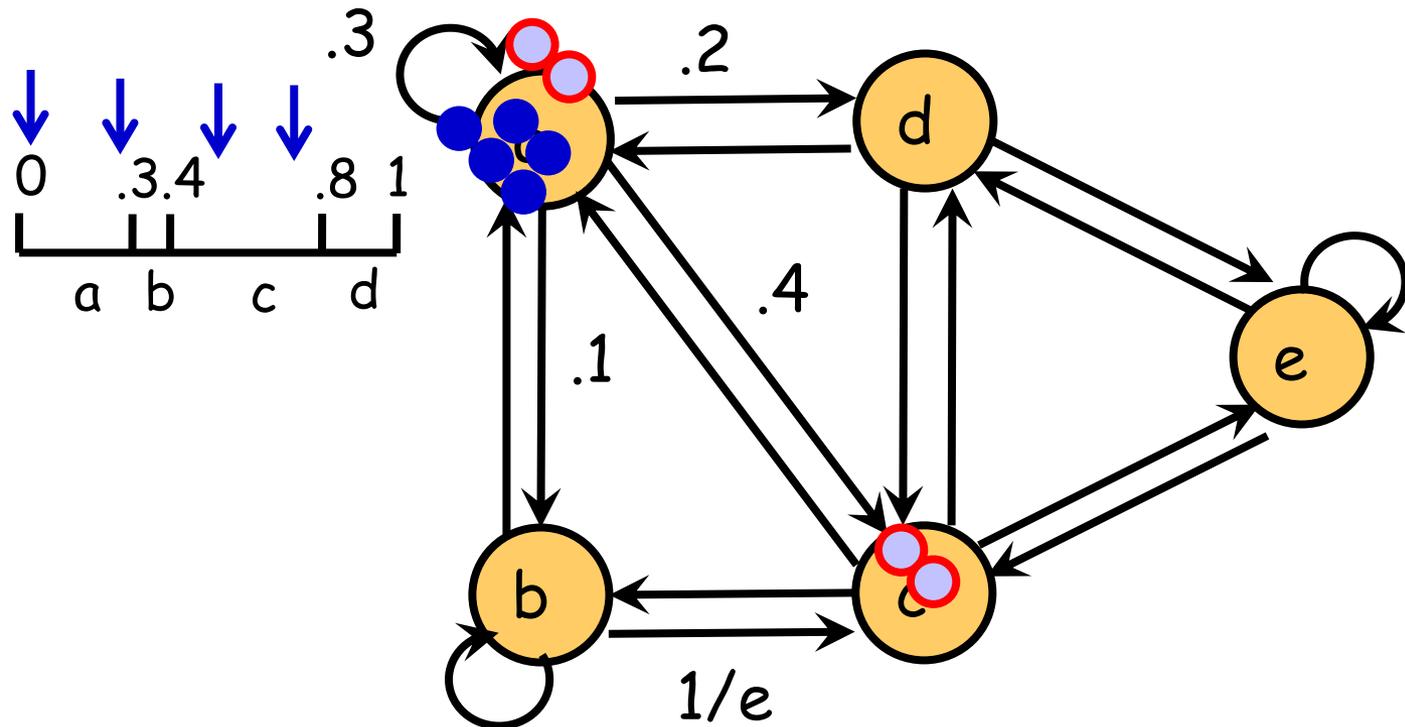


## 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが**決定的に**グラフ上を移動。

- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)

$t \in (0, 1)$

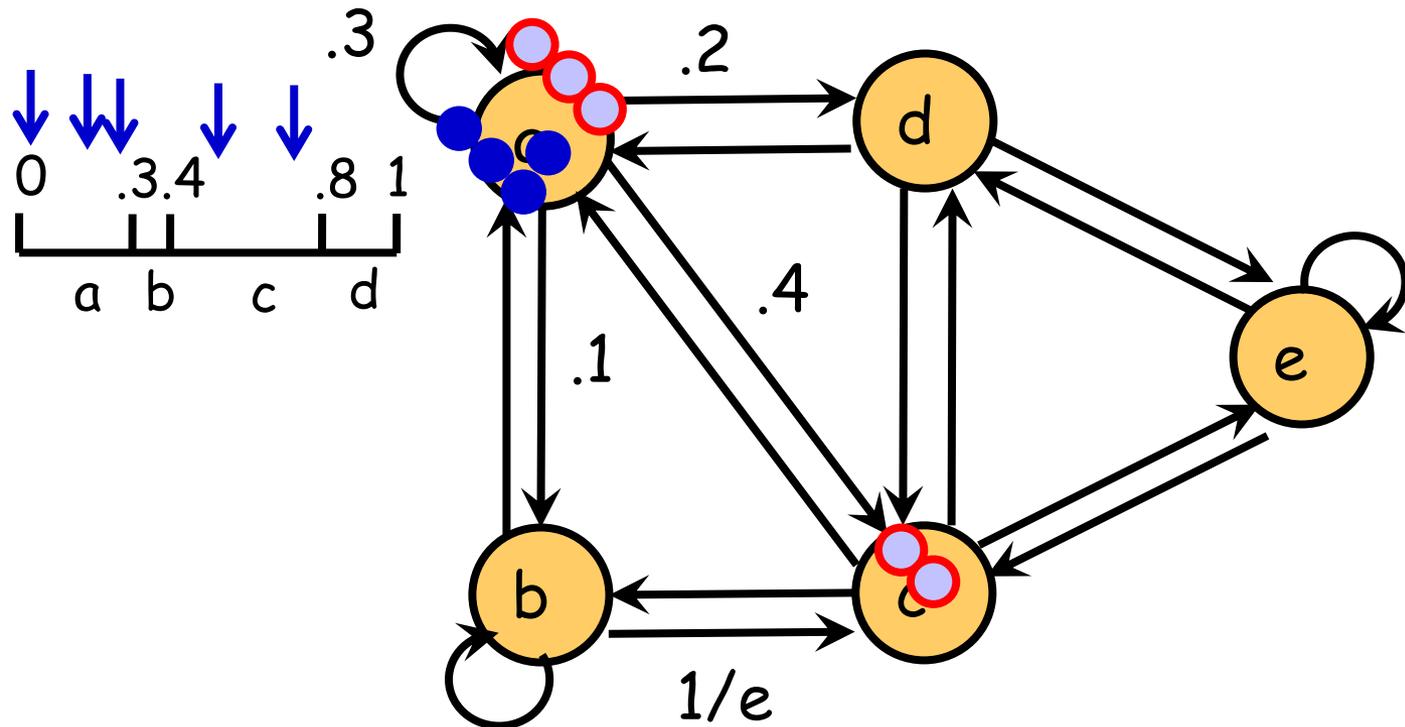


## 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが**決定的に**グラフ上を移動.

- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率 $P_{uv}$ を模倣)
- ✓ 時刻 $t$ の配置 $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)

$$t \in (0, 1)$$

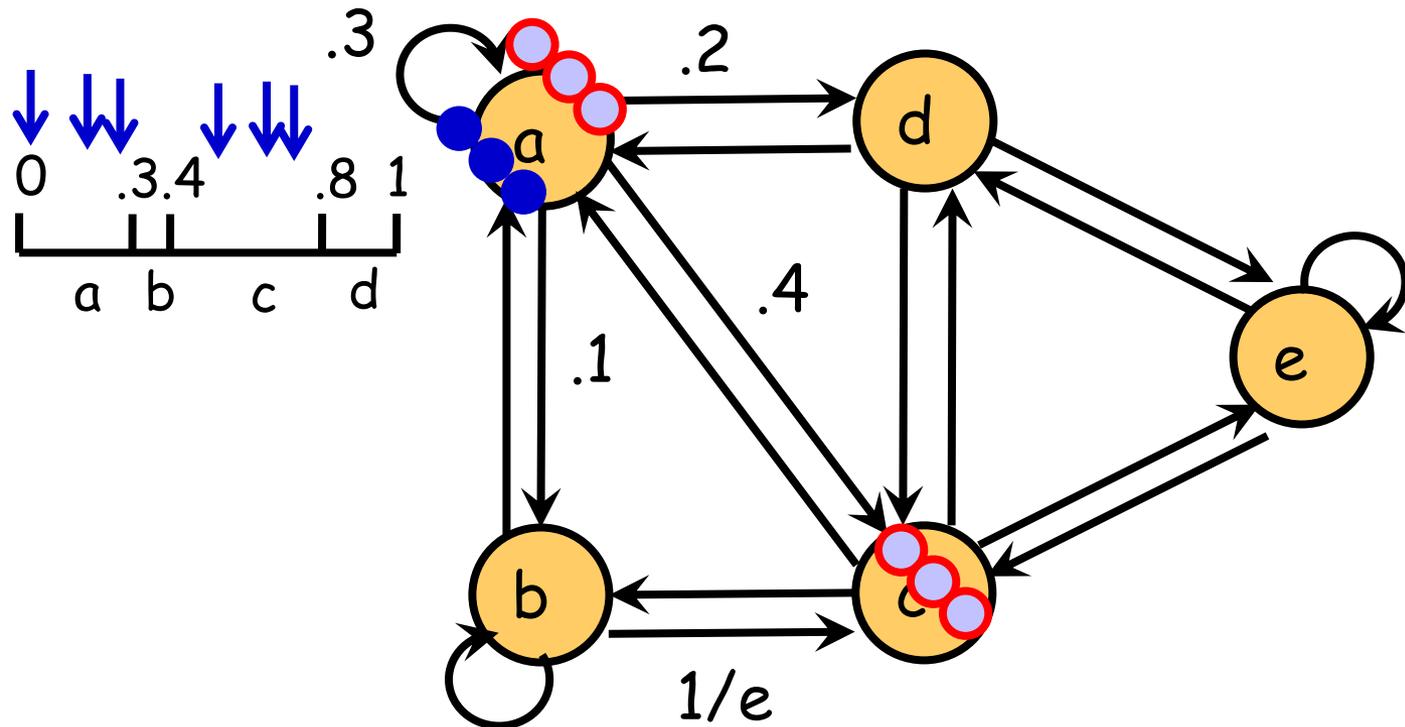


## 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが**決定的に**グラフ上を移動.

- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率 $P_{uv}$ を模倣)
- ✓ 時刻 $t$ の配置 $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)

$$t \in (0, 1)$$

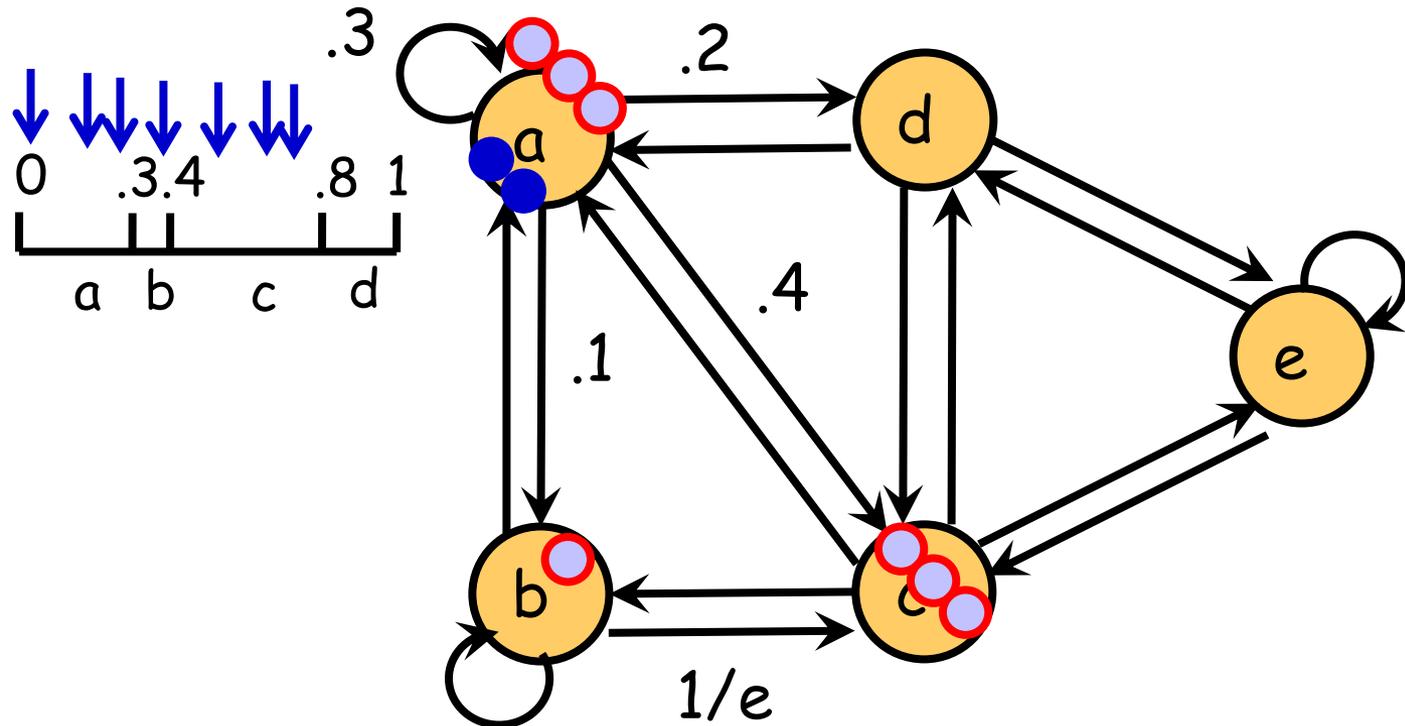


# 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが決定的にグラフ上を移動.

- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)

$$t \in (0, 1)$$

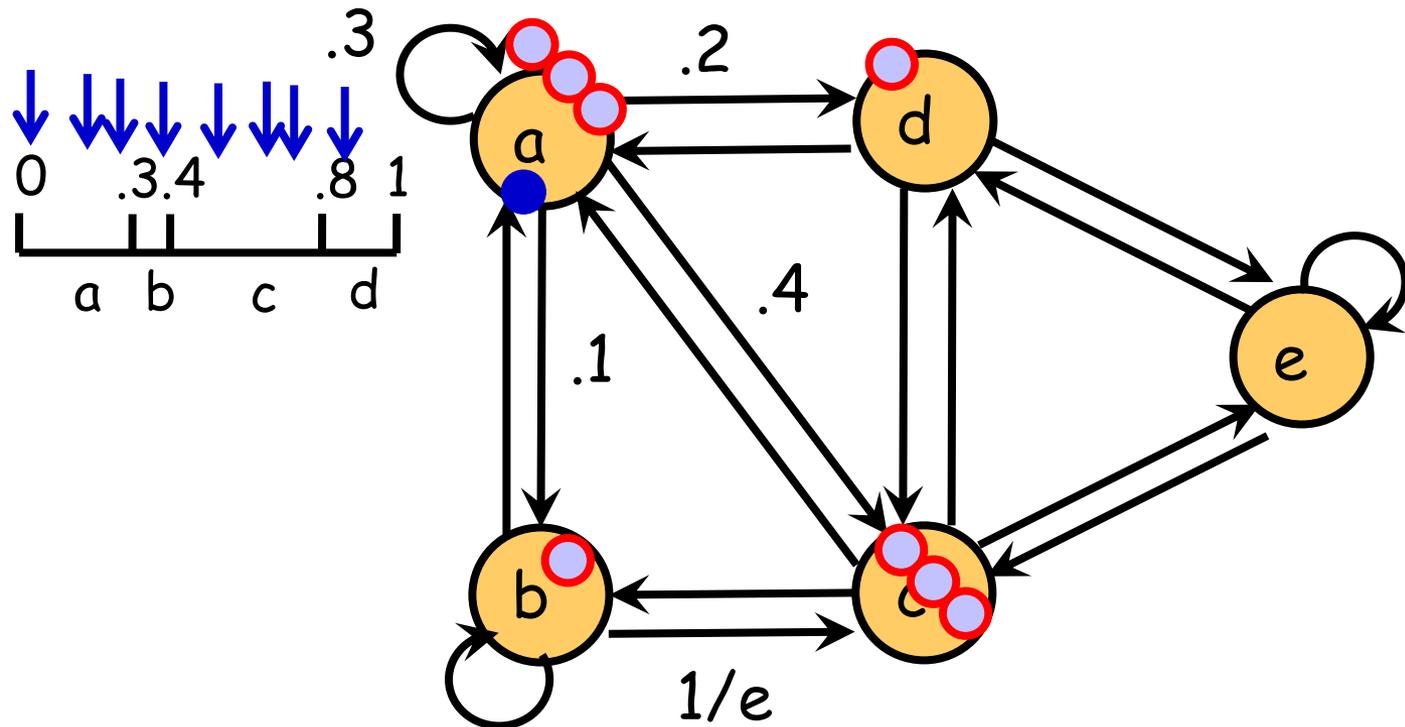


## 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが**決定的に**グラフ上を移動.

- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率 $P_{uv}$ を模倣)
- ✓ 時刻 $t$ の配置 $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)

$t \in (0, 1)$

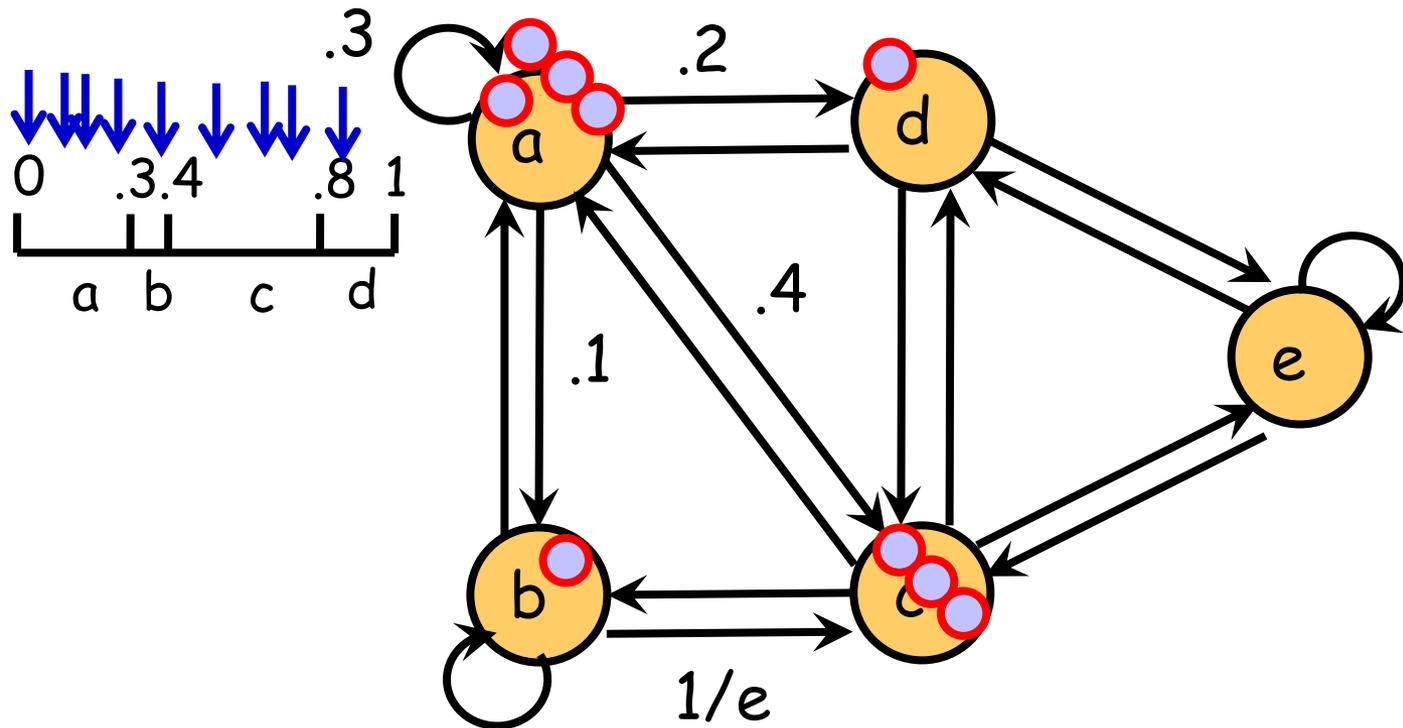


## 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが決定的にグラフ上を移動.

- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)

$t \in (0, 1)$

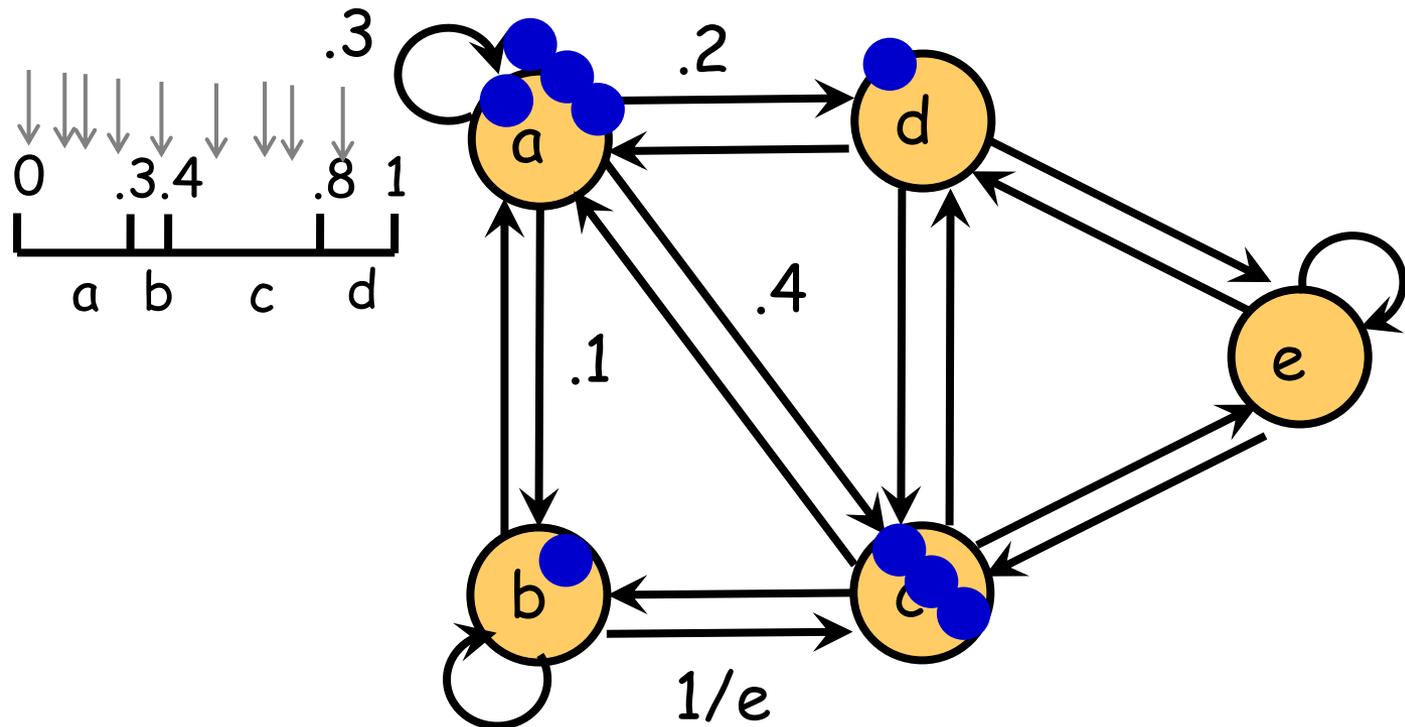


## 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが**決定的に**グラフ上を移動。

- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率 $P_{uv}$ を模倣)
- ✓ 時刻 $t$ の配置 $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)

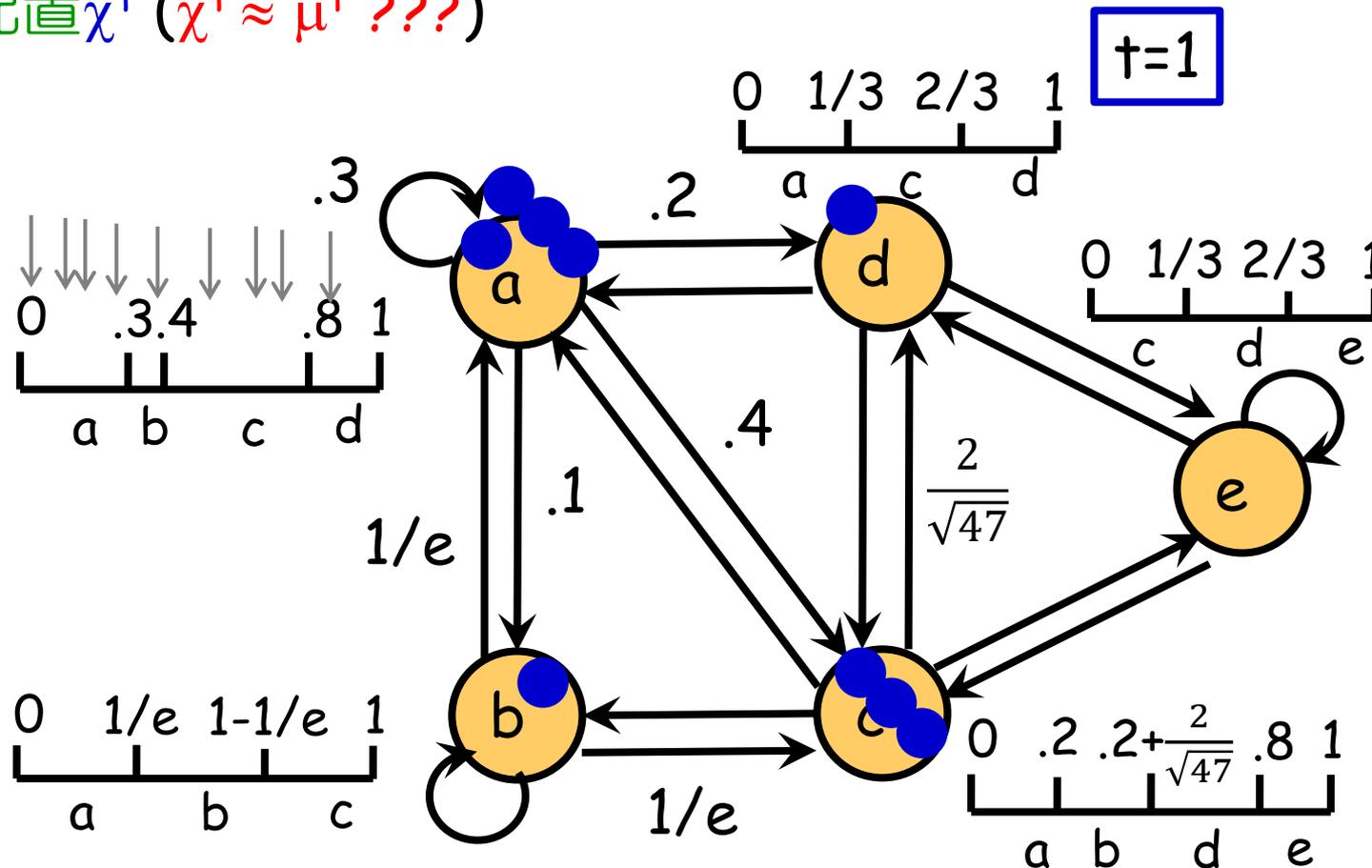
$t=1$



# 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが決定的にグラフ上を移動。

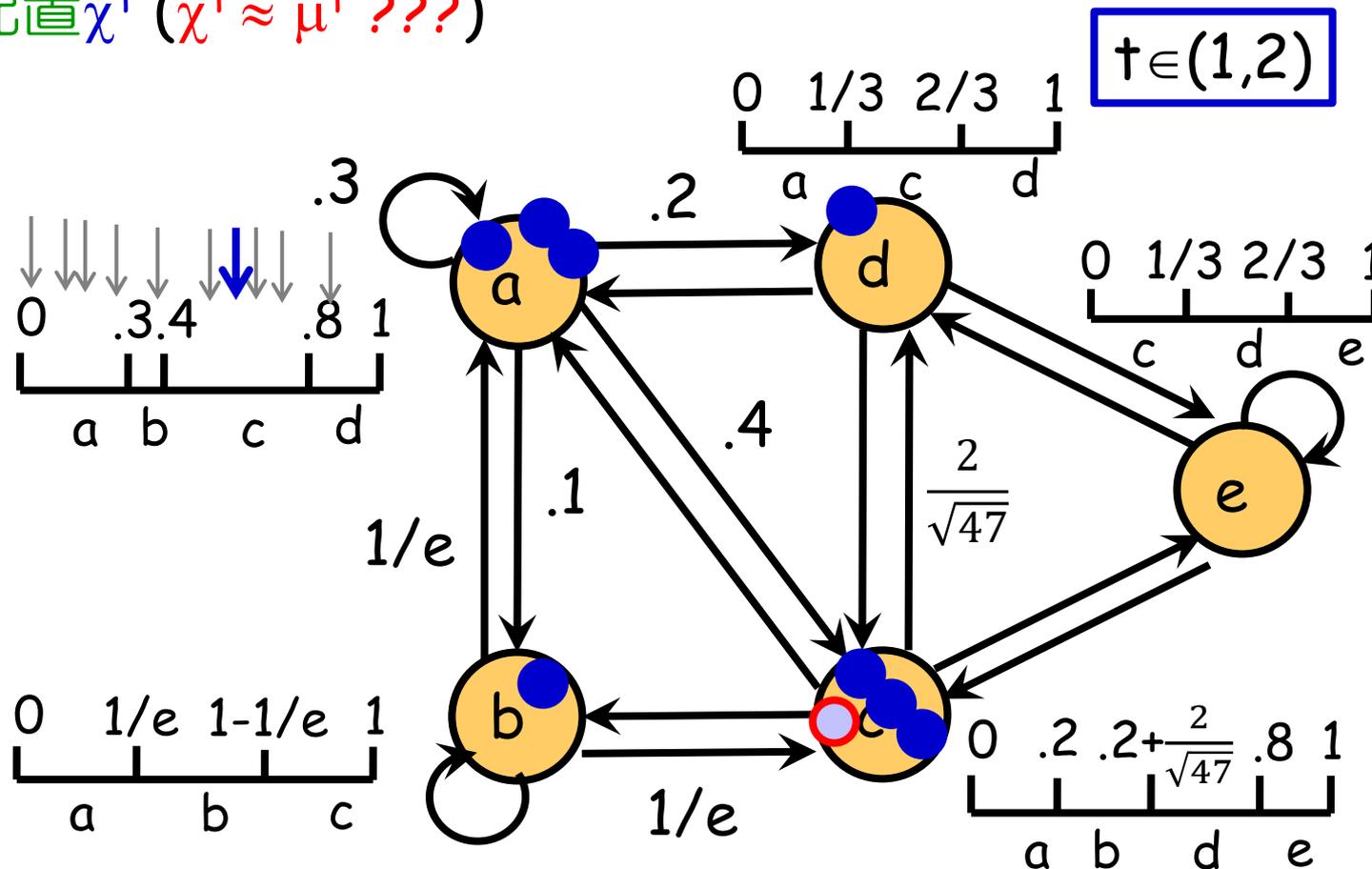
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



# 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが決定的にグラフ上を移動。

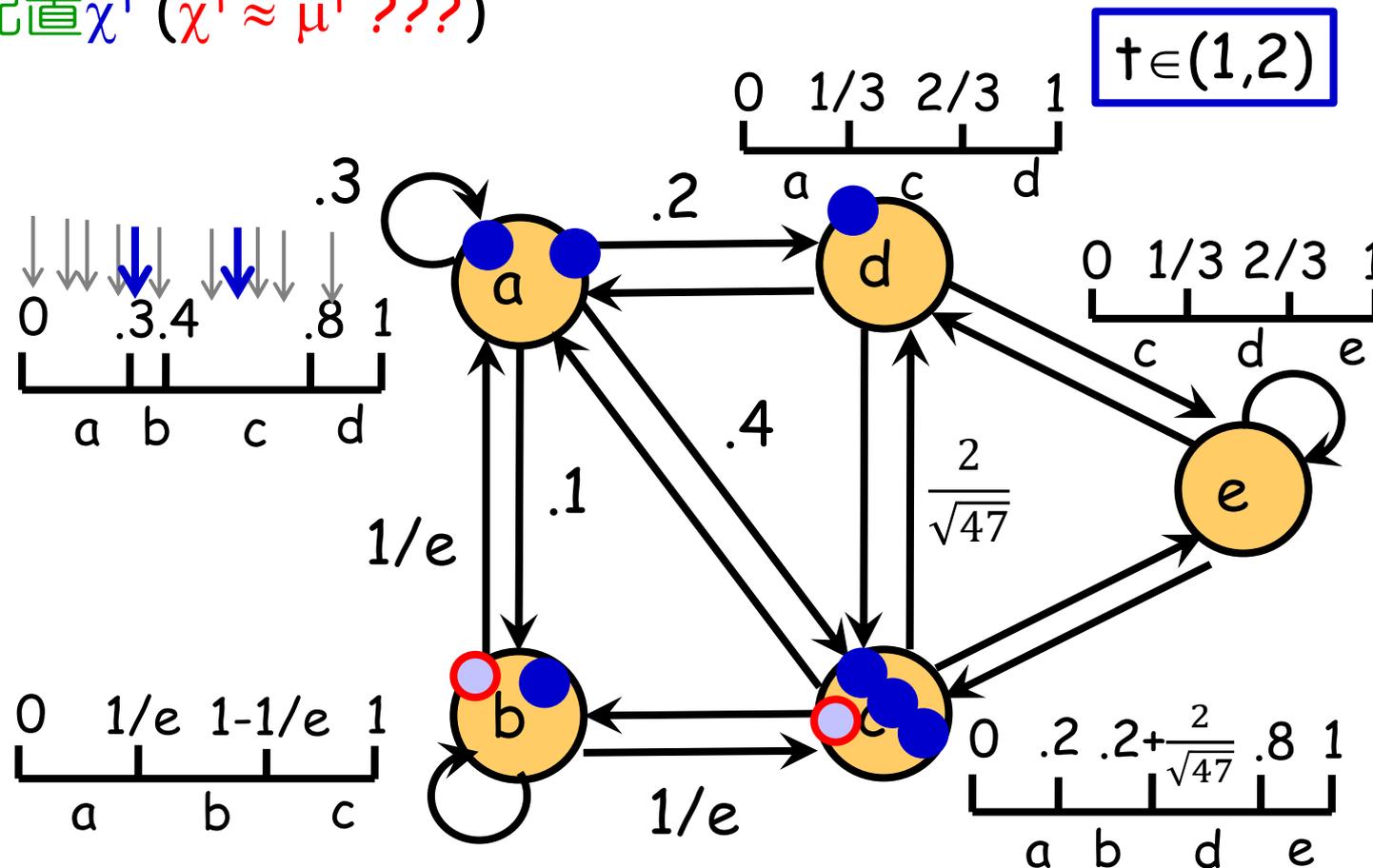
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



# 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが決定的にグラフ上を移動。

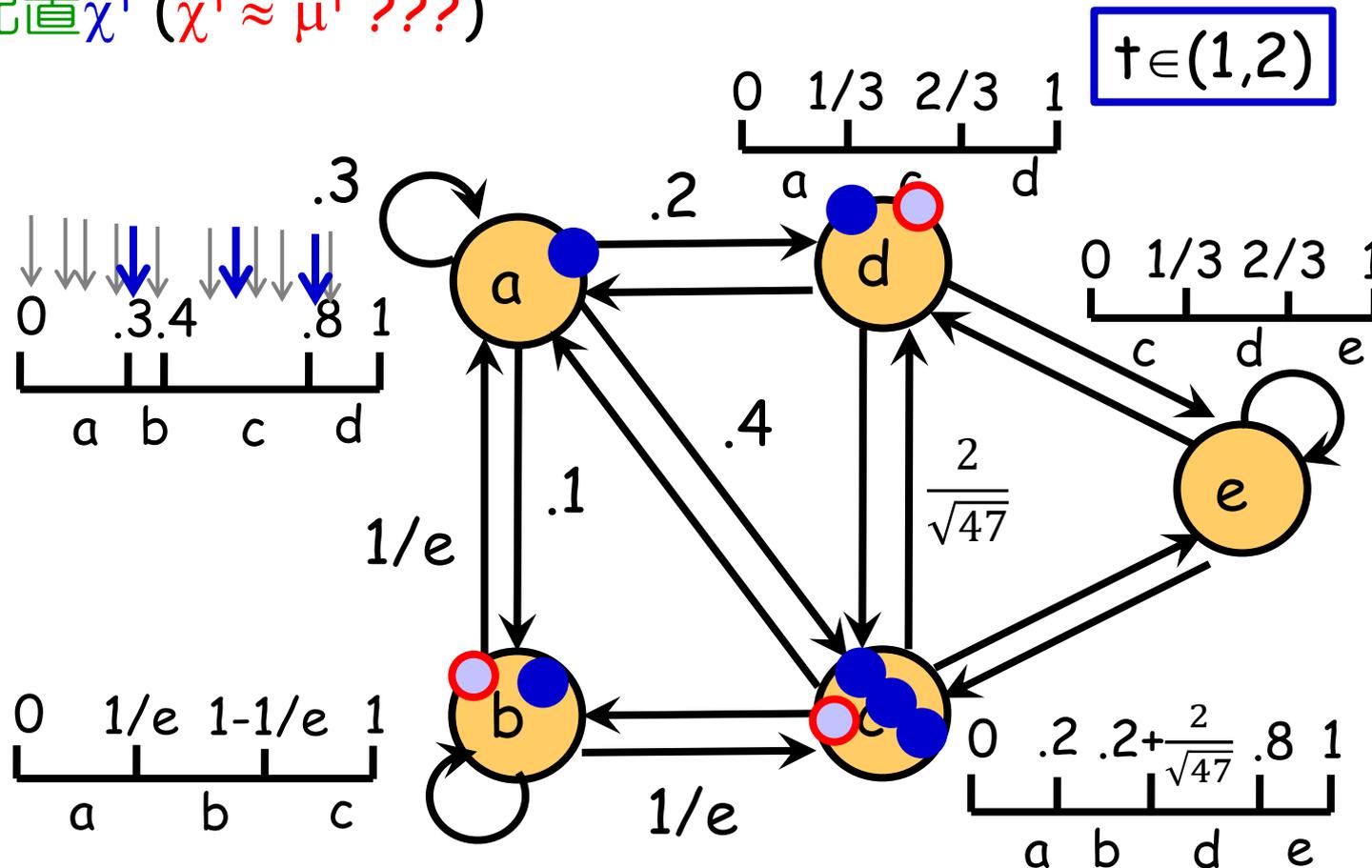
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



# 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが決定的にグラフ上を移動。

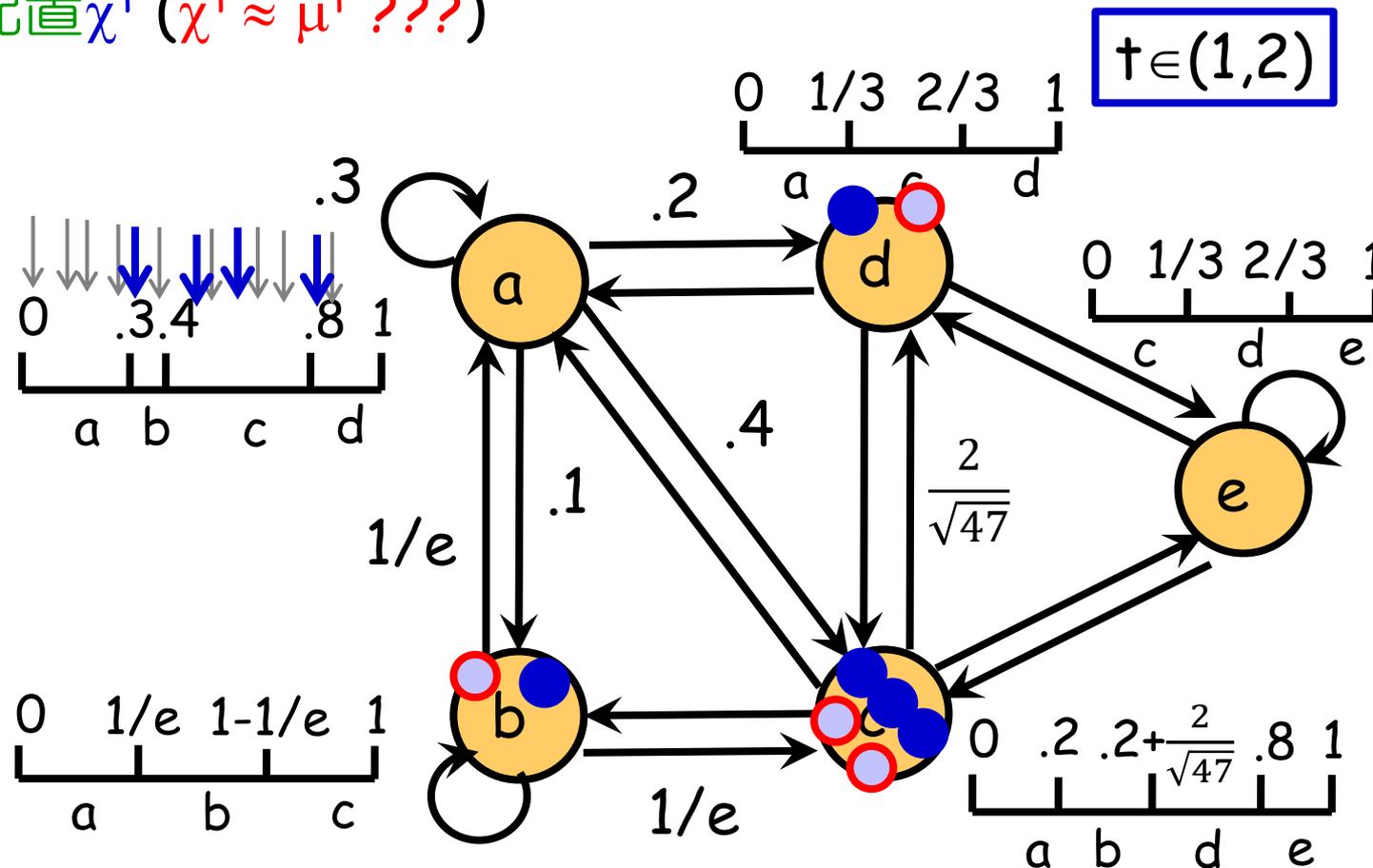
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



# 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが決定的にグラフ上を移動.

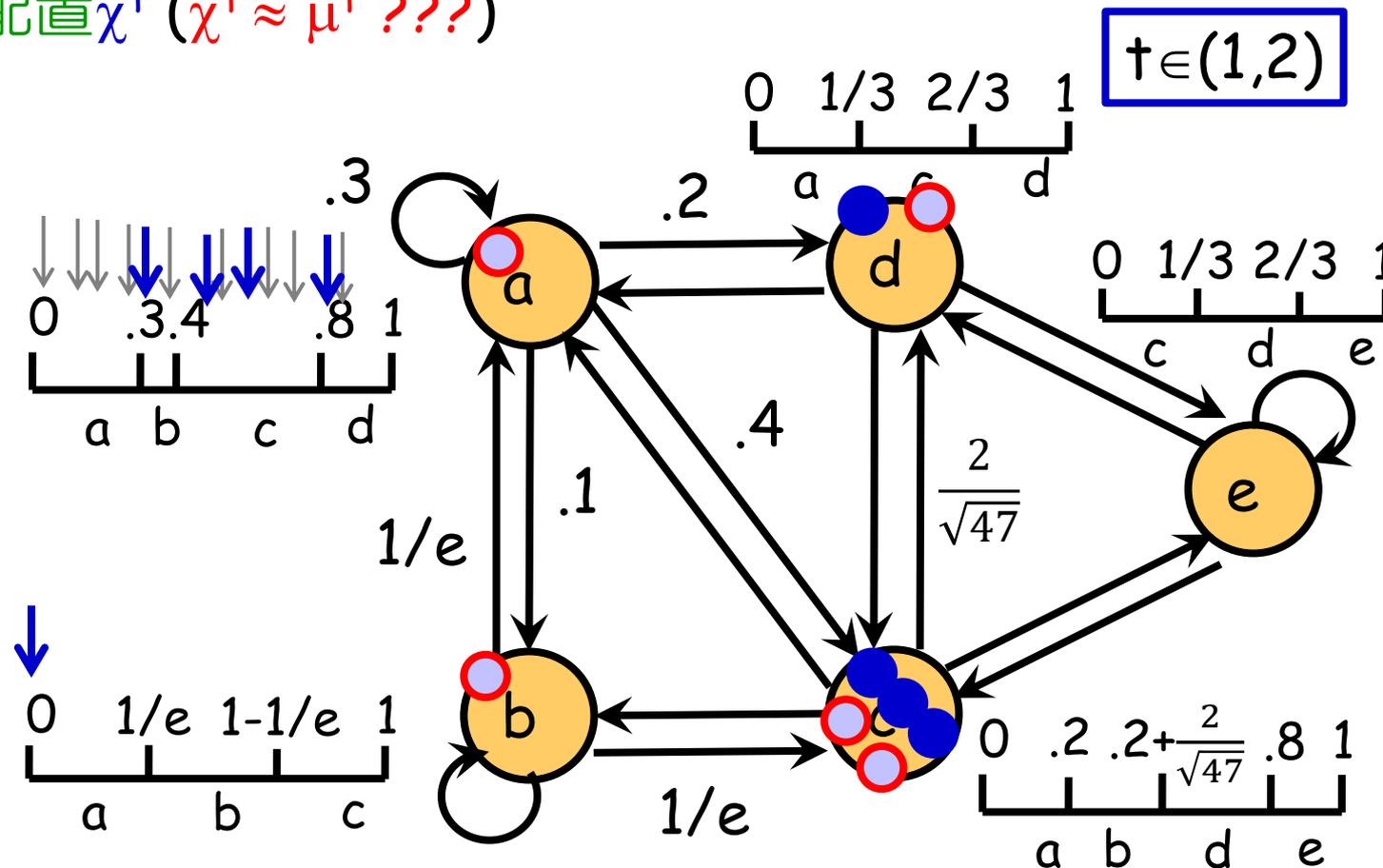
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : "関数ルーター" (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



# 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが決定的にグラフ上を移動.

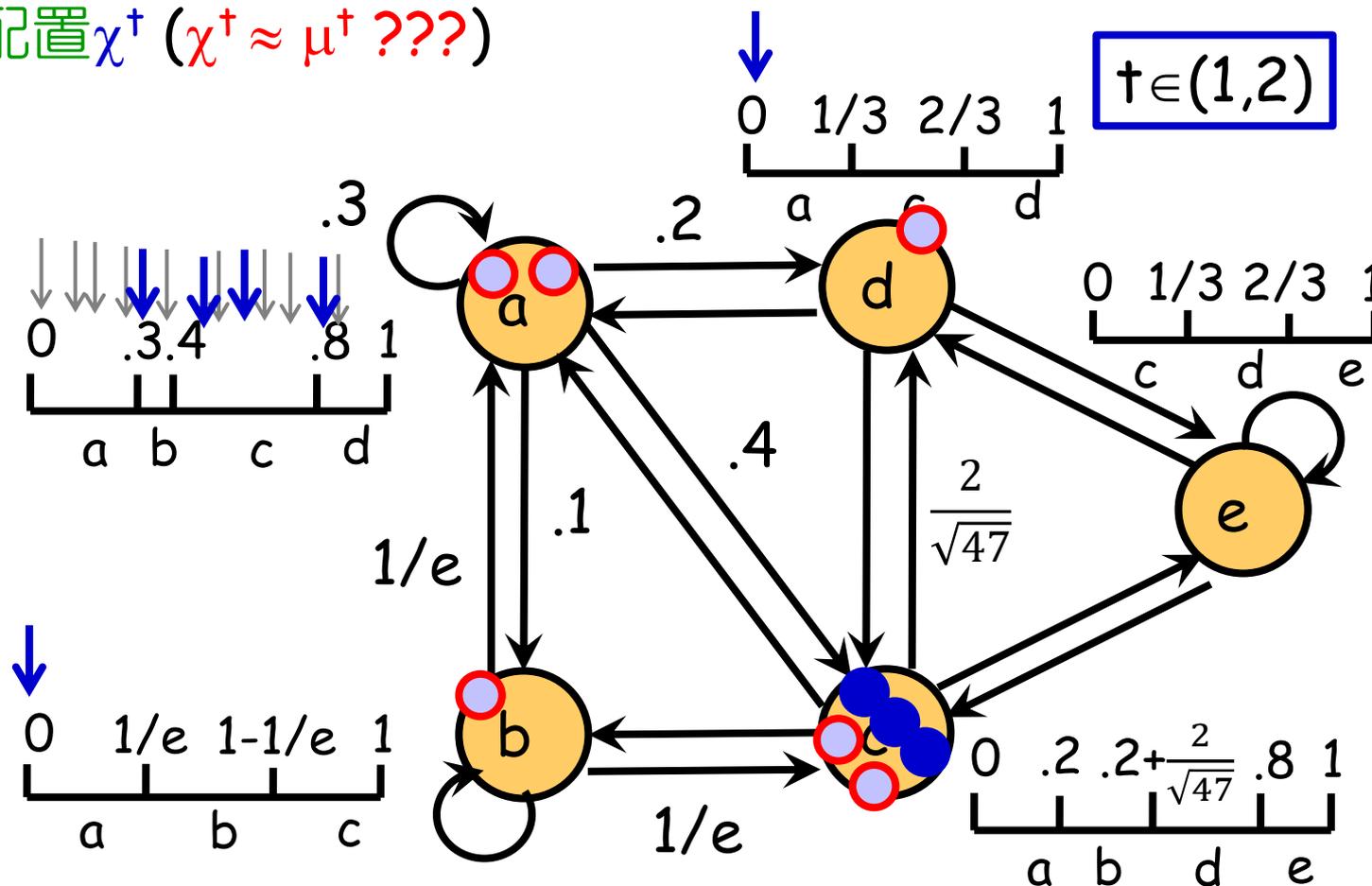
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : "関数ルーター" (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



# 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが決定的にグラフ上を移動。

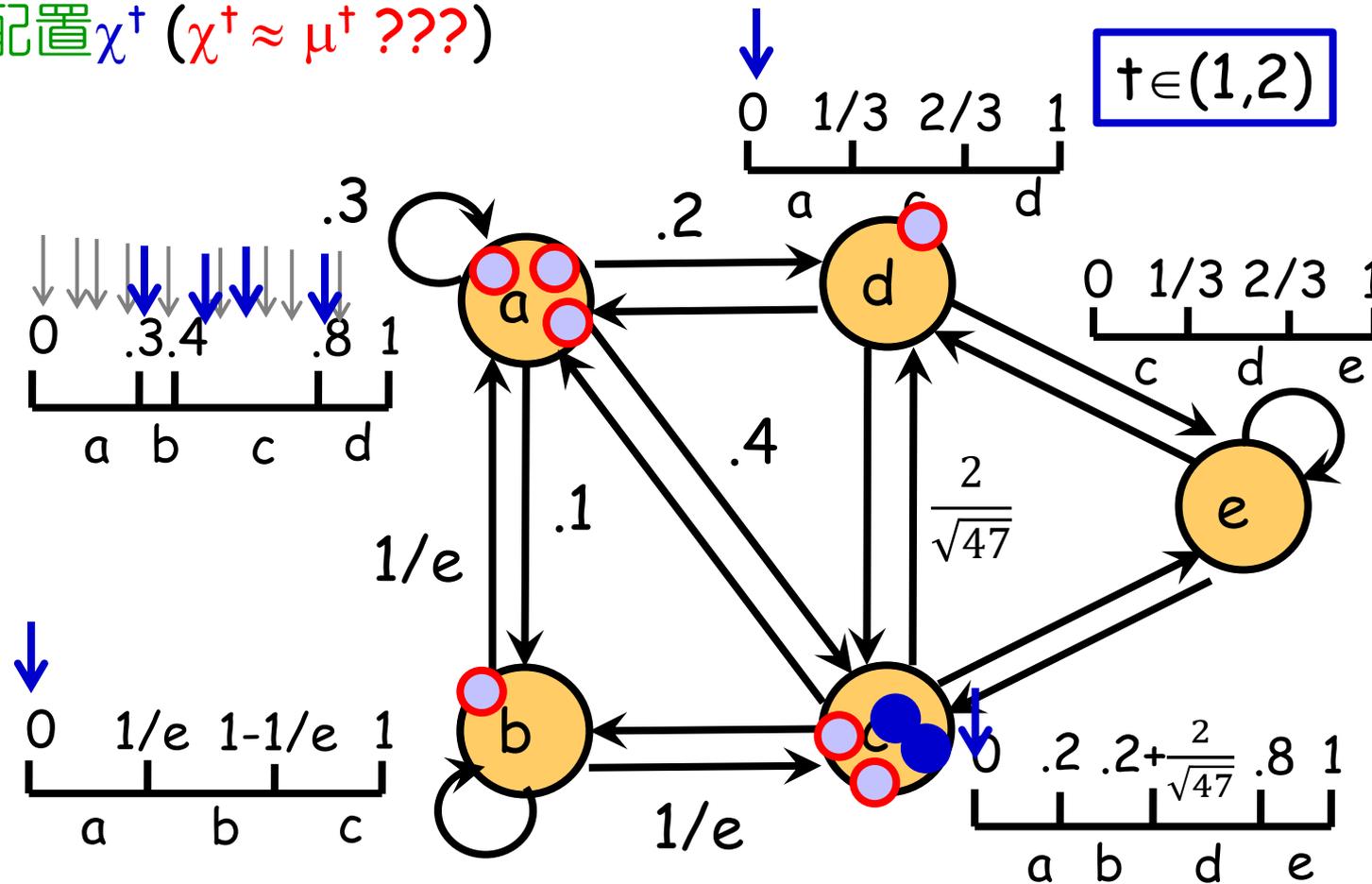
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



# 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが決定的にグラフ上を移動.

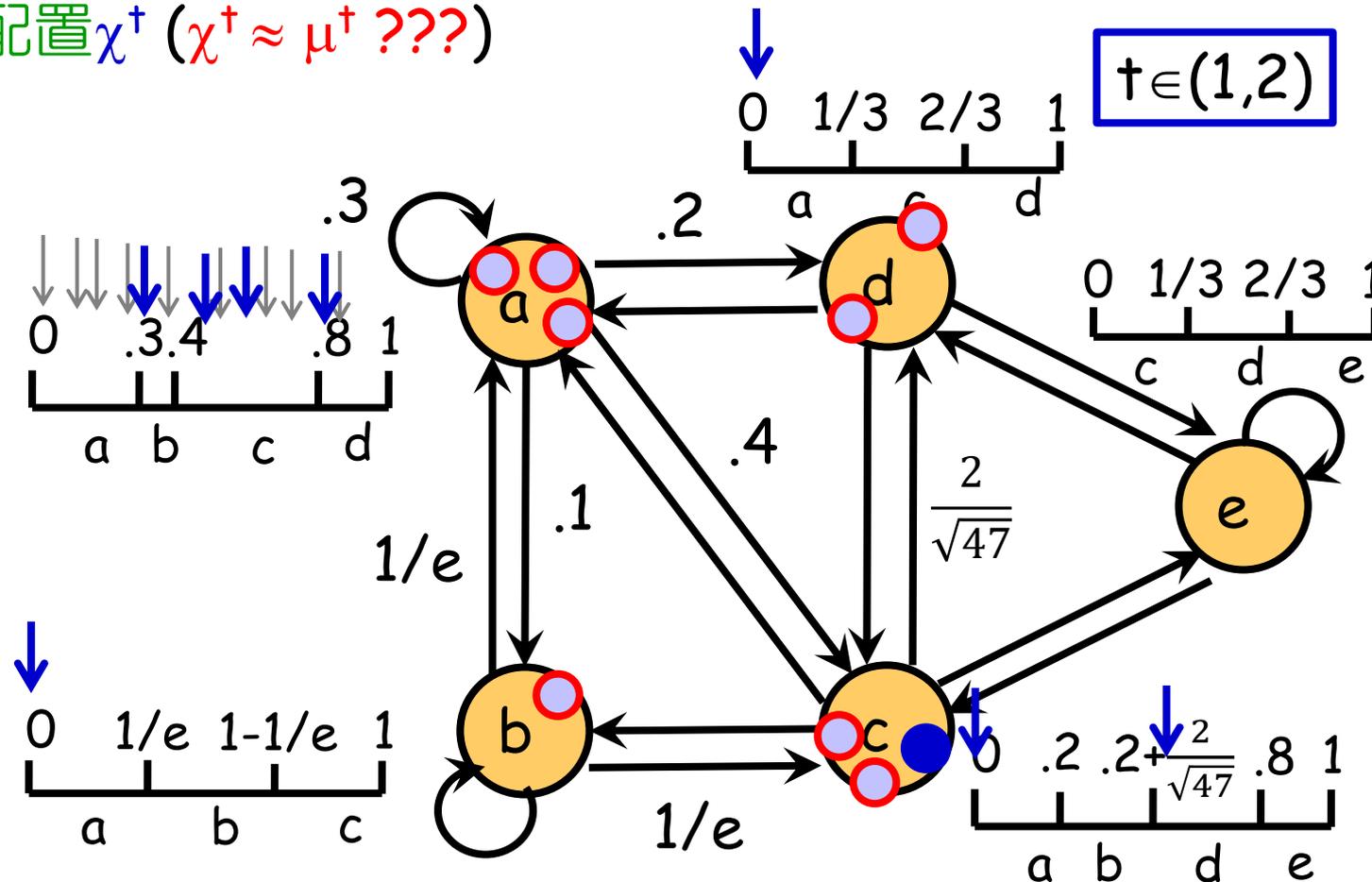
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : "関数ルーター" (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



# 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが決定的にグラフ上を移動。

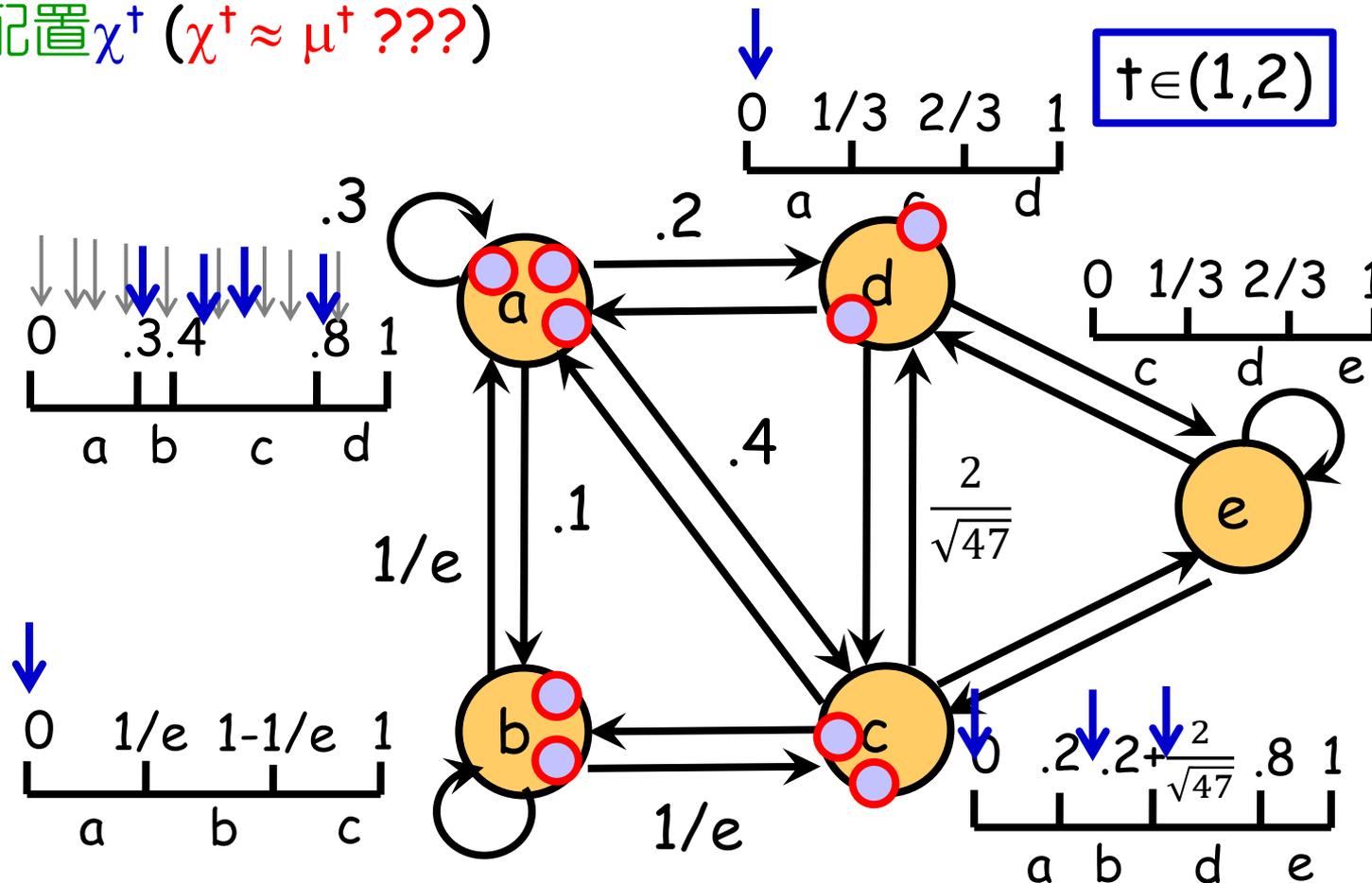
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



# 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが決定的にグラフ上を移動。

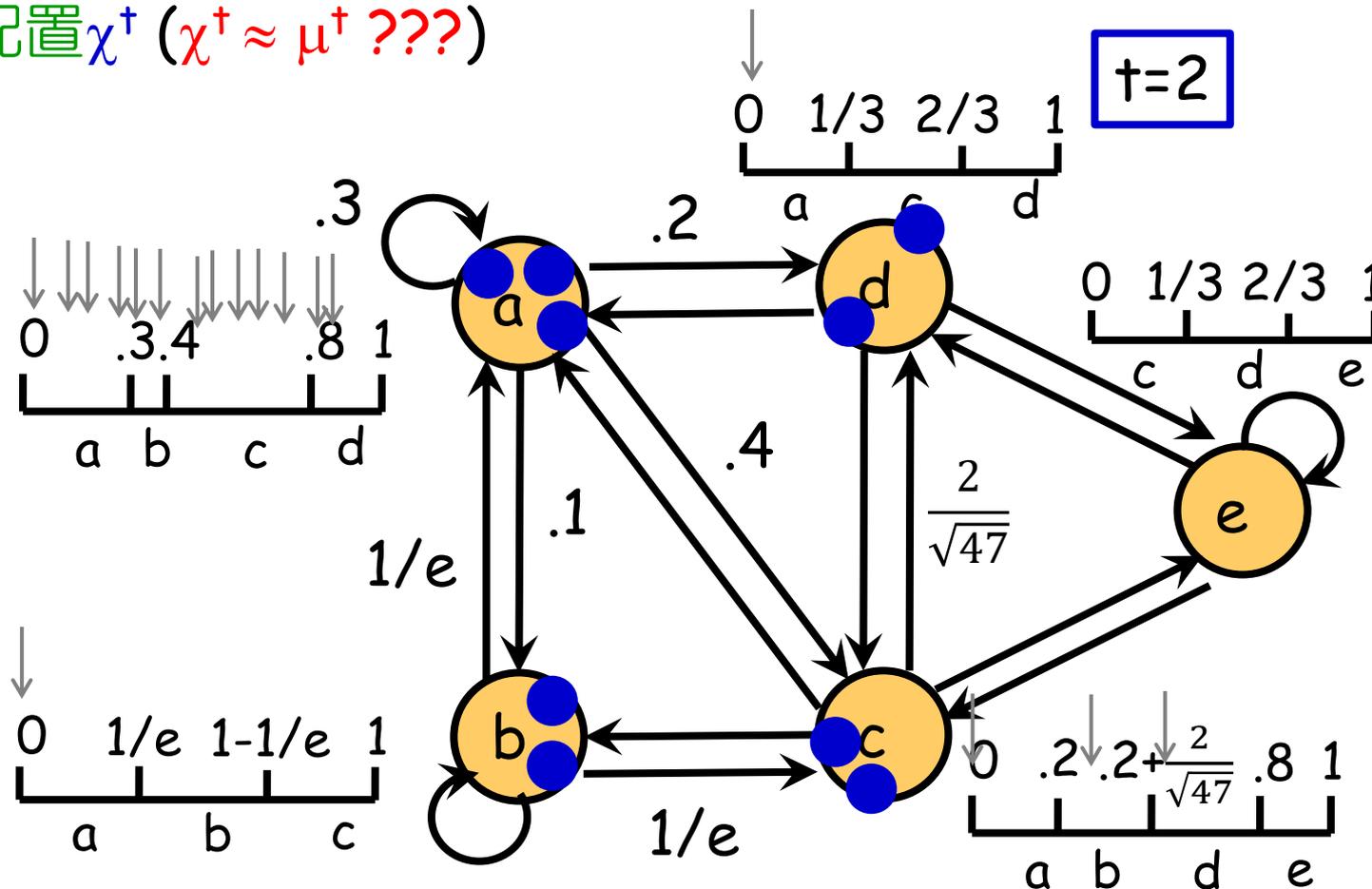
- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : “関数ルーター” (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



# 関数ルーターモデル

$N$ 個のトークンが決定的にグラフ上を移動.

- ✓  $\chi^0$ : 初期配置 ( $\chi^0 = \mu^0$ )
- ✓  $\sigma$ : "関数ルーター" (超一様分布列を用いて比率  $P_{uv}$  を模倣)
- ✓ 時刻  $t$  の配置  $\chi^t$  ( $\chi^t \approx \mu^t$  ???)



## van der Corput列の誤差

$|I_{u,v}[0, z)|$ : 頂点 $u$ から発射された  
総トークン数が $z$ 個の時,  
 $v$ に発射されたトークン数

### 定理

任意の行列 $P$ に対して,

$$\left| \frac{|I_{u,v}[0, z)|}{z} - P(u, v) \right| < \frac{2 \lceil \lg z \rceil + 2}{z} = O\left(\frac{\log z}{z}\right)$$

が任意の $u, v \in V$  および $z \in \mathbb{Z}_{z \geq 0}$ について成り立つ。

Unfortunately this bound is tight.

### 命題

ある行列 $P$ に対して, ある $u, v \in V$ で,

$$\left| \frac{|I_{u,v}[0, z)|}{z} - P(u, v) \right| > \frac{\lg\left(\frac{3}{4}z\right)}{3z} = \Omega\left(\frac{\log z}{z}\right)$$

が無数の $z \in \mathbb{Z}_{z \geq 0}$ について成り立つ。

## 下界の例

### 命題

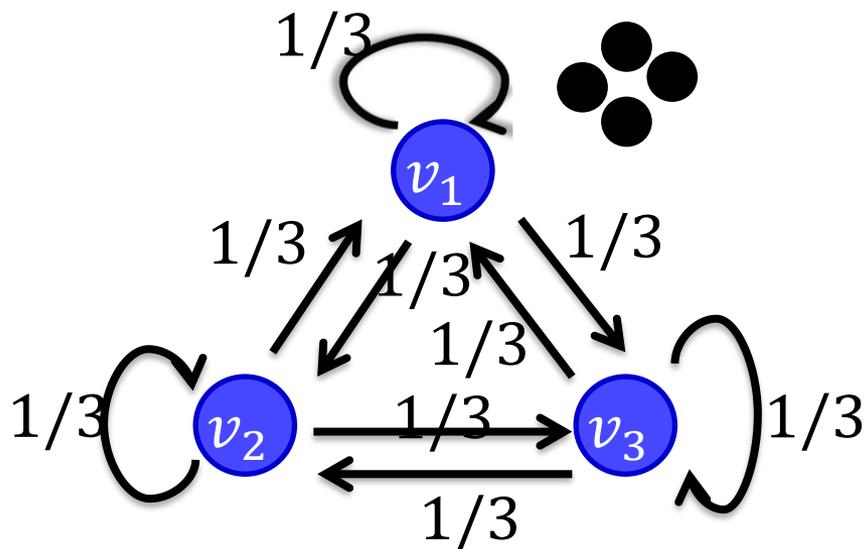
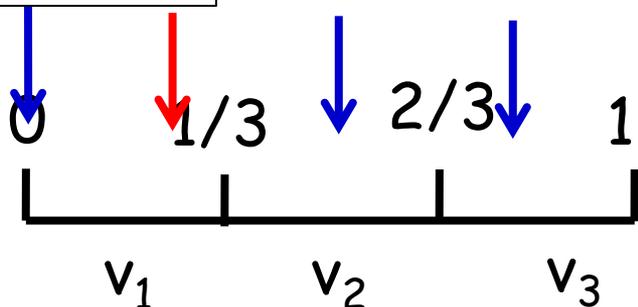
無数の  $M \in \mathbb{Z}_{>0}$  に対して  $|\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)}| > \lg\left(\frac{3}{4}M\right)$  の成り立つ例が存在する。

$K_3$  上の単純ランダムウォークを考える。

総トークン数を  $M := \sum_{l=1}^k 4^l$  ( $k \in \mathbb{Z}_{>0}$ ) とする。

このとき,  $4^l \equiv 1 \pmod{3}$   
( $4^l - 1 = 3(4^{l-1} + \dots + 1)$ )

直観的には



## 主定理

定理[白髪, 山内, K., 山下12+]

$P$ がエルゴード的で可逆の時,

任意の初期配置状態, 任意の  $w \in V$ , 任意の時刻  $t$  に対して

$$\left| \chi_w^{(t)} - \mu_w^{(t)} \right| < \sqrt{\frac{\pi(w)}{\pi_{\min}} \cdot \frac{m(n-1)}{1-\lambda^*}} \cdot 2(\lg M + 1)$$

が成り立つ。ただし,  $n=|V|$ ,  $m=|E|$ ,

$\lambda^*$ は $P$ の第2固有値,  $\pi$ は $P$ の定常分布,  $\pi_{\min} = \min_{v \in V} \pi(v)$  とする。

$P$ が可逆とは詳細釣り合の式

$$\pi(u) P(u, v) = \pi(v) P(v, u)$$

が任意の  $u, v \in V$  に成り立つことをいう

MCMC法では,  
しばしば仮定される。

## A sketch of proof (1/4)

$\chi_w^{(T)}$ : #tokens @  $w \in V$ , @ time  $T > 0$  in **detRW**  
 $\mu_w^{(T)}$ :  $E[\text{\#tokens}]$  @  $w \in V$ , @ time  $T > 0$  in **RW**

$Z_{v,u}^{(t)}$ : #tokens  $v \rightarrow u$  ( $v, u \in V$ ) during  $[t, t+1)$

Rem.  $\sum_{u \in N(v)} Z_{v,u}^{(t)} = \chi_v^{(t)}$

understanding [Cooper, Spencer2006]  
by transition matrix  $P$

### Lemma 1.

$$\chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)} = \sum_{t=0}^{T-1} \sum_{v \in V} \sum_{u \in N(v)} \left( Z_{v,u}^{(t)} - \chi_v^{(t)} P(v, u) \right) P^{T-t-1}(u, w)$$

Proof sketch.

$$\begin{aligned} \chi^{(T)} - \mu^{(T)} &= \chi^{(T)} - \mu^{(0)} P^T = \chi^{(T)} P^0 - \chi^{(0)} P^T \\ &= \sum_{t=0}^{T-1} \left( \chi^{(t+1)} P^{T-t-1} - \chi^{(t)} P^{T-t} \right) \\ &= \sum_{t=0}^{T-1} \left( \chi^{(t+1)} - \chi^{(t)} P \right) P^{T-t-1} \end{aligned}$$

Carefully considering each element, we obtain the claim. ■

## A sketch of proof (2/4)

It is known that

$\Pi^{1/2} P \Pi^{-1/2}$  is **symmetric** if  $P$  is **reversible**,

where  $\Pi^{1/2} = \text{diag}(\sqrt{\pi(1)}, \dots, \sqrt{\pi(n)})$ .

Thus,  $P$  is diagonalized as  $\Lambda = B^T \Pi^{1/2} P \Pi^{-1/2} B$ ,

where  $B$  is orthonormal, and each eigenvalue is real.

Then,

$$\begin{aligned} P^z(v, u) &= \mathbf{e}_v P^z \mathbf{e}_u = \mathbf{e}_v B^T \Pi^{-\frac{1}{2}} \Lambda^z \Pi^{\frac{1}{2}} B \mathbf{e}_u = \frac{1}{\sqrt{\pi(v)}} \mathbf{e}_v B^T \Lambda^z B \sqrt{\pi(u)} \mathbf{e}_u \\ &= \sqrt{\frac{\pi(u)}{\pi(v)}} \sum_{j=1}^n \mathbf{e}_v b_j^T (\lambda_j)^z b_j \mathbf{e}_u^T = \sqrt{\frac{\pi(u)}{\pi(v)}} \sum_{j=1}^n (\lambda_j)^z b_j(v) b_j(u) \end{aligned}$$

## A sketch of proof (3/4)

Lemma 2.

$$\sum_{u \in N(v)} \left( Z_{v,u}^{(t)} - \chi_v^{(t)} P(v, u) \right) \sqrt{\frac{\pi(w)}{\pi(u)}} b_1(v) b_1(u) = 0$$

since

$$b_1^\top = \left( \sqrt{\pi(1)}, \dots, \sqrt{\pi(n)} \right)^\top$$

holds.

## A sketch of proof (4/4)

$$\begin{aligned}
 & \left| \chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)} \right| \\
 &= \sum_{t=0}^{T-1} \sum_{v \in V} \sum_{u \in N(v)} \left( Z_{v,u}^{(t)} - \chi_v^{(t)} P(v, u) \right) P^{T-t-1}(u, w) \\
 &\leq \sum_{t=0}^{T-1} \sum_{v \in V} \sum_{u \in N(v)} \left| \left( Z_{v,u}^{(t)} - \chi_v^{(t)} P(v, u) \right) \sqrt{\frac{\pi(w)}{\pi(v)}} \sum_{j=1}^n (\lambda_j)^{T-t-1} b_j(v) b_j(u) \right| \\
 &\leq \frac{\sqrt{\pi(w)}}{\sqrt{\pi_{\min}}} \sum_{t=0}^{T-1} |\lambda_2|^{T-t-1} \sum_{v \in V} \sum_{u \in N(v)} \sum_{j=2}^n \left| \left( Z_{v,u}^{(t)} - \chi_v^{(t)} P(v, u) \right) \right| |b_j(v) b_j(u)| \\
 &\leq \frac{\sqrt{\pi(w)}}{\sqrt{\pi_{\min}}} \cdot \frac{1}{1 - \lambda_2} \sum_{v \in V} \sum_{u \in N(v)} \sum_{j=2}^n \left| \left( Z_{v,u}^{(t)} - \chi_v^{(t)} P(v, u) \right) \right| \\
 &\leq \frac{\sqrt{\pi(w)}}{\sqrt{\pi_{\min}}} \cdot \frac{m(n-1)}{1 - \lambda_2} \cdot 2(\lg M + 1)
 \end{aligned}$$

by Lemma 1

by "reversible"

note:  $\lambda_1=1$

## Main Thm.

Thm. [Shiraga, Yamauchi, K., Yamashita 12+]

If  $P$  is ergodic and **reversible**, then

for any **ini. config.**, for any  $w \in V$ , for any time  $t$ ,

$$\left| \chi_w^{(T)} - \mu_w^{(T)} \right| < \sqrt{\frac{\pi_w}{\pi_{\min}} \cdot \frac{m(n-1)}{1-\lambda^*} \cdot 2(\lg M + 1)}$$

holds where,  $n=|V|$ ,  $m=|E|$ ,  $M=\#\text{tokens} (=|\chi^{(0)}|)$

$\lambda^*$  is the second largest eigenvalue of  $P$ , and

$\pi$  is the stationary distribution.

$P$  is **reversible** if the "detailed balance equation"

$$\pi(u) P(u,v) = \pi(v) P(v,u)$$

holds for any  $u,v \in V$ .

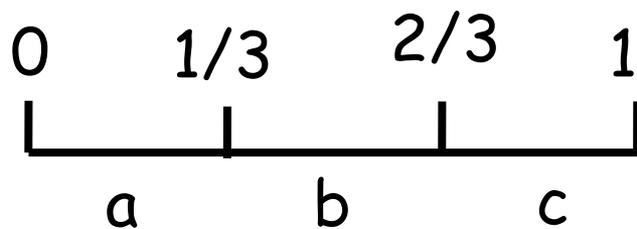
often assumed  
in the context of MCMC

## 注意

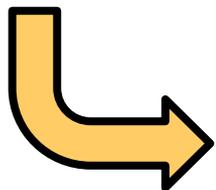
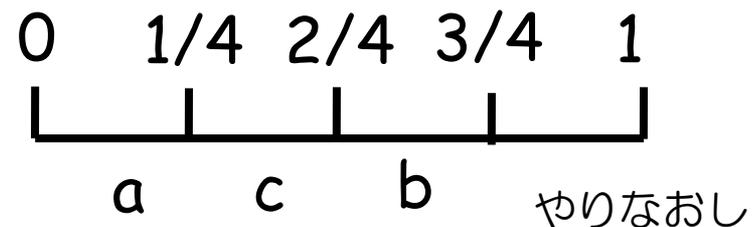
“棄却サンプリング”のアイデアに基づいて、  
関数ルーター (の変種) が **ロータールーター** に一致する  
(ただし、推移確率行列は有理数とする。)

ロータールーター:  $\rho = \langle a, b, c \rangle$

(素朴な) 関数ルーター



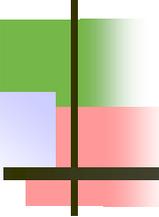
(変形) 関数ルーター



“関数ルーター” はロータールーターの一般化モデル

## 参考文献

- Shuji Kijima, Kentaro Koga and Kazuhisa Makino, Deterministic random walks on finite graphs, *Random Structures & Algorithms*, 46(4): 739--761, 2015.
- Takeharu Shiraga, Yukiko Yamauchi, Shuji Kijima and Masafumi Yamashita, Deterministic random walks for rapidly mixing chains, *SIAM Journal on Discrete Mathematics*, 32(3):2180--2193, 2018.
- Takeharu Shiraga, Yukiko Yamauchi, Shuji Kijima and Masafumi Yamashita, Total variation discrepancy of deterministic random walks for ergodic Markov chains, *Theoretical Computer Science*, 699:63--74, 2017.



*The end*

---

*Thank you for the attention.*